

第一節 總則

第三百三條 先取特權者ハ本法其他ノ法律規定ニ從ヒ其債務者ノ財産ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第三百四條 先取特權ハ其目的物ノ賣却、質貸、溺失又ハ毀損ニ因リテ債務者カ受クヘキ金錢其ノ他物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但先取特權者ハ其拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要ス債務者カ先取特權ノ目的物ノ上ニ設定シタル物權ノ對價ニ付キ亦同シ

第三百五條 第二百九十六條ノ規定ハ先取特權ニ之ヲ準用ス

第二節 先取特權ノ種類

第一款 一般ノ先取特權

第三百六條 左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ總財産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 共益費用
- 二 葬式ノ費用
- 三 雇人ノ給料
- 四 日用品ノ供給

第三百七條 共益費用ノ先取特權ハ各債權者間ノ共同、利益ノ爲メニ爲シタル債務權ノ財産ノ保存清算又ハ配當ニ關スル費用ニ付キ存在ス

前項ノ費用中總債權者ニ共益ナラザリシモノニ付テハ先取特權ハ其費用ノ爲メ利益ヲ受ケタル債權者ニ對シテノミ存在ス

第三百八條 葬式費用ノ先取特權ハ債務者ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付キ存在ス

前項ノ先取特權ハ債務者カ其扶養スヘキ親族又ハ家族ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付テモ亦存在ス

第三百九條 雇人給料ノ先取特權ハ債務者ノ雇人カ受クヘキ最後ノ六ヶ月間ノ給料ニ付存在ス但其金額ハ五十圓ヲ限トス

第三百十條 日用品供給ノ先取特權ハ債務者又ハ其扶養スヘキ同居ノ親族並ニ家族及ヒ其僕婢ノ生活ニ必要ナル最後ノ六ヶ月間ノ飲食品及ヒ薪炭油ノ供給ニ付キ存在ス

第二款 動産ノ先取特權

第三百十一條 左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ特定動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 不動産ノ賃貸借

改正民法

- 二 旅店ノ宿泊
 - 三 旅客ノ又ハ荷物ノ運輸
 - 四 公吏ノ職務上ノ過失
 - 五 動産ノ保存
 - 六 動産ノ賣買
 - 七 種苗又ハ肥料ノ供給
 - 八 農工業ノ勞役
- 第三百十二條** 不動産賃貸ノ先取特權ハ其不動産ノ借賃其他賃貸借關係ヨリ生シタル貸借人ノ債務ニ付キ貸借人ノ動産ノ上ニ保存ス
- 第三百十三條** 土地ノ賃貸人ノ先取特權ハ賃借地又ハ其利用ノ爲メニスル建物ニ備附タル動産、其土地ノ利用ニ供シタル動産及ヒ賃借人ノ占有ニ在ル其土地ノ果實ノ上ニ存在ス
- 建物ノ賃貸人ノ先取特權ハ賃借人カ其建物ニ備附ケタル動産ノ上ニ存在ス
- 第三百十四條** 賃借權ノ讓渡又ハ轉貸ノ場合ニ於テハ賃貸人ノ先取特權ハ讓受人又ハ轉借人ノ動産ニ及フ讓渡人又ハ轉貸人カ受クヘキ金額ニ付キ亦同シ

- 第三百十五條** 賃借人ノ財産ノ總清算ノ場合ニ於テハ賃貸人ノ先取特權ハ前期當期及ヒ次期ノ借賃其他ノ債務及ヒ前期並ニ當期ニ於テ生シタル損害ノ賠償ニ付テノミ存在ス
- 第三百十六條** 賃貸人カ敷金ヲ受取リタル場合ニ於テハ其敷金ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ先取特權ヲ有ス
- 第三百十七條** 旅店宿泊ノ先取特權ハ旅客其從者及ヒ牛馬ノ宿泊料並ニ飲食料ニ付キ其旅店ニ存スル荷物ノ上ニ存在ス
- 第三百十八條** 運輸ノ先取特權ハ旅客又ハ荷物ノ運送賃及ヒ附隨ノ費用ニ付キ運送人ノ手ニ存スル荷物ノ上ニ存在ス
- 第三百十九條** 第百九十二條乃至第百九十五條ノ規定ハ前七條ノ先取特權ニ之ヲ準用ス
- 第三百二十條** 公吏保証金ノ先取特權ハ保証金ヲ供シタル公吏ノ職務上ノ過失ニ因リテ生シタル債權ニ付キ其保証金ノ上ニ存在ス
- 第三百二十一條** 動産保存ノ先取特權ハ動産ノ保存費ニ付キ其動産ノ上ニ存在ス
- 前項ノ先取特權ハ動産ニ關スル權利ヲ保存ス追認又ハ實行セシムル爲メニ要シタル費用ニ付テモ亦存在ス

第三百二十二條 動産賣買ノ先取特權ハ動産ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其動産ノ上ニ存在ス

第三百二十三條 種苗肥料供給ノ先取特權ハ種苗又ハ肥料ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其種苗又ハ肥料ヲ用非タル後一年内ニ之ヲ用非タル土地ヨリ生シタル果實ノ上ニ存在ス
前項ノ先取特權ハ蠶種又ハ蠶ノ飼養ニ供シタル桑葉ノ供給ニ付キ其蠶種又ハ桑葉ヨリ生シタル物ノ上ニモ亦存在ス

第三百二十四條 農工業勞役ノ先取特權ハ農業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ一年間工業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ三個月間ノ賃金ニ付キ其勞役ニ因リテ生シタル果實又ハ製作場ノ上ニ存在ス

第三款 不動産ノ先取特權

第三百二十五條 左ニ掲タル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ特定不動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 不動産ノ存在
- 二 不動産ノ工事
- 三 不動産ノ賣買

第三百二十六條 不動産保存ノ先取特權ハ不動産ノ保存費ニ付キ其不動

産ノ上ニ存在ス

第三百二十七條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十八條 不動産ニ關シテ爲シタル工事ノ費用ニ付キ其不動産ノ上ニ存在ス
前項ノ先取特權ハ工事ニ因リテ生シタル不動産ノ増價力現存スル場合ニ限リ其増價額ニ付テノミ存在ス

第三百二十九條 不動産賣買ノ先取特權ハ不動産ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其不動産ノ上ニ存在ス

第三節 先取特權ノ順位

第三百三十條 一般ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テ其優先權ノ順位ハ第三百六條ニ掲ケタル順序ニ從フ

一般ノ先取特權ト特別ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テ特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先ツ但共益特權ノ先取特權ハ其利益ヲ受ケタル總債權者ニ對シテ優先ノ效力ヲ有ス

第三百三十一條 同一ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位左ノ如シ

第一 不動産賃貸、旅店宿泊及ヒ運輸ノ先取特權

改正民法

第二 動産保存ノ先取特權但數人ノ保存者アリタルトキハ後ノ保存者ハ前ノ保存者ニ先ツ

第三 動産賣買、種苗肥料供給及ヒ農工業勞役ノ先取特權
第一順位ノ先取特權者カ債權取得ノ當時第二又ハ第三ノ順位ノ先取特權者アルコトヲ知リタルトキハ之ニ對シテ優先權ヲ行フコトヲ得ス第一順位者ノ爲メニ物ヲ保存シタル者ニ對シ亦同シ

果實ニ關シテハ第一ノ順位ハ農業ノ勞役者ニ第二ノ順位ハ種苗又ハ肥料ノ供給者ニ第三順位ハ土地貸貸人ニ屬ス

第三百三十一條 同一ノ不動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百二十五條ニ掲ケタル順序ニ從フ同一ノ不動産ニ付キ逐次ノ賣買アリタルトキハ賣主相互間ノ優先權ノ順位ハ時ノ前後ニ依ル

第三百三十二條 同一ノ目的ニ付キ同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク

第三百三十三條 先取特權ハ債務者カ其動産ヲ第三取得者ニ引渡シタル後、其動産ノ先取特權行フコトヲ得ス

第三百三十四條 先取特權ト動産質權ト競合スル場合ニ於テハ動産質權者ハ第三百卅條ニ掲ケタル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第三百三十五條 一般ノ先取特權者ハ先ツ不動産以外ノ財産ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルニ非サレハ不動産ニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス
コトヲ要ス一般ノ先取特權者カ前二項ノ規定ニ從ヒテ配當ニ加入スルコトヲ怠リタルトキハ其配當加入ニ因リテ受クヘカリシモノノ限度ニ於テハ登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテ其先取特權ヲ行フコトヲ得ス

第三項ノ規定ハ不動産以外ノ財産ノ代價ニ先チテ不動産ノ代價ヲ配當シ又ハ他ノ不動産ノ代價ニ先チテ特別擔保ノ目的タル不動産ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス

第三百三十六條 一般ノ先取特權ハ不動産ニ付キ登記ヲ爲ササルモ之ヲ以テ特別擔保ヲ有セサル債權者ニ對抗スルコトヲ妨ケス但登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテハ此限ニ在ラス

第三百三十七條 不動産保存ノ先取特權ハ保存行爲完了ノ後直チニ登記ヲ爲スニ因リテ其効力ヲ保存ス

第三百三十八條 不動産工事ノ先取特權ハ工事ヲ始ムル前ニ其費用ノ豫

算額ヲ登記スルニ因リテ其効力ヲ保存ス但工事ノ費用カ豫算額ヲ超ユ
ルトキハ先取特權ハ其超過額ニ付テハ存在セス

工事ニ因リテ生シタル不動産ノ増價額ハ配當加入ノ時裁判所ニ於テ選
任シタル選定人ヲシテ之ヲ評價セシムルコトヲ要ス

第三百三十九條 前二條ノ規定ニ從ヒテ登記シタル先取特權ハ抵當權ニ
先テ之ヲ行フコトヲ得

第三百四十條 不動産賣買ノ先取特權ハ賣買契約ト同時ニ未タ代價又ハ
其利息ノ辨濟アラサル旨ヲ登記スルニ因リテ其効力ヲ保存ス

第三百四十一條 先取特權ノ効力ニ付テハ本節ニ定メタルモノノ外抵當
權ニ關スル規定ヲ準用ス

第九章 質權

第一節 總則

第三百四十二條 質權者ハ其債權ノ擔保トシテ債務者又ハ第三者ヨリ受
取リタル物ヲ占有シ且其物ニ付キ他ノ債權者ニ先テ自己ノ債權ノ辨
濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第三百四十三條 質權ハ讓渡スコトヲ得サル物ヲ以テ其目的ト爲スコト
ヲ得ス

第三百四十四條 質權ノ設定ハ債權者ニ其目的物ノ引渡ヲ爲スニ因リテ
其効力ヲ生ス

第三百四十五條 質權者ハ質權設定者ヲシテ自己ニ代ハリテ質權ノ占有
ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第三百四十六條 質權ハ元本、利息、違約金、質權實行ノ費用、質物保
存ノ費用及債務ノ不履行又ハ質物ノ隠レタル瑕疵ニ因リテ生シタル損
害ノ賠償ヲ擔保ス但設定行為ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第三百四十七條 質權者ハ前條ニ掲ケタル債權ノ辨濟ヲ受クルマテハ質
權ヲ留置スルコトヲ得但此權利ハ之ヲ以テ自己ニ對シ優先權ヲ有スル
債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百四十八條 質權者ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ自己ノ責任ヲ以テ
質權ヲ轉質ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ轉質ヲ爲ササレハ生セサル
ヘキ不可抗力ニ因ル損失ニ付テモ亦其責ニ任ス

第三百四十九條 質權設定者ハ設定行為又ハ債務ノ辨濟期前ノ契約ヲ以
テ質權者ニ辨濟トシテ質權ノ所有權ヲ取得セシメ其他法律ニ定メタル
方法ニ依ラスシテ質權ヲ處分セシムルコトヲ約スルコトヲ得ス

第三百五十條 第二百九十六條乃至第三百條及ヒ第三百四條ノ規定ハ質
改正民法

權ニ之ヲ準用ス

第三百五十一條 他人ノ債務ヲ擔保スル爲メ質權ヲ設定シタル者カ其債務ヲ辨濟シ又ハ質權ノ實行ニ因リテ質物ノ所有權ヲ失ヒタトキハ保證債務ニ關スル規定ニ從ヒ債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第二節 動産質

第三百五十二條 動産質權者ハ繼續シテ質物ヲ占有スルニ非サレハ其質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百五十三條 動産質權者カ質物ノ占有ヲ奪ハレタルトキハ占有回取ノ訴ニ依リテノミ其質物ヲ回復スルコトヲ得

第三百五十四條 動産質權者カ其債權ノ辨濟ヲ受ケサルトキハ正當ノ理由アル場合ニ限り鑑定人ノ評價ニ從ヒ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ質權者ハ豫メ債務者ニ其請求ヲ通知スルコトヲ要ス

第三百五十五條 數個ノ債權ヲ擔保スル爲メ同一ノ動産ニ付キ質權ヲ設定シタルトキハ其質權ノ順位ハ設定ノ前後ニ依ル

第三節 不動産質

第三百五十六條 不動産質權者ハ質權ノ目的タル不動産ノ用方ニ從ヒ其

使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ得

第三百五十七條 不動産質權者ハ管理ノ費用ノ拂ヲ其他不動産ノ負擔ニ任ス

第三百五十八條 不動産質權者ハ其債權ノ利息ハ請求スルコトヲ得ス

第三百五十九條 前三條ノ規定ハ設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セス

第三百六十條 不動産質權ノ存續期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ不動産質ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ十年ニ短縮ス不動産質ノ設定ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第三百六十一條 不動産質ニハ本節ノ規定ノ外次章ノ規定ヲ準用ス

第四節 權利質

第三百六十二條 質權ハ財産權ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

前項ノ質權ニハ本節ノ規定ノ外三節ノ規定ヲ準用ス

第三百六十三條 債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲ス場合ニ於テ其債權ノ證書アルトキハ質權ノ設定ハ其證書ノ交付ヲ爲スニ因リテ其効力ヲ生ス

第三百六十四條 指名債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ第四百六

十七條ノ規定ニ從ヒ第三債務者ニ質權ノ設定ヲ通知シ又ハ第三債務者
カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ第三債務者其他ノ第三者ニ對抗ス
ルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ記名ノ株式ニハ之ヲ適用セス

第三百六十五條 記名ノ社債ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ社債ノ
讓渡ニ關スル規定ニ從ヒ會社ノ帳簿ニ質權ノ設定ヲ記入スルニ非サレ
ハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百六十六條 指圖債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ其證書ニ
質權ノ設定ヲ裏書スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第三百六十七條 質權者ハ質權ノ目的タル債權ヲ直接ニ取立ツルコトヲ
得債權ノ目的物カ金錢ナルトキハ質權者ハ自己ノ債權額ニ對スル部分
ニ限り之ヲ取立ツルコトヲ得

右ノ債權ノ辨濟期カ質權者ノ債權ノ辨濟期前ニ到來シタルトキハ質權
者ハ第三債務者ヲシテ其辨濟金額ヲ供託セシムルコトヲ得此場合ニ於
テハ質權ハ其供託金ノ上ニ存在ス
債權ノ目的物カ金錢ニ非サルトキハ質權者ハ辨濟トシテ受ケタル物ノ
上ニ債權ヲ有ス

第三百六十八條 質權者ハ前條ノ規定ニ依ル外民事訴訟法ニ定ムル執行
方法ニ依リテ質權ノ實行ヲ爲スコトヲ得

第十章 抵當權

第一節 總則

第三百六十九條 抵當權者ハ債務者又ハ第三者カ占有ヲ移サスシテ債務
ノ擔保ニ供シタル不動産ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟
ヲ受クル權利ヲ有ス

地上權及ヒ永小作權モ亦之ヲ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得此場合ニ於
テハ本章ノ規定ヲ準用ス

第三百七十條 抵當權ハ抵當地ノ上ニ存スル建物ヲ除クノ外其目的タル
不動産 附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ニ及フ但設定行爲ニ別段ノ定
アルトキ及ヒ第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者カ債務者ノ行爲ヲ取
消スコトヲ得ル場合ハ此限ニ在ラス

第三百七十一條 前條ノ規定ハ果實ニハ之ヲ適用セス但抵當不動産ノ差
押アリタル後又ハ第三者取得者カ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタル後
ハ此限ニ在ラス

第三取得者カ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其後一年內ニ抵

當不動産ノ差押アリタル場合ニ限り前項但書ノ規定ヲ適用ス 七八

第三百七十二條 第二百九十六條 第三百四條及ヒ第三百五十一條ノ規定ハ抵當權ニ之ヲ準用ハ

第二節 抵當權ノ效力

第三百七十三條 數個ノ債權ヲ擔保スル爲メ同一ノ動不産ニ付キ抵當權ヲ設定シタルトキハ其抵當權ノ順位ハ登記ノ前後ニ依ル

第三百七十四條 抵當ニカ利息其他ノ定期金ヲ請求スル權利ヲ有スルトキハ其満期ト爲リタル最後ノ二年分ニ付テノミ其抵當權ヲ行フコトヲ得但真以前ノ定期金ニ付テモ満期後特別ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記ノ時ヨリ之ヲ行フコトヲ妨ケス

第三百七十五條 抵當權者ハ其抵當權ヲ以テ他ノ債權ノ擔保ト爲シ又同一ノ債務者ニ對スル他ノ債權者ノ利益ノ爲メ其抵當權若クハ其順位ヲ讓渡シ又ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ抵當權者カ數人ノ爲メニ其抵當權ノ處分ヲ爲シタルトキハ其處分ノ利益ヲ受クル者ノ權利ノ順位ハ抵當權ノ登記ニ附記ヲ爲シタル前後ニ依ル

第三百七十六條 前條ノ場合ニ於テ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ主タル

權務者ニ抵當權ノ處分ヲ通知シ又ハ其債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ其債務者、保證人、抵當權設定者及ヒ其承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス

主タル債務者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ承諾ヲ爲シタルトキハ抵當權ノ處分ノ利益ヲ受クル者ノ承諾ナクシテ爲シタル辨濟ハ之ヲ以テ其受益者ニ對抗スルコトヲ得

第三百七十七條 抵當不動産ニ付キ所有權又ハ地上權ヲ買受ケタル第三者カ抵當者ノ請求ニ應シテ之ニ其代價ヲ辨濟シタルトキハ抵當權ハ其第三者ノ爲メニ消滅ス

第三百七十八條 抵當不動産ニ付キ所有權、地上權又ハ永小作權ヲ取得シタル第三者ハ第三百八十二條乃至第三百八十四條ノ規定ニ從ヒ抵當權者ニ提供シテ其承諾ヲ得タル金額ヲ拂渡シ又ハ之ヲ供託シテ抵當權ヲ滌除スルコトヲ得

第三百七十九條 主タル債務者、保證人及ヒ其承繼人ハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十條 停止條件附第三取得者ハ條件ノ成否未定ノ間ハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ要ス

第三百八十一條 抵當權者カ其抵當權ヲ實行セント欲スルトキハ豫メ第

三百七十八條ニ掲ケタル第三取得者ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第三百八十二條 第三取得者ハ前條ノ通知ヲ受クルマテハ何時ニテモ抵

當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得

第三取得者カ前條ノ通知ヲ受ケサルトキハ一个月内ニ次條ノ送達ヲ爲

スニ非サレハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得ス

前條ノ通知アリタル後ニ第三百七十八條ニ掲ケタル權利ヲ取得シタル

第三者ハ前項ノ第三取得者カ滌除ヲ爲スコトヲ得ル期間内ニ限り之ヲ

爲スコトヲ得

第三百八十三條 第三取得者カ抵當權ヲ滌除セント欲スルトキハ登記ヲ

爲シタル各債權者ニ左ノ書面ヲ送達スルコトヲ要ス

一 取得ノ原因、年月日、讓渡人及ヒ取得者ノ氏名、住所、抵當不

動産ノ性質、所在、代價其他取得者ノ負擔ヲ記載シタル書面

二 抵當不動産ニ關スル登記簿ノ謄本但既ニ消滅シタル權利ニ關ス

ル登記ハ之ヲ掲クルコトヲ要セス

三 抵當者カ一个月内ニ次條ノ規定ニ從ヒ増價競賣ヲ請求セサルハ

ハ第三取得者ハ第一號ニ掲ケタル代價又ハ特ニ指定シタル金額

ヲ債權ノ順位ニ從ヒテ辨濟又ハ供託スヘキ旨ヲ記載シタル書面

第三百八十四條 債權者カ前條ノ送達ヲ受ケタル後一个月内ニ増價競賣

ヲ請求シサルトキハ第三取得者ノ提供ヲ承諾シタルモノト看做ス

増價競賣ハ若シ競賣ニ於テ第三取得者カ提供シタル金額ヨリ十分ノ一

以上高價ニ抵當不動産ヲ賣却スルコト能ハサルトキハ十分ノ一ノ増價

ヲ以テ自ラ其不動産ヲ買受クヘキ旨ヲ附言シ第三取得者ニ對シテ之ヲ

請求スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ債權者ハ代價及ヒ費用ニ付キ擔保ヲ保スルコトヲ

要ス

第三百八十五條 債權者カ増價競賣ヲ請求スルトキハ前條ノ期間内ニ債

務者及ヒ抵當不動産ノ讓渡人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第三百八十六條 増價競賣ヲ請求シタル債權者ハ登記ヲ爲シタル他ノ債

權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其請求ヲ取消スコトヲ得ス

第三百八十七條 抵當權者カ第三百八十二條ニ定メタル期間内ニ第三取

得者ヨリ債務ノ辨濟又ハ滌除ノ通知ヲ受ケサルトキハ抵當不動産ノ競

賣ヲ請求スルコトヲ得

第三百八十八條 土地及ヒ其上ニ存スル建物カ同一ノ所有者ニ屬スル場

合ニ於テ其土地又ハ建物ノミヲ抵當ト爲シタルトキハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付キ地上權ヲ設定シタルモノト看做ス但地代ハ當事者ノ請求ニ依リ裁判所之ヲ定ム

第三百八十九條 抵當權設定ノ後其設定者カ抵當地ニ建物ヲ築造シタルトキハ抵當權者ハ土地ト共ニ之ヲ競賣スルコト得但其優先權ハ土地ノ代價ニ付テノミ之ヲ行フコトヲ得

第三百九十條 第三取得者ハ競買人ト爲ルコトヲ得
第三百九十一條 第三取得者カ抵當不動産ニ付キ必要費又ハ有益費ヲ出シタルトキハ第百九十六條ノ區別ニ從ヒ不動産ノ代價ヲ以テ最モ先ニ其償還ヲ受クルコトヲ得

第三百九十二條 債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數個ノ不動産ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ其代價ヲ配當スヘキトキハ其各不動産ノ價額ニ準シテ其債權ノ負擔ヲ分ツ
或不產動ノ代價ノミヲ配當スヘキトキハ抵當權者ハ其代價ニ付キ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テハ次ノ順位ニ在ル抵當權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ不動産ニ付キ辨濟ヲ受クヘキ金額ニ滿ソルマテ之ニ代位シテ抵當權ヲ行フコトヲ得

第三百九十三條 前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其抵當權ノ登記ハ其代位ヲ附記スルコトヲ得

第三百九十四條 抵當權者ハ抵當不動産ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ他ノ財產ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得
前項ノ規定ハ抵當不動産ノ代價ニ先チテ他ノ財產ノ代價ヲ配當スヘキ場合ハ之ヲ適用セス但他ノ各債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケシムル爲メ之ニ配當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第三百九十五條 第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エサル貸借ハ抵當權ノ登記後ニ登記シタルモノト雖モ之ヲ以テ抵當權者ノ對抗スルコトヲ得但其貸借力抵當權者ニ損害ヲ及ホストキハ裁判所ハ抵當權者ノ請求ニ因リ其解除ヲ命スルコトヲ得

第三節

抵當權ノ消滅

第三百九十六條 抵當權ハ債務者及ヒ抵當權設定者ニ對シテハ其擔保スル債權ト同時ニ非サレハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百九十七條 債務者又ハ抵當權設定者ニ非サル者カ抵當不動産ニ付キ取消時効ニ必要ナル條件ヲ具備セル占有ヲ爲シタルトキハ抵當權ハ之ニ因リテ消滅ス

第三百九十八條 地上權又ハ永小作權ヲ抵當ト爲シタル者カ其權利ヲ拋棄シタルモ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二編 債權

第一章 總則

第一節 債權ノ目的

第三百九十九條 債權ハ金錢ニ見積ルコトヲ得サルモノト雖モ之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第四百條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス

第四百一條 債權ノ目的物ヲ指示スルニ種類ノミヲ以テシタル場合ニ於テ法律行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思ニ依リテ其品質ヲ定ムルコト能ハサルトキハ債務者ハ中等ノ品質ヲ有スル物ヲ給付スルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ債務者カ物ノ給付ヲ爲スニ必要ナル行爲ヲ完了シ又ハ債權者ノ同意ヲ得テ其給付スヘキ物ヲ指定シタルトキハ爾後其物ヲ以テ債權ノ目的物トス
第四百二條 債權ノ目的物カ金錢ナルトキハ債務者ハ其選擇ニ從ヒ各種

ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得但各種ノ通貨ノ給付シ以テ債權ノ目的ト爲シタルトキハ此限ニ在ラス
債權ノ目的タル各種ノ通貨カ辨濟期ニ於テ強制通用ノ效力ヲ失ヒタルトキハ債務者ハ他ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス
前二項ノ規定ハ外國ノ通貨ヲ給付ヲ以テ債權ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百三條 外國ノ通貨ヲ以テ債權額ヲ指定シタルトキハ債務者ハ履行地ニ於ケル爲替相場ニ依リ日本ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得

第四百四條 利息ヲ生スヘキ債權ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ其利率ハ年五分トス

第四百五條 利息カ一年分以止延滞シタル場合ニ於テ債權者ヨリ催告ヲ爲スモ債務者カ其利息ヲ拂ハサルトキハ債權者ハ之ヲ元本ニ組入ルルコトヲ得

第四百六條 債權ノ目的カ數個ノ給付中選擇ニ依テ定マルヘキトキハ其選擇ハ債務者ニ屬ス

第四百七條 前條ノ選擇權ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リ之ヲ行フ前項ノ意思表示ハ相手方ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第四百八條 債權カ辨濟期ニ在ル場合ニ於テ相手方ヨリ相當ノ期間ヲ定メ催告ヲ爲スモ選擇權ヲ有スル當事者カ其期間内ニ選擇ヲ爲ササルトキハ其選擇權ハ相手方ニ屬ス

第四百九條 第三者カ選擇ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其選擇ハ債權者又ハ債務者ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス
第三者カ選擇ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ欲セサルトキハ選擇權ハ債務者ニ屬ス

第四百十條 債權ノ目的タルヘキ給付中始ヨリ不能ナルモノ又ハ後ニ至リテ不能ト爲リタルモノアルトキハ債權ハ其殘存スルモノニ付キ存在ス選擇權ヲ有セサル當事者ノ過失ニ因リテ給付カ不能ト爲リタルトキハ前項ノ規定ヲ適用セス

第四百十一條 選擇ハ債權發生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第二章 債權ノ效力

第四百十二條 債務ノ履行ニ付キ確定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到來シタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス

債務ノ履行ニ付キ不確定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到來シタル

コトヲ知リタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス

債務ノ履行ニ付キ期限ヲ定メサリシトキハ債務者ハ履行ノ請求ヲ受ケタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス

第四百十三條 債權者カ債務ノ履行ヲ受クルヲ拒ミ又ハ之ヲ受クルコト能ハサルモ其債權者ハ履行ノ提供アリタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス

第四百十四條 債權者カ任意ニ債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ債務者ハ其強制履行ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

債務ノ性質カ強制履行ヲ許サル場合ニ於テ其債務カ作爲ヲ目的トスルトキハ債權者ハ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但法律行爲ノ目的トスル債務ニ付テハ裁判ヲ以テ債務者ノ意思表示ニ代フルコトヲ得

不作爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ債務者ノ費用ヲ以テ其爲シタルモノヲ除却シ且將來ノ爲メ適當ノ處分ヲ爲スコトヲ請求スルコトヲ得
前三項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第四百十五條 債務者カ其債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ其損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得債權者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ

因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ

第四百十六條 損害賠償ノ請求ハ債務ノ不履行ニ因リテ通常生スヘキ損害ノ賠償ヲ爲サシムルヲ以テ其目的トス

特別ノ事情ニ因リテ生シタル損害ト雖モ當事者カ其事情ヲ發見シ又ハ豫見スルコトヲ得ヘカリシトキハ債權者ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第四百十七條 損害賠償ハ別段ノ意思表示ナキトキハ金錢ヲ以テ其額ヲ定ム

第四百十八條 債務ノ不履行ニ關シ債權者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ責任及ヒ其金額ヲ定ムルニ付キ之ヲ酌斟ス

第四百十九條 金錢ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ付テハ其損害賠償ノ額ハ法定利率ニ依リテ之ヲ定ム但約定利率カ法定利率ニ超ユルトキハ約定利率ニ依ル

前項ノ損害賠償ニ付テハ債權者ハ損害ノ證明ヲ爲スコトヲ要セス又債務者ハ不可抗力ヲ以テ抗辨ト爲スコトヲ得ス

第四百二十條 當事者ハ債務ノ不履行ニ付キ損害賠償ノ額ヲ豫定スルコトヲ得此場合ニ於テハ裁判所ハ其額ヲ増減スルコトヲ得ス

賠償額ノ豫定ハ履行又ハ解除ノ請求ヲ妨ケス

違約金ハ之ヲ賠償額ノ豫定ト推定ス

第四百二十一條 前條ノ規定ハ當事者カ金錢ニ非ザルモノヲ以テ損害ノ賠償ニ充ツヘキ旨ヲ豫定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百二十二條 債權者カ損害賠償トシテ其債權ノ目的タル物又ハ權利ノ價額ノ全部ヲ受ケタルトキハ債務者ハ其物又ハ權利ニ付キ當然債權者ニ代位ス

第四百二十三條 債權者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債權者ニ屬スル權利ヲ行フコトヲ得但債務者ノ一身ニ專屬スル權利ハ此限ニ在ラス

債權者ハ其債權ノ期限カ到來セサル間ハ裁判上ノ代位ニ依ルニ非サレハ前項ノ權利ヲ行フコトヲ得ス但保存行為ハ此限ニ在ラス

第四百二十四條 債權者ハ債權者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行為ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其行為ニ因リテ利益ヲ受ケタル者又ハ轉得者カ其行為又ハ轉得ノ當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ財産權ヲ目的トセサル法律行為ニハ之ヲ適用セス

第四百二十五條 前條ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ總債權者ノ利益ノ爲メニ其效力ヲ生ス

第四百二十六條

第四百二十四條ノ取消權ハ債權者カ取消ノ原因ヲ覺知シタ時ヨリ二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三節 多數當事者ノ債權

第一款 總則

第四百二十七條 數人ノ債權者又ハ債務者アル場合ニ於テ別段ノ意思表示示ナキトキハ各債權者又ハ各債務者ハ平等ノ割合ヲ以テ權利ヲ有シ又ハ義務ヲ負フ

第二款 不可分債務

第四百二十八條 債權ノ目的カ其性質上又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ不可分ナル場合ニ於テ數人ノ債權者アルトキハ各債權者ハ總債權者ノ爲メニ履行ヲ請求シ又債務者ハ總債權者ノ爲メ各債權者ニ對シテ履行ヲ爲スヨトヲ得

第四百二十九條 不可分債權者ノ一人ト其債務者トノ間ニ更改又ハ免除アリタル場合ニ於テモ他ノ債權者ハ債權ノ全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得但共一人ノ債權者カ其權利ヲ失ハサレハ之ニ分與スヘキ利益ヲ債權者ニ償還スルコトヲ要ス

此他不可分債權者ノ一人ノ行爲又ハ其一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債權者ニ對シテ其效力ヲ生セス

第四百三十條

數人カ不可分ヲ債權負擔スル場合ニ於テハ前條ノ規定及ヒ連帶債務ニ關スル規定ヲ準用ス但第四百三十四條乃至第四百四十條ノ規定ハ此限ニ在ラス

第四百三十一條

不可分債權カ可分債權ニ變シタルトキハ各債權者ハ自己ノ部分ニ付テノミ履行ヲ請求スルコトヲ得又各債務者ハ其負擔部分ニ付テノミ履行ノ責ニ任ス

第三款 連帶債務

第四百三十二條

數人カ連帶債務ヲ負擔スルトキハ債權者ハ其債務者ノ一人ニ對シ又ハ同時若クハ順次ニ總債務者ニ對シテ全部又ハ一部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

第四百三十三條

連帶債務者ノ一人ニ付キ法律行爲ノ無効又ハ取消ノ原因ノ存スル爲メ他ノ債務者ノ債務ノ效力ヲ妨クルコトナシ

第四百三十四條

連帶債務者ノ一人ニ對スル履行ノ請求ハ他ノ債務者ニ對シモ其效力ヲ生ス

第四百三十五條

連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ更改アリタルト減

ハ債權ハ總債務者ノ利益ノ爲メニ消滅ス

第四百三十六條 連帶債務者ノ一人カ債權者ニ對シテ債權ヲ有スル場合ニハテ其債務者カ相殺ヲ援用シタルトキハ債務ハ總債務者ノ利益ノ爲メニ消滅ス

右ノ債權ヲ有スル債務者ハ相殺ヲ援用セサル間ハ其債務者ノ負擔部分ニ付テノミ他ノ債務者ニ於テ相殺ヲ援用スルコトヲ得

第四百三十七條 連帶債務者ノ一人ニ對シテ爲シタル債務ノ免除ハ其債務者ノ負擔部分ニ付テノミ他ノ債務者ノ利益ノ爲メニモ其效力ヲ生ス

第四百三十八條 連帶債務者ノ一人ト債權者トノ間ニ混同アリタルトキハ其債務者ハ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百三十九條 連帶債務者ノ一人ノ爲メニ時効カ完成シタルトキハ其債務者ノ負擔部分ニ付テハ他ノ債務者モ亦其義務ヲ免ル

第四百四十條 前六條ニ掲ケタル事項ヲ除ク外連帶債務者ノ一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債務者ニ對シテ其效力ヲ生セス

第四百四十一條 連帶債務者ノ全員又ハ其中ノ數人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルキ、債權者ハ其債權ノ金額ニ付キ各財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

第四百四十二條 連帶債務者ノ一人カ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以

テ共同ノ免責ヲ得タルトキハ他ノ債務者ニ對シ其各自ノキ求償權ヲ有ス

前項ノ求償ハ辨濟其他免責アリタル日以後ノ法定利息及ヒ避クルコトヲ得サリシ費用其他ノ損害ノ賠償ヲ包含ス

第四百四十三條 連帶債務者ノ一人カ債權者ヨリ請求ヲ受ケタルコトヲ他ノ債務者ニ通知セスシテ辨濟ヲ爲シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免

責ヲ得タル場合ニ於テ他ノ債務者カ債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ヲ有セシトキハ其負擔部分ニ付キ之ヲ以テ其債務者ニ對抗スルコト

ヲ得但相殺ヲ以テ之ニ對抗シタルトキハ過失アル債務者ハ債權者ニ對シ相殺ニ因リテ消滅スヘカリシ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

連帶債務者ノ一人カ辨濟其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得タルコトヲ他ノ債務者ニ通知スルコトヲ怠リタルニ因リ他ノ債務者カ善意ニ

テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ其他有償ニ免責ヲ得タルトキハ其債務者ハ自己ノ其他免責ノ行爲ヲ有效ナリシモノト看做スコト得

第四百四十四條 連帶債務者中ニ償還ヲ爲ス資力ナキ者アルトキハ其償還スルコト能ハサル部分ハ求償者及ヒ他ノ資力アル者ノ間ニ其各自ノ負擔部分ニ應シテ之ヲ分割シ但求償者ニ過失アルトキハ他ノ債務者ニ

對シテ分擔ヲ請求スルコトヲ得ス

第四百四十五條 連帶債務者ノ一人カ連帶ノ免除ヲ得タル場合ニ於テ他ノ債務者中ニ辨濟ノ資力ナキ者アルトキハ債權者ハ其無資力者カ辨濟スルコト能ハサル部分ニ付キ連帶ノ免除ヲ得タル者カ負擔スヘキ部分ヲ負擔ス

第四款 保證債務

第四百四十六條 保證人ハ主タル債務者カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ其履行ヲ爲ス責ニ任ス

第四百四十七條 保證債務ハ主タル債務ニ關スル利息、違約金、損害賠償其他總テ其債務ニ從タルモノヲ包含ス

保證人ハ其保證債務ニ付テノミ違約金又ハ損害賠償ノ額ヲ約定スルコトヲ得

第四百四十八條 保證人ノ負擔カ債務ノ目的又ハ體様ニ付キ主タル債務ヨリ重キトキハ之ヲ主タル債務ノ限度ニ減縮ス

第四百四十九條 無能力ニ因リテ取消スコトヲ得ヘキ債務ヲ保證シタル者カ保證契約ノ當時其取消ノ原因ヲ知リタルトキハ主タル債務者ノ不履行又ハ其債務ノ取消ノ場合ニ付キ同一ノ目的ヲ有スル獨立ノ債務ヲ

負擔シタルモノト推定ス

第四百五十條 債務者カ保證人ヲ立ツル義務ヲ負フ場合ニ於テハ其保證人ハ左ノ條件ヲ具備スル者タルコトヲ要ス

- 一 能力者タルコト
- 二 拂濟ノ資力ヲ有スルコト
- 三 債務ノ履行地ヲ管轄スル控訴院ノ管轄内ニ住所ヲ有シ又ハ假住所ヲ定メタルコト

保證人カ前項第二號又ハ第三號ノ條件ヲ欸クニ至リタルトキハ債權者ハ前項ノ條件ヲ具備スル者ヲ以テ之ニ代フルコトヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ債權者カ保證人ヲ指名シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第四百五十一條 債務者カ前條ノ條件ヲ具備スル保證人ヲ立ツルコト能ハサルトキハ他ノ擔擔ヲ供シテ之ニ代フルコトヲ得

第四百五十二條 債權者カ保證人ニ債務ノ履行ヲ請求シタル并ハ保證人ハ先ツ主タル債務者ニ催告ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得但主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其行方カ知レサルトキハ此限ニ在ラス

第四百五十三條 債務者カ前條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ催告ヲ爲シタル後ト雖モ保證人カ主タル債務者ニ辨濟ノ資力アリテ且履行ノ容易

ナルコトヲ證明シタルトキハ債務者ハ先ツ主タル債務者ノ財產ニ付キ
執行ヲ爲スコトヲ要ス

第四百五十四條 保證人カ主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタルト
キハ前二條ニ定メタル權利ヲ有セス

第四百五十五條 第四百五十二條及ヒ第四百五十三條ノ規定ニ依リ保證
人ノ請求アリタルニ拘ハラヌ債權者カ催告又ハ執行ヲ爲スコトヲ怠リ
其後主タル債務者ヨリ全部ノ辨濟ヲ得サルトキハ保證人ハ債權者カ直
チニ催告又ハ執行ヲ爲セハ辨濟ヲ得ヘカリシ限度ニ於テ其義務ヲ免ル

第四百五十六條 數人ノ保證人アル場合ニ於テハ其保證人カ各別ノ行爲
ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ第四百二十七條ノ規定ニ適用ス

第四百五十七條 主タル債務者ニ對スル履行ノ請求其他時効ノ中斷ハ保
證人ニ對シテモ其效力ヲ生ス

保證人ハ主タル債務者ノ債權ニ依リ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコト
ヲ得

第四百五十八條 主タル債務者カ保證人ト連帶シテ債務ヲ負擔スル場合
ニ於テハ第四百三十四條乃至第四百四十條ノ規定ニ適用ス

第四百五十九條 保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケ保證ヲ爲シタル場
合ニ於テハ第四百三十四條乃至第四百四十條ノ規定ニ適用ス

第四百六十條 保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタルト
キハ其保證人ハ左ノ場合ニ於テ主タル債務者ニ對シテ豫メ求償權ヲ行
フコトヲ得

一 主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ且債權者カ其財團ノ配當ニ加
入セサルトキ

二 債務カ辨濟期ニ在ルトキ但保證契約ノ後債務者カ主タル債務者
ニ許與シタル期限ハ之ヲ以テ保證人ニ對抗スルコトヲ得ス

三 債務ノ辨濟期カ不確定ニシテ且其最長期ヲモ確定スルコト能ハ
サル場合ニ於テ保證契約ノ後十年ヲ經過シタルトキ

第四百六十一條 前二條ノ規定ニ依リ主タル債務者カ保證人ニ對シテ賠
償ヲ爲ス場合ニ於テ債權者カ全部ノ辨濟ヲ受ケサル間ハ主タル債務者
ハ保證人ヲシテ擔保ヲ供セシメ又ハ之ニ對シテ自己ニ免責ヲ得セシム
ヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

合ニ於テ過失ナクシテ債權者ニ辨濟スヘキ裁判言渡ヲ受ケ又ハ主タル
債務者ニ代ハリテ辨濟ヲ爲シ其他自己出捐ヲ以テ債務ヲ消滅セシムハ
キ行爲ヲ爲シタルハ其保證人ハ主タル債務者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第四百四十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百六十條 保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタルト
キハ其保證人ハ左ノ場合ニ於テ主タル債務者ニ對シテ豫メ求償權ヲ行
フコトヲ得

一 主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ且債權者カ其財團ノ配當ニ加
入セサルトキ

二 債務カ辨濟期ニ在ルトキ但保證契約ノ後債務者カ主タル債務者
ニ許與シタル期限ハ之ヲ以テ保證人ニ對抗スルコトヲ得ス

三 債務ノ辨濟期カ不確定ニシテ且其最長期ヲモ確定スルコト能ハ
サル場合ニ於テ保證契約ノ後十年ヲ經過シタルトキ

第四百六十一條 前二條ノ規定ニ依リ主タル債務者カ保證人ニ對シテ賠
償ヲ爲ス場合ニ於テ債權者カ全部ノ辨濟ヲ受ケサル間ハ主タル債務者
ハ保證人ヲシテ擔保ヲ供セシメ又ハ之ニ對シテ自己ニ免責ヲ得セシム
ヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

右ノ場合ニ於テ主タル債務者ハ供託ヲ爲シ擔保ヲ供シ又ハ保證人ニ免責ヲ得セシメテ其賠償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

第四百六十二條 主タル債務者ノ委託ヲ受ケスシテ保證ヲ爲シタル者カ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ主タル債務者ニ其債務ヲ免レシメタルトキハ主タル債務者ハ其當時利益ヲ受ケタル限度ニ於テ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

主タル債務者ノ意思ニ反シテ保證ヲ爲シタル者ハ主タル債務者カ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノミ求償權ヲ有ス但主タル債務者カ求償ノ日以前ニ相殺ノ原因ヲ有センコトヲ主張スルトキハ保證人ハ債務者ニ對シ其相殺ニ因リテ消滅スヘカリシ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

第四百六十三條 第四百四十三條ノ規定ノ證人ニ之ヲ準用ス
保證人カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證ヲ爲シタル場合ニ於テ善意ニテ辨濟其他免責ノ爲メニスル出損ヲ爲シタルトキハ第四百四十三條ノ規定ハ主タル債務者ニモ亦之ヲ準用ス

第四百六十四條 連帶債務者又ハ不可分債務者ノ一人ノ爲メニ保證ヲ爲シタル者ハ他ノ債務者ニ對シテ其負擔部分ノミニ付キ求償權ヲ有ス

第四百六十五條 數人ノ保證人アル場合ニ於テ主タル債務者カ不可分ナル爲メ又ハ各保證人カ全額ヲ辨濟スヘキ契約アル爲メ一人ノ保證人カ全額其他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨濟シタルトキハ第四百四十二條乃至第四百四十四條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ非スシテ互ニ連帶セサル保證人ノ一人カ全額其他自己ノ負擔部分ヲ超ユル額ヲ辨濟シタルハ第四百六十二條ノ規定ヲ準用ス

第四百六十六條 債權ノ讓渡
第四節 債權ノ讓渡
キハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニ之ヲ適用セス但其意思表示ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百六十七條 指名債權ノ讓渡ハ讓渡人カ之ヲ債務者ニ通知シ又ハ債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ通知又ハ承諾ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ債務者以外ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百六十八條 債務者カ異議ヲ留メスシテ前條ノ承諾ヲ爲シタルトキハ讓渡人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由アルモ之ヲ以テ讓受人ニ對

改正民法

抗スルコトヲ得ス但債務者カ其債務ヲ消滅セシムル爲メ讓渡人ニ拂渡シタルモノアルトキハ之ヲ取返シ又讓渡人ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ之ヲ成立セサルモノト看做スコトヲ妨ケス
讓渡人カ讓渡ノ通知ヲ爲シタルニ止マル片ハ債務者ハ其通知ヲ受クルマテニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得

第四百六十九條 指圖債權ノ讓渡ハ其證書ニ讓渡ノ裏書ヲ爲シテ之ヲ讓受人ニ交付スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百七十條 指圖債權ノ債務者ハ其證書ノ所持人及ヒ其署名捺印ノ眞偽ヲ調査スル權利ヲ有スルモ其義務ヲ負フコトナシ但債務者ニ惡意又ハ重大ナル過失アルトキハ其辨濟ハ無効トス

第四百七十一條 前條ノ規定ハ證書ニ債權者ヲ指名シタルモ其證書ノ所持人ニ辨濟スヘキ旨ヲ附記シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十二條 指圖債權ノ債務者ハ其證書ニ記載シタル事項及ヒ其證書ノ性質ヨリ當然生スル結果ヲ除ク外原債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ヲ以テ善意ノ無受人ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百七十三條 前條ノ規定ハ生記名債權ニ之ヲ準用ス

第五節 債權ノ消滅

第一款 辨濟

第四百七十四條 債務ノ辨濟ハ第三者之ヲ爲スコトヲ得其債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキ又ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表思シタルトキハ此限ニ在ラス

利害ノ關係ヲ有セサル第三者ハ債務者ノ意思ニ反シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第四百七十五條 辨濟者カ他人ノ物ヲ引渡シタルトキハ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ其物ヲ取戻スコトヲ得ス

第四百七十六條 讓渡ノ能力ナキ所有者カ辨濟トシテ物ノ引渡ヲ爲シタル場合ニ於テ其辨濟ヲ取消シタルトキハ其所有者ハ更ニ有效ナル辨濟ヲ爲スニ非サレハ其物ヲ取戻スコトヲ得ス

第四百七十七條 前二條ノ場合ニ於テ債權者カ辨濟トシテ受ケタル物ヲ善意ニテ消費シ又ハ讓渡シタルトキハ其辨濟ハ有效トス但債權者カ第三者ヨリ賠償ノ請求ヲ受ケタルトキハ辨濟者ニ對シテ求償ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四百七十八條 債權ノ準占有者ニ爲シタル辨濟ハ辨濟者ノ善意ナリシ

改正民法

トキニ限其効力ヲ有ス

第四百七十九條 前條ノ場合ヲ除ク外辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ニ爲シタル辨濟ハ債權者カ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル限度ニ於テノミ其効力ヲ有ス

第四百八十條 受取證書ノ持參人ハ辨濟受領ノ權限アルモノト看做ス但辨濟者カ其權限ナキコトヲ知リタルトキ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

第四百八十一條 支拂ノ差止め受タル第三債務者カ自己ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ差押債權者ハ其受ケタル損害ノ限度ニ於テ更ニ辨濟ヲ爲スヘキ旨ヲ第三債務者ニ請求スルコトヲ得前項ノ規定ハ第三債務者ヨリ其債權者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第四百八十二條 債務者カ債權者ノ承諾ヲ以テ其負擔シタル給付ニ代ヘテ他ノ給付ヲ爲シタルトキハ其給付ハ辨濟ト同一ノ効力ヲ有ス

第四百八十三條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ辨濟者ハ其引渡ヲ爲スヘキ時ノ現狀ニテ其物ヲ引渡スコトヲ要ス

第四百八十四條 辨濟ヲ爲スヘキ場所ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ特定物ノ引渡ハ債權發生ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ

他ノ辨濟ハ債權者ノ現時ノ住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四百八十五條 辨濟ノ費用ニ付キ別段ノ意思表示ナキトキハ其費用ハ債務者之ヲ負擔ス但債權者カ住所ノ移轉其他ノ行爲ニ因リテ辨濟ノ費用ヲ増加シタルトキハ其増加額ハ債權者之ヲ負擔ス

第四百八十六條 辨濟者ハ辨濟受領者ニ對シテ受取證書ヲ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十七條 債權ノ證書アル場合ニ於テ辨濟者カ全部ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ其證書ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十八條 債務者カ同一ノ債權者ニ對シテ同種ノ目的ヲ有スル數個ノ債務ヲ負擔スル場合ニ於テ辨濟トシテ提供シタル給付カ總債務ヲ消滅セシムルニ足ラサルトキハ辨濟者ハ給付ノ時ニ於テ其辨濟ヲ充當スヘキ債務ヲ指定スルコトヲ得

辨濟者カ前項ノ指定ヲ爲ササルトキハ辨濟受領者ハ其受領ノ時ニ於テ其辨濟ノ充當ヲ爲スコトヲ得但辨濟者カ此充當ニ對シテ直チニ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ非ラス

前二項ノ場合ニ於テ辨濟ノ充當ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

改正民法

第四百八十九條

當事者カ辨濟ノ充當ヲ爲サルトキハ左ノ規定ニ從ヒ其

辨濟ヲ充當ス

- 一 總債務中辨濟期ニ在ルモノト辨濟期ニ在ラサルモノトアルトキハ辨濟期ニ在ルモノヲ先ニス
- 二 總債務カ辨濟期ニ在ルトキ又ハ辨濟期ニ在ラサルトキハ債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益多キモノヲ先ニス
- 三 債務者ノ爲メニ辨濟ノ利益相同シキトキハ辨濟期ノ先ツ至リタルモノ又ハ先ツ至ルヘキモノヲ先ニス
- 四 前二號ニ掲ケタル事項ニ付キ相同シキ債務ノ辨濟ハ各債務ノ額ニ應シテ之ヲ充當ス

第四百九十條

一個ノ債務ノ辨濟トシテ數個ノ給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テ辨濟者カ其債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサ給付ヲ爲シタルトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第四百九十一條

債務者カ一個又ハ數個ノ債務ニ付キ元本ノ外利息及ヒ費用ヲ拂フヘキ場合ニ於テ辨濟者カ其債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ順次ニ費用、利息及ヒ元本ニ充當スルコトヲ要ス

第四百八十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百九十二條

辨濟ノ提供ハ其提供ノ時ヨリ不履行ニ因リテ生スヘキ一切ノ責任ヲ免レシム

第四百九十三條

辨濟ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ現實ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但債務者カ豫メ其受領ヲ拒ミ又ハ債務ノ履行ニ付キ債權者ノ行爲ヲ要スルトキハ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其受領ヲ催告スルヲ以テ足ル

第四百九十四條

債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキハ辨濟者ハ債權者ノ爲メニ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ亦同シ

第四百九十五條

供託ハ債務履行地ノ供託所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス供託所ニ付キ法令ニ別段ノ定ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ辨濟者ノ請求ニ因リ供託所ヲ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ヲ爲スコトヲ要ス供託者ハ選滞ナク債權者ニ供託ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第四百九十六條

債權者カ供託ヲ受諾セス又ハ供託ヲ有效ト宣告シタル判決ヲ確定セサル間ハ辨濟者ハ供託物ヲ取戻スコトヲ得此場合ニ於テ

供託ヲ爲サザリシモノト看做スルハ其權利ノ行使ニ妨礙スルコトヲ以テ前項ノ規定ヲ供託ニ因リテ質權又ハ抵當權カ消滅シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第四百九十七條 辨濟ノ目的物カ供託ニ適セス又ハ其物ニ付キ滅失若クハ毀損ノ虞アルルハ辨濟者ハ裁所判ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ供託スルコトヲ得其物ノ保存ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキモ亦同シ

第四百九十八條 債權者カ債權者ノ給付ニ對シテ辨濟ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ債權者ハ其給付ヲ爲スニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

第四百九十九條 債權者ノ爲メニ辨濟ヲ爲シタル者ハ其辨濟ト同時ニ債權者ノ承諾ヲ得テ之ニ代位スルコトヲ得

第四百六十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百條 辨濟ヲ爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有スル者ハ辨濟ニ因リテ當然債權者ニ代位ス

第五百一條 前二條ノ規定ニ依リテ債權者ニ代位シタル者ハ自己ノ權利ニ基キ求償ヲ爲スコトヲ得ヘキ範圍内ニ於テ債權ノ效力及ヒ擔保トシテ其債權者カ有セシ一切ノ權利ヲ行フコトヲ得但左ノ規定ニ從ヌコトヲ要ス

一 保證人ハ豫メ先取特權不動産質權又ハ抵當權ノ登記ニ其代位ヲ

附記シタルニ非サレハ其先取特權、不動産質權又ハ抵當權ノ目的タル不動産ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位セズ

二 第三取得者ハ保證人ニ對シテ債權者ニ代位セズ

三 第三取得者ノ一人ハ各不動産ノ價格ニ應スルニ非サレハ他ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位ス

四 前號ノ規定ハ自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者ノ間ニ之ヲ準用ス

五 保證人ト自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者トノ間ニ於テハ其頭數ニ應スルニ非サレハ債權者ニ代位セズ但自己ノ財産ヲ以テ他人ノ債務ノ擔保ニ供シタル者數人アルトキ保證人ノ負擔部分ヲ除キ其殘額ニ付キ各財産ノ價格ニ應スルニ非サレハ之ニ對シテ代位ヲ爲スコト得ス

右ノ場合ニ於テハ財産カ不動産ナルトキハ一號ノ規定ヲ準用ス

第五百二條 債權者ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタルトキハ代位者ハ其辨濟シタル價額ニ應シテ債權者ト共ニ其權利ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ債務ノ不履行ニ因ル契約ノ解除ハ債權者ノ之ヲ請求スルコトヲ得但代位者ニ其辨濟シタル價額及ヒ其利息ヲ償還スルコ

改正民法

一〇七

トヲ要ス

第五百三條

代位辨濟ニ因リテ全部ノ辨濟ヲ受ケタル債權者ハ債權ニ關スル證書及ヒ其占有ニ在ル擔保物ヲ代位者ニ交付スルコトヲ要ス
債權ノ一部ニ付キ代位辨濟アリタル場合ニ於テハ債權者ハ債權證書ニ其代位ヲ記入シ且代位者ヲシテ其占有ニ在ル擔保物ノ保存ヲ監督セシムルコトヲ要ス

第五百四條

第五百條ノ規定ニ依リテ代位ヲ爲スヘキ者アル場合ニ於テ債權者カ故意又ハ懈怠ニ因リテ其擔保ヲ喪失又ハ減少シタルトキハ代位ヲ爲スヘキ者ハ其喪失又ハ減少ニ因リ償還ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル限度ニ於テ其責ヲ免ル

第二款 相殺

第五百五條

二人互ニ同種ノ目的ヲ有スル債務ヲ負擔スル場合ニ於テ双方ノ債務カ辨濟期ニ在ルトキハ各債務者ハ其對當額ニ付キ相殺ニ因リテ其債務ヲ免ルルコトヲ得但債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス前項ノ規定ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ニ之ヲ適用セス但其意思表示ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百六條

相殺ハ當事者ノ一方ヨリ其相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス但其意思表示ニハ條件又ハ期限ヲ附スルコトヲ得ス
前項ノ意思表示ハ雙方ノ債務カ互ニ相殺ヲ爲スニ適シタル始ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第五百七條

相殺ハ雙方ノ債務ノ履行地カ異ナルトキト雖モ之ヲ爲スコトヲ得但相殺ヲ爲ス當事者ハ其相手方ニ對シ之ニ因リタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

第五百八條

時効ニ因リテ消滅シタル債權カ其消滅以前ニ相殺ニ適シタル場合ニ於テハ其債權者ハ相殺ヲ爲スコトヲ得

第五百九條

債務カ不法行爲ニ因リテ生シタルトキハ其債務者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百十條

債權カ差押ヲ禁シタルモノナルトキハ其債務者ハ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百十一條

支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者ハ其後ニ取得シタル債權ニ依リ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百十二條

第四百八十八條乃至第四百九十二條ノ規定ハ相殺ニ之ヲ準用ス

第三款

更

改

改正民法

第五百十三條 當事者カ債務ノ要素ヲ變更スル契約ヲ爲シタルトキハ其債務ハ更改ニ因リテ消滅ス

條件附債務ヲ無條件附債務トシ無條件債務ニ條件ヲ附シ又ハ條件ヲ變更スルハ債務ノ要素ヲ變更スルモノト看做ス債務ノ履行ニ代ヘテ爲替手形ヲ發行スルモ亦同シ

第五百十四條 債務者ノ交替ニ因ル更改ハ債權者ト新債務者トノ契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但舊債務者ノ意思ニ反シテ之ヲ爲スコト得ス

第五百十五條 債權者ノ交替ニ因ル更改ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十六條 第四百六十八條第一項ノ規定ハ債權者ノ交替ニ因ル更改ニ之ヲ準用ス

第五百十七條 更改ニ因リテ生シタル債務カ不法ノ原因ノ爲メ又ハ當事者ノ知ラサル事由ニ因リテ成立セス又ハ取消サレタルトキハ舊債務ハ消滅セス

第五百十八條 更改ノ當事者ハ舊債務ノ目的ノ限度ニ於テ其債務ノ擔保ニ供シタル質權又ハ抵當權ヲ新債務ニ移スコトヲ得但第三者カ之ヲ供シタル場合ニ於テハ其承認ヲ得ルコトヲ要ス

第四款 免除

第五百十九條 債權者カ債務者ニ對シテ債務ヲ免除スル意思ヲ表示シタルトキハ其債權ハ消滅ス

第五款 混同

第五百二十條 債權及ヒ債務カ同一人ニ歸シタルトキハ其債權ハ消滅ス但其債權カ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此限ニ在ラス

第二章 契約

第一節 總則

第一款 契約ノ成立

第五百二十一條 承諾ノ期間ヲ定メテ爲シタル契約ノ申込ハ之ヲ取消スコトヲ得ス
申込者カ前項ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ受ケタルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ

第五百二十二條 承諾ノ通知カ前條ノ期間後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其期間内ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知リ得ヘキトキハ申込者ハ遲滞ナク相手方ニ對シテ其延着ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但其到達前ニ遲延ノ通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス

申込者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ承諾ノ通知ハ延着セサリシモノト看做ス

第五百二十三條

遅延シタル承諾ハ申込者ニ於テ之ヲ新ナル申込ト看做ス

第五百二十四條

承諾ノ期間ヲ定メスシテ隔地者ニ爲シタル申込ノ申込者カ承諾ノ通知ヲ受クルニ相當ナル期間之ヲ取消スコトヲ得ス

第五百二十五條

第九十三條第二項ノ規定ハ申込者カ反對ノ意思ヲ表示シ又ハ其相手方カ死亡若クハ能力喪失ノ事實ヲ知リタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五百二十六條

隔地者間ノ契約ハ承諾ノ通知ヲ發シタル時ニ成立ス申込者ノ意思表示又ハ取引上ノ慣習ニ依リ承諾ノ通知ヲ必要トセサル場合ニ於テハ契約ハ承諾ノ意思表示ト認ムヘキ事實アリタル時ニ成立ス

第五百二十七條

申込ノ取消ノ通知カ承諾ノ通知ヲ發シタル後ニ到達シタルモ通常ノ場合ニ於テハ其前ニ到達スヘカリシ時ニ發送シタルモノナルコトヲ知リ得ヘキトキハ承諾者ハ遅滞ナク申込者ニ對シテ其延着

承諾者カ前項ノ通知ヲ怠リタルハ契約ハ成立セサリシモノト看做ス

第五百二十八條

承諾者カ申込ニ條件ヲ附シ其他變更ヲ加ヘテ之ヲ承諾シタルトキハ其申込ノ拒絶ト共ニ新ナル申込ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百二十九條

或行爲ヲ爲シタル者ニ一定ノ報酬ヲ與フヘキ旨ヲ廣告シタル者ハ其行爲ヲ爲シタル者ニ對シテ其報酬ヲ與フル義務ヲ負フ

第五百三十條

前條ノ場合ニ於テ廣告者ハ其指定シタル行爲ヲ完了スル者ナキ間ハ前ノ廣告ト同一ノ方法ニ依リテ其廣告ヲ取消スコトヲ得但

其廣告中ニ取消ヲ爲ササル旨ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ニ定メタル方法ニ依リテ取消ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ他

ノ方法ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得但其取消ハ之ヲ知リタル者ニ對シテ

ノミ其效力ヲ有ス

廣告者カ其指定シタル行爲ヲ爲スヘキ期間ヲ定メタルトキハ其取消權ヲ拋棄シタルモノト推定ス

第五百三十一條

廣告ニ定メタル行爲ヲ爲シタル者數人アルトキハ最初

ニ其行爲ヲ爲シタル者ノミ報酬ヲ受クル權利ヲ有ス

數人カ同時ニ右ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ各平等ノ割合ヲ以テ報

酬ヲ受クル權利ヲ有ス但報酬カ其性質上分割ニ不便ナルトキ又ハ廣告

ニ於テ一人ノミ之ヲ受クヘキモノトシタルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ受ク

ヘキ者ヲ定ム
前二項ノ規定ハ廣告中ニ之ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ適用セス

第五百三十二條 廣告ニ定メタル行爲ヲ爲シタル者數人アル場合ニ於テ其優等者ノミニ報酬ヲ與フヘキトキハ其廣告ハ應募ノ期間ヲ定メタルトキニ限り其效力ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ應募者中何人ノ行爲カ優等ナルカハ廣告中ニ定メタル者之ヲ判定ス若シ廣告中ニ判定者ヲ定メサリシトキハ廣告者之ヲ判定ス應募者ハ前項ノ判定ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス
數人ノ行爲カ同等ト判定セラレタルトキハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百三十三條 雙務契約當事者ノ一方ハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供スルマテハ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得但相手方ノ債務カ辨濟期ニ在ラサルトキハ此限ニ在ラズ

第五百三十四條 特定物ニ關スル物權ノ設定又ハ移轉ヲ以テ雙務契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其物カ債務者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其滅失又ハ毀損ハ債務者ノ負擔ニ歸ス

不特定物ニ關スル契約ニ付テハ第四百二條第二項ノ規定ニ依リテ其物カ確定シタル時ヨリ前項ノ規定ヲ適用ス

第五百三十五條 前條ノ規定ハ停止條件附雙務契約ノ目的物カ條件ニ成否未定ノ間ニ於テ滅失シタル場合ニハ之ヲ適用ス

物カ債務者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ毀損シタルトキハ其毀損ハ債權者ノ負擔ニ歸ス
物カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ毀損シタルトキハ債權者ハ條件成就ノ場合ニ於テ其選擇ニ從ヒ契約ノ履行又ハ其解除ヲ請求スルコトヲ得但損害賠償ノ請求ヲ妨ケズ

第五百三十六條 前二條ニ掲ケタル場合ヲ除ク外當事者雙方ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ債務ヲ履行スルコト能ハサルニ至リタルトキハ債務者ハ反對給付ヲ受クル權利ヲ有セス
債權者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ債務者ハ反對給付ヲ受クル權利ヲ失ハス但自己ノ債務ヲ免レタルニ因リテ利益ヲ得タルトキハ之ヲ債權者ニ償還スルコトヲ要ス

第五百三十七條 契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シテ或給付ヲ爲スヘキコトヲ約シタルトキハ其第三者ハ債務者ニ對シテ直接ニ其給付

ヲ請求スル權利ヲ有ス
前項ノ場合ニ於テ第三者カ權利ハ其第三者カ債務者ニ對シテ契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタル時ニ發生ス

第五百三十八條 前條ノ規定ニ依リテ第三者ノ權利カ發生シタル後ハ當事者ハ之ヲ變更シ又ハ之ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

第五百三十九條 第五百三十七條ニ掲ケタル契約ニ基因スル抗辨ハ債務者之ヲ以テ其契約ノ利益ヲ受クヘキ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百四十條 契約又ハ法律ノ規定ニ依リ當事者ノ一方カ解除權ヲ有スルトキハ其解除ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス

第五百四十一條 當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行サキトキハ契約ハ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十二條 契約ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非ズルハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サズシテ其時期ヲ經

過シタルトキハ相手方ハ前條ノ催告ヲ爲サズシテ直チニ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十三條 履行ノ全部又ハ一部カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ不能ト爲リタルトキハ債權者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十四條 當事者ノ一方カ數人アル場合ニ於テハ契約ノ解除ハ其全員ヨリ又ハ其全員ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ解除權カ當事者中ノ一人ニ付キ消滅シタルトキハ他ノ者ニ付テモ亦消滅ス

第五百四十五條 當事者ノ一方カ其解除權ヲ行使シタルトキハ各當事者ハ其相手方ヲ原狀ニ復セシムル義務ヲ負フ但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ返還スヘキ金錢ニハ其受領ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ要ス

解除權ノ行使ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ゲス

第五百四十六條 第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百四十七條 解除權ノ行使ニ付キ期間ノ定ナキトキハ相手方ハ解除權ヲ有スル者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ解除ヲ爲スヤ否ヤ決

確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ其期間内ニ解除ノ通知ヲ受ケザル下キハ解除權ハ消滅ス

第五百四十八條 解除權ヲ有スル者カ自己ノ行為又ハ過失ニ因リテ著シク契約ノ目的物ヲ毀損シ若クハ之ヲ返還スルコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ加工若クハ改造ニ因リテ之ヲ他ノ種類ノ物ニ變シタルトキハ解除權ハ消滅ス

第二節 贈與

第五百四十九條 贈與ハ當事者ノ一方カ自己ノ財産ヲ無償ニテ相手方ニ與フル意思ヲ表示シ相手方カ受諾ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百五十條 書面ニ依ラサル贈與ハ各當事者之ヲ取消スコトヲ得但履行ノ終ハリタル部分ニ付テハ此限ニ在ラス

第五百五十一條 贈與者ハ贈與ノ目的タル物又ハ權利ノ瑕疵又ハ欠缺ニ付キ其責ニ任セス但贈與者カ其瑕疵又ハ欠缺ヲ知リテ之ヲ受贈者ニ告ケザリシトキハ此限ニ在ラス

負擔附贈與ニ付テハ贈與者ハ其負擔ノ限度ニ於テ賣主ト同シク擔保ノ

責任

第五百五十二條 定期ノ給付ヲ目的トスル贈與ハ贈與者又ハ受贈者ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ失フ

第五百五十三條 負擔附贈與ニ付テハ本節ノ規定ノ外雙務契約ニ關スル規定ヲ適用ス

第五百五十四條 贈與者ノ死亡ニ因リテ效力ヲ生スヘキ贈與ハ遺贈ニ關スル規定ニ從フ

第三節 賣買

第一款 總則

第五百五十五條 賣買ハ當事者ノ一方カ或財産權ヲ相手方ニ移轉スルコトヲ約シ相手方カ其代金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百五十六條 賣買ノ一方ノ豫約ハ相手方カ賣買ヲ完結スル意思ヲ表示シタル時ヨリ賣買ノ效力ヲ生ス

前項ノ意思表示ニ付キ期間ヲ定メザリシトキハ豫約者ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ賣買ヲ完結スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ相手方ニ催告スルコトヲ得若シ相手方カ其期間内ニ確答ヲ爲サザルトキハ豫約ハ其效力ヲ失フ

第五百五十七條 買主カ賣主ニ手附ヲ交付シタルトキハ當事者ノ一方カ契約ノ履行ニ着手スルマテハ買主ハ其手附ヲ拋棄シ賣主ハ其倍額ヲ償還シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十五條 第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第五百五十八條 賣買契約ニ關スル費用ハ當事者雙方平分シ之ヲ負擔ス

第五百五十九條 本節ノ規定ハ賣買以外ノ有價契約ニ之ヲ準用ス但其契約ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第二款 賣買 效力

第五百六十條 他人ノ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタルトキハ賣主ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スル義務ヲ負フ

第五百六十一條 前條ノ場合ニ於テ賣主カ其賣却シタル權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但契約ノ當時其權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタルトキハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十二條 賣主カ契約ノ當時其賣却シタル權利ノ自己ニ屬セサルコトヲ知ラサリシ場合ニ於テ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ賣主ハ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買主カ契約ノ當時其買受ケタル權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタルトキハ賣主ハ買主ニ對シ單ニ其賣却シタル權利ヲ移轉スルコト能ハサル旨ヲ通知シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百六十三條 賣買ノ目的タル權利ノ一部カ他人ニ屬スルニ因リ賣主カ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ其足ラサル部分ノ割合ニ應シテ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミナレハ買主カ之ヲ買受ケサルヘカリシトキハ善意ノ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

代金減額ノ請求又ハ契約ノ解除ハ善意ノ買主カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第五百六十四條 前條ニ定メタル權利ハ買主カ善意ナリシトキハ事實ヲ知リタル時ヨリ惡意ナリシトキハ契約ノ時ヨリ一年內ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス

第五百六十五條 數量ヲ指示シテ賣買シタル物カ不足ナル場合及ヒ物ノ一部カ契約ノ當時既ニ滅失シタル場合ニ於テ買主カ其不足又ハ滅失ヲ知ラサリシトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第五百六十六條 賣買ノ目的物カ地上權、永小作權、地役權、留置權、

改正民法

又ハ質權ノ自的タル場合ニ於テ買主カ之ヲ知ラザリシハ之カ爲メ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ限リ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得其他ノ場合ニ於テハ損害賠償ノ請求ノミヲ爲スコトヲ得前項ノ規定ハ賣買ノ目的タル不動産ノ爲メニ存セリト稱セシ地役權カ存セザリシトキ及ヒ其不動産ニ付キ登記シタル賃貸借アリタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ契約ノ解除又ハ損害賠償ノ請求ハ買主カ事實ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五百六十七條 賣買ノ目的タル不動産ノ上ニ存シタル先取特權又ハ抵當權ノ行使ニ因リ買主カ其所有權ヲ失ヒタルトキハ其買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

買主カ出捐ヲ爲シテ其所有權ヲ保存シタルトキハ賣主ニ對シテ其出捐ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ買主カ損害ヲ受ケタルトキハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第五百六十八條 強制競賣ノ場合ニ於テハ競落人ハ前七條ノ規定ニ依リ債務者ニ對シ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債務者カ無資力ナルトキハ競落人ハ代金ノ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ其代金ノ全部又ハ一部ノ返還請求スルコトヲ得前二項ノ場合ニ於テ債務者カ物又ハ權利ノ欠缺ヲ知リテ之ヲ申出テス又ハ債權者カ之ヲ知リテ競賣ヲ請求シタルトキハ競落人ハ其過失者ニ對シ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百六十九條 債權ノ賣主カ債務者ノ資力ヲ擔保シタルトキハ契約ノ當時ニ於ケル資力ヲ擔保シタルモノト推定ス

辨濟期ニ至ラサル債權ノ賣主カ債務者ニ將來ノ資力ヲ擔保シタルトキハ辨濟ノ期日ニ於ケル資力ヲ擔保シタルモノト推定ス

第五百七十條 賣買ノ目的物ニ隠レタル瑕疵アリタルトキハ第五百六十六條ノ規定ヲ準用ス但強制競賣ノ場合ハ此限ニ在ラス

第五百七十一條 第五百三十三條ノ規定ハ第五百六十三條乃至第五百六十六條及ヒ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百七十二條 賣主ハ前十二條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其知リテ告ケザリシ事實及ヒ自ラ第三者ノ爲メニ設定シ又ハ之ニ讓渡シタル權利ニ付テハ其責ヲ免ルルコトヲ得又ハ其

第五百七十三條 賣買ノ目的物ノ引渡ニ付キ期限アルトキハ代金ノ支拂

改正民法

ニ付テモ亦同一ノ期限ヲ附シタルモノト推定ス
第五百七十四條 賣買ノ目的物ノ引渡ト同時ニ代金ヲ拂フヘキキハ其

引渡ノ場所ニ於テ之ヲ拂フコトヲ要ス
第五百七十五條 未タ引渡ササル賣買ノ目的物カ果實ヲ生シタルトキハ

其果實ハ賣主ニ屬ス
買主ハ引渡ノ日ヨリ代金ノ利息ヲ拂フ義務ヲ負フ但代金ノ支拂ニ付キ

期限アルトキハ其期限ノ到來スルマテハ利息ヲ拂フコトヲ要セス
第五百七十六條 賣買ノ目的ニ付キ權利ヲ主張スル者アリテ買主カ其買

受タル全部ハ又ハ一部ヲ失フ虞アルトキハ買主ハ其危險ノ限度ニ應シ

代金全部又ハ一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得但賣主カ相當ノ擔保ヲ供シタ

ルトキハ此限ニ在ラス
第五百七十七條 買受ケタル不動産ニ付キ先取特權質權又ハ抵當權ノ登

記アル片ハ買主ハ滌除ノ手續ヲ終ハルマテ其代金ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得

但賣主ハ買主ニ對シテ遲滯ナク滌除ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得
第五百七十八條 前二條ノ場合ニ於テ賣主ハ買主ニ對シテ代金ノ供託ヲ

第三款 買 戻

第五百七十九條 不動産ノ賣主ハ賣買契約ト同時ニ爲シタル買戻ノ特約

ニ依リ買主カ拂ヒタル代金及ヒ契約ノ費用ヲ返還シテ其賣買ノ解除ヲ

爲スコトヲ得但當事者カ別段ノ意思ヲ表示セサリシトキハ不動産ノ果

實ト代金ノ利息トハ之ヲ相殺シタルモノト看做ス
第五百八十條 買戻ノ期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期

間ヲ定メタルトキハ之ヲ十年ニ短縮ス
買戻ニ付キ期間ヲ定メタルトキハ後日之ヲ伸長スルコトヲ得ス

買戻ニ付キ期間ヲ定メサリシトキハ五年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
第五百八十一條 賣買契約ト同時ニ買戻ノ特約ヲ登記シタルトキハ買戻

ハ第三者ニ對シテモ其效力ヲ生ス
登記ヲ爲シタル賃借人ノ權利ハ其殘期一年間ニ限り之ヲ以テ賣主ニ對

抗スルコトヲ得但賣主ヲ害スル目的ヲ以テ賃貸借ヲ爲シタルトキハ此

限リニ在ラス
第五百八十二條 賣主ノ債權者カ第四百二十三條ノ規定ニ依リ賣主ニ代

ハリテ買戻ヲ爲サントスルトキハ買主ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定

人ノ評價ニ從ヒ不動産ノ現時ヨリ價額カ返還スヘキ金額ヲ控除シタル

殘額ニ達スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シ尙ホ餘剩アルトキ之ヲ賣主ニ返

還シテ買戻權ヲ消滅セシムルコトヲ得
第五百八十三條 賣主ハ期間内ニ代金及ヒ契約ノ費用ヲ提供スルニ非サ

レハ買賣ヲ爲スコトヲ得ス
賣主又ハ轉得者カ不動産ニ付キ費用ヲ出シタルトキハ賣主ハ第九
十六條ノ規定ニ從ヒ之ヲ償還スルコトヲ要ス但有益費ニ付テハ裁判所
ハ賣主ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第五百八十四條 不動産ノ共有者ノ一人カ買戻ノ特約ヲ以テ其持分ヲ賣
却シタル後其不動産ノ分割又ハ競賣アリタルキハ賣主ハ買主カ受ケタ
ル若クハ受クヘキ部分又ハ代金ニ付キ買戻ヲ爲スコトヲ得但賣主ニ通知
セシメテ爲シタル分割及ヒ競賣ハ之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百八十五條 前條ノ場合ニ於テ買主カ不動産ノ競落人ト爲リタル片
ハ賣主ハ競賣ノ代金及ヒ第五百八十三條ニ掲ケタル費用ヲ拂ヒテ買戻
ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賣主ハ其不動産ノ全部ノ所有權ヲ取得ス
他ノ共有者ヨリ分割ヲ請求シタルニ因リ買主カ競落人ト爲リタルトキ
ハ賣主ハ其持分ノミニ付キ買戻ヲ爲スコトヲ得ス

第四百節 交換
第五百八十六條 交換ハ當事者カ互ニ金錢ノ所有權ニ非サル財産權ヲ移

轉スルコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ス

當事者ノ一方カ他ノ權利ト共ニ金錢ノ所有權ヲ移轉スルコトヲ約シタ
ルトキハ其金錢ニ付テハ賣買ノ代金ニ關スル規定ヲ準用ス

第五節 消費貸借

第五百八十七條 消費貸借ハ當事者ノ一方カ種類、品等及ヒ數量ノ同シ
キ物ヲ以テ返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ金錢其他ノ物ヲ受取ル
ニ因リテ其効力ヲ生ス

第五百八十八條 消費貸借ニ因ラスシテ金錢其他ノ物ヲ給付スル義務ヲ
負フ者アル場合ニ於テ當事者カ其物ヲ以テ消費貸借ノ目的ト爲スコト
ヲ約シタルトキハ消費貸借ハ之ニ因リテ成シタルモノト看做ス

第五百八十九條 消費貸借ノ豫約ハ爾後當事者ノ一方カ破産ノ宣告ヲ受
ケタルトキハ其効力ヲ失フ

第五百九十條 利息附ノ消費貸借ニ於テ物ニ隠レタル瑕疵アリタルトキ
ハ貸主ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス但損害賠償ノ請求ヲ
妨ケス

無利息ノ消費貸借ニ於テハ借主ハ瑕疵アル物ノ價額ヲ返還スルコトヲ
得但貸主カ其瑕疵ヲ知リテ之ヲ借主ニ告ケサリシトキハ前項ノ規定ヲ

準用ス

第五百九十一條 當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ貸主ハ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ催告ヲ爲スコトヲ得借主ハ何時ニテモ返還ヲ爲スコトヲ得

第五百九十二條 借主カ第五百八十七條ノ規定ニ依リテ返還ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ其時ニ於ケル物ノ價額ヲ償還スルコトヲ要ス但第四百二條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第六節 使用貸借

第五百九十三條 使用貸借ハ當事者ノ一方カ無償ニテ使用及ヒ益收ヲ爲シタル後返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手方ヨリ或物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百九十四條 借主ハ契約又ハ其目的物ノ性質ニ因リテ定マリタル用方ニ從ヒ其物ノ使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ要ス

借主ハ貸主ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ借用物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得ス借主カ前二項ノ規定ニ反スル使用又ハ收益ヲ爲シタルトキハ貸主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百九十五條 借主ハ借用物ノ通常ノ必要費ヲ負擔ス

此他ノ費用ニ付テハ第五百八十三條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百九十六條 第五百五十一條ノ規定ハ使用貸借ニ之ヲ準用ス

第五百九十七條 借主ハ契約ニ定タメル時期ニ於テ借用物ノ返還ヲ爲スコトヲ要ス

當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ借主ハ契約ニ定メタル目的ニ從ヒ使用及ヒ收益ヲ終ハリタル時ニ於テ返還ヲ爲スコトヲ要ス但其以前ト雖モ使用及ヒ收益ヲ爲スニ足ルヘキ期間ヲ經過シタルトキハ貸主ハ直チニ返還ヲ請求スルコトヲ得

當事者カ返還ノ時期又ハ使用及ヒ收益ノ目的ヲ定メサリシトキハ貸主ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

第五百九十八條 借主ハ借用物ヲ原狀ニ復シテ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ得

第五百九十九條 使用貸借ハ借主ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ失フ

第六百條 契約ノ本旨ニ反スル使用又ハ收益ニ因リテ生シタル損害ノ賠償及ヒ借主カ出シタル費用ノ償還ハ貸主カ返還ヲ受ケタル時ヨリ一年內ニ之ヲ請求スルコトヲ要ス

第七節 賃貸借

改正民法

第一 一 款 總 則

第六百一條 賃貸借ハ當事者ノ一方カ相手方ニ或物ノ使用及ヒ收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方カ之ニ其賃金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百二條 處分ノ能力又ハ權限ヲ有セサル者カ賃貸借ヲ爲ス場合ニ於テハ其賃貸借ハ左ノ期限ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 樹本ノ栽植又ハ伐採ヲ目的トスル山林ノ賃貸借ハ十年
- 二 其他ノ土地ノ賃貸借ハ五年
- 三 建物ノ賃貸借ハ三年
- 四 動産ノ賃貸借ハ六ヶ月

第六百三條 前條ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間滿了前土地ニ付テハ一年內建物ニ付テハ三個月內動産ニ付テハ一個月內ニ其更新ヲ欲スコトヲ要ス

第六百四條 賃貸借ノ存續期間ハ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ賃貸借ヲ爲シタルトキハ其期間ハ之ヲ二十年ニ短縮ス前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但更新ノ時ヨリ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二 款 賃貸借ノ效力

第六百五條 不動産ノ賃貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其不動産ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第六百六條 賃貸人ハ賃貸物ノ使用及ヒ收益ニ必要ナル修繕ヲ爲ス義務ヲ負フ賃貸人カ賃貸物ノ保存ニ必要ナル行爲ヲ爲サント欲スルトキハ賃借人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六百七條 賃貸人カ賃借人ノ意思ニ反シテ保存行爲ヲ爲サント欲スル場合ニ於テ之カ爲メ賃借人カ賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百八條 賃借人ハ賃借物ニ付キ賃貸人ノ負擔ニ屬スル必要費ヲ出タシタルトキハ賃貸人ニ對シテ直チニ其償還ヲ請求スルコトヲ得

賃借人カ有益費ヲ出タシタルトキハ賃貸人ハ賃貸借終了ノ時ニ於テ第百九十六條第二項ノ規定ニ從ヒ其償還ヲ爲スコトヲ要ス但裁判所ハ賃貸人ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第六百九條 收益ヲ目的トスル土地ノ賃借人カ不可抗力ニ因リ賃借ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ其收益ノ類ニ至ルマテ借賃ノ減額ヲ縮求スルコトヲ得但宅地ノ賃貸借ニ付テハ此限ハ在ラズ

改正民法

第六百十條 前條ノ場合ニ於テ賃借人カ不可抗力ニ因リ引續キ二年以上
借賃ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十一條 賃借物ノ一部カ賃借人ノ過失ニ因ラスシテ滅失シタルト
キハ賃借人ハ其滅失シタル部分ノ割合ニ應シテ借賃ノ減額ヲ請求スル
コトヲ得

前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミニテハ賃借人カ借賃ヲ爲シタル目
的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十二條 賃借人ハ賃借人ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ讓渡シ又
ハ賃借物ヲ轉貸スルコトヲ得ス

賃借人カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ賃借物ノ使用又ハ收益ヲ爲サ
シメタルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十三條 賃借人カ適法ニ賃借物ヲ轉貸シタルトキハ轉借人ハ賃借
人ニ接シテ直接ノ義務ヲ負フ此場合ニ於テハ借賃ノ前拂ヲ以テ賃借人
ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ賃借人カ賃借人ニ對シテ其權利ヲ行使スルコトヲ妨ケス
第六百十四條 借賃ハ動産建物及ヒ宅地ニ付テハ毎月末ニ其他ノ土地ニ
付テハ毎年末ニ之ヲ拂フコトヲ要ス但收穫季節アルモノニ付テハ其季

節後遲滯ナク之ヲ拂フコトヲ要ス

第六百十五條 賃借物カ修繕ヲ要シ又ハ賃借物ニ付キ權利ヲ主張スル者
アルトキハ賃借人ハ遲滯ナク之ヲ賃借人ニ通知スルコトヲ要ス但賃借
人カ既ニ之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第六百十六條 第五百九十四條第一項、第五百九十七條第一項及ヒ第五
百九十八條ノ規定ハ賃借借ニ之ヲ準用ス

第六百十七條 當事者カ賃借借ノ期間ヲ定メサリトキハ各當事者ハ何時
ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニテハ賃借借ハ解約申入ノ後

左ノ期間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス
一 土地ニ付テハ一年

二 建物ニ付テハ三個月

三 貸席及ヒ動産ニ付テハ一日

收穫季節アル土地ノ賃借借ニ付テハ其季節後次ノ耕作ニ着手スル前ニ
解約ノ申入ヲ爲スコトヲ要ス

第六百十八條 當事者カ賃借借ノ期間ヲ定メタルモ其一方又ハ各自カ其
期間内ニ解約ヲ爲ス權利ヲ留保シタルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六百十九條 貸借ノ期間滿了ノ後賃借人カ賃借物ノ使用又ハ收益ヲ繼續スル場合ニ於テ賃借人カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前賃借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ賃借ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

前賃借ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス但敷金ハ此限ニ在ラス

第六百二十條 賃借ヲ解除シタル場合ニ於テハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス但當事者ノ一方ニ過失アリタルトキハ之ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百二十一條 賃借人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ賃借ニ期間ノ定アルトキト雖モ賃借人又ハ破産管財人ハ第六百十七條ノ規定ニ依リテ解除ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百二十二條 第六百條ノ規定ハ賃借ニ之ヲ準用ス

第八節 雇 傭

第六百二十三條 雇傭ハ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ勞務ニ服スルヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百二十四條 勞務者ハ其約シタル勞務ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

期間ヲ以テ定メタル報酬ハ其期間ノ經過シタル後之ヲ請求スルヲ得

第六百二十五條 使用者ハ勞務者ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得ス

勞務者ハ使用者ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ自己ニ代ハリテ勞務ニ服セシムルコトヲ得ス

勞務者カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ勞務ニ服セシメタルトキハ使用者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百二十六條 雇傭ノ期間カ五年ヲ超過シ又ハ當事者ノ一方若クハ第三者ノ終身間繼續スヘキトキハ當事者ノ一方ハ五年ヲ經過シタル後何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但此期間ハ商工業見習者ノ雇傭ニ付テハ之ヲ十年トス

前項ノ規定ニ依リテ契約ノ解除ヲ爲サント欲スルトキハ三個月間ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十七條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解除ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ雇傭ハ解約申入ハ

改正民法

後二週間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス
期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テ解約ノ申入ハ次期以後ニ對シテ
之ヲ爲スコトヲ得但其申入ハ當期ノ前半ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
六個月以上ノ期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ申入ハ三
個月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十八條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メタルトキト雖モ已ムコトヲ
得サル事由アルトキハ各當事者ハ直チニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但
其事由カ當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ生シタルトキハ相手方ニ對シテ
損害賠償ノ責ニ任ス

第六百二十九條 雇傭ノ期間満了ノ後勞務者カ引續キ其勞務ニ服スル場
合ニ於テ使用者カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前雇傭ト同一ノ條
件ヲ以テ更ニ雇傭ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百二十七
條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

前雇傭ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ満了ニ因
リテ消滅ス但身元保證金ハ此限ニ在ラス

第六百三十條 第六百二十條ノ規定ハ雇傭ニ之ヲ準用ス

第六百三十一條 使用者タ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ雇傭ニ期間ノ定

アルトキト雖モ勞務者又ハ破産管財人ハ第六百二十七條ノ規定ニ依リ
テ解除ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ
解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第九節 請負

第六百三十二條 請負ハ當事者ノ一方カ或仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相
手方カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ
其效力ヲ生ス

第六百三十三條 報酬ハ仕事ノ目的物ノ引渡ト同時ニ之ヲ與フルヲ要
ス但物ノ引渡ヲ要セザルトキハ第六百二十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

第六百三十四條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アルトキハ注文者ハ請負人ニ對シ
相當ノ期間ヲ定メテ其瑕疵ノ修補ヲ請求スルコトヲ得但瑕疵カ重要ナ
ラサル場合ニ於テ其修補カ過分ノ費用ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス
注文者ハ瑕疵ノ修補ニ代ヘ又ハ其修補ト共ニ損害賠償ノ請求ヲ爲ス
ヲ得此場合ニ於テハ第五百三十三條ノ規定ヲ準用ス

第六百三十五條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アリテ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル
目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ注文者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
但建物其他土地ノ工作物ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百三十六條 前二條ノ規定ハ仕事ノ目的物ノ瑕疵カ注文者ヨリ供シタル材料ノ性質又ハ注文者ノ與ヘタル指圖ニ因リテ生シタルトキハ之ヲ適用セス但請負人カ其材料又ハ指圖ノ不適當ナルコトヲ知リテ之ヲ告ケサリシトキハ此限ニ在ラス

第六百三十七條 前三條ニ定メタル瑕疵修補又ハ損害賠償ノ請求及ヒ契約ノ解除ハ仕事ノ目的物ヲ引渡シタル時ヨリ一年內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス仕事ノ目的物ノ引渡ヲ要セサル場合ニ於テハ前項ノ期間ハ仕事終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六百三十八條 土地ノ工作物ノ請負人ハ其工作物又ハ地盤ノ瑕疵ニ付テハ引渡ノ後五年間其擔保ノ責ニ任ス但此期間ハ石造、土造、煉瓦造又ハ金屬造ノ工作物ニ付テハ之ヲ十年トス

工作物カ前項ノ瑕疵ニ因リテ滅失又ハ毀損シタル時ヨリ一年內ニ第六百三十四條ノ權利ヲ行使スルコトヲ要ス

第六百三十九條 第六百三十七條及ヒ前條第一項ノ期間ハ普通ノ時効期間內ニ限り契約ヲ以テ之ヲ伸張スルコトヲ得

第六百四十條 請負人ハ第六百三十四條及ヒ第六百三十五條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其知リテ告ケサリシ

事實ニ付テハ其責ヲ免ルコトヲ得ス

第六百四十一條 請人カ仕事ヲ完成セサル間ハ注文者ハ何時ニテモ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百四十二條 注文者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ請負人又ハ破産管財人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テ請負人ハ其既ニ爲シタル仕事ノ報酬及ヒ其報酬中ニ包含セサル費用ニ付財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十節 委任

第六百四十二條 委任ハ當事者ノ一方カ法律行為ヲ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方カ之ヲ承諾スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百四十四條 受任者ハ委任ノ本旨ニ後ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第六百四十五條 受任者ハ委任者ノ請求アルトキハ何時ニテモ委任事務ノ處理ノ狀況ヲ報告シ又委任終了ノ後ハ遲滞ナク其顛末ヲ報告スルコトヲ要ス

第六百四十六條 受任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル金錢
其他ノ物ヲ委任者ニ引渡スコトヲ要ス其收取シタル果宣亦同シ
受任者カ委任者ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ委任者
ニ移轉スルコトヲ要ス

第六百四十七條 受任者カ委任者ニ引渡スヘキ金錢又ハ其利益ノ爲ニ用
ユヘキ金額ヲ自己ノ爲メニ消費シタルトキハ其消費シタル日以後ノ利
息ヲ拂フコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス
第六百四十八條 受任者ハ特約アルニ非サレハ委任者ニ對シテ報酬ヲ請
求スルコトヲ得ス

受任者カ報酬ヲ受シヘキ場合ニ於テハ委任履行ノ後ニ非サレハ之ヲ請
求スルコトヲ得ス但期間ヲ以テ報酬ヲ定メタルトキハ第六百二十四條
第二項ノ規定ヲ準用ス
委任カ受任者ノ責ニ歸スヘカヲサル事由ニ因リ其履行ノ半途ニ於テ終
了シタルトキハ受任者ハ其既ニ爲シタル履行ノ割合ニ應シテ報酬ヲ請
求スルコトヲ得

第六百四十九條 委任事務ヲ處理スルニ付キ費用ヲ要スルトキハ委任者
ハ受任者ノ請求ニ因リ其前拂ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十條 受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ費用ヲ出
タシタルトキハ委任者ニ對シテ其費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利
息ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ債務ヲ負擔シタルトキ
ハ委任者ヲシテ自己ニ代ハリテ其辨濟ヲ爲サシメ又債務カ辨濟期ニ在
ラサルトキハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

受任者カ委任事務ヲ處理スル爲メ自己ニ過失ナクシテ損害ヲ受ケタル
トキハ委任者ニ對シテ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六百五十一條 委任者ハ各當事者ニ於テ何時ニテモ之ヲ解除スルコト
ヲ得

當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ不利ナル時期ニ於テ委任ヲ解除シタ
ルトキハ其損害ヲ賠償スルコトヲ要ス但已ムコトヲ得サル事由アルト
キハ此限ニ在ラス

第六百五十二條 第六百二十條ノ規定ハ委任ニ之ヲ準用ス

第六百五十三條 委任ハ委任者又ハ受任者ノ死亡又ハ破産ニ因リテ終了
ス受任者カ禁治産ノ宣告ヲ受タルトキハ亦同シ

第六百五十四條 委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ受任者、

其相續人又ハ法定代理人ハ委任者、其相續人又ハ法定代理人カ委任事務ヲ處理スルコトヲ得ル至ルマテ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十五條 委任終了ノ事由ハ其委任者ニ出テタルト受任者ニ出テタルヲ問ハス之ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ之ヲ知リタルトキニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百五十六條 本節ノ規定ハ法律行爲ニ非サル事務ノ委託ニ之ヲ準用ス
第十一節 寄託

第六百五十七條 寄託ハ當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ保管ヲ爲スコトヲ約シテ或物ヲ受取ルニ因リテ其効力ヲ生ス

第六百五十八條 受寄者ハ受託者ノ承諾アルニ非サレハ受寄物ヲ使用シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得ス

受託者カ第三者ヲシテ受託物ヲ保管セシムルコトヲ得ル場合ニ於テハ**第一百五條**及**第七條**第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百五十九條 無報酬ニテ寄託ヲ受ケタル者ハ寄託物ノ保管ニ付キ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲ス責ニ任ス

第六百六十條 寄託物ニ付キ權利ヲ主張スル第三者カ受寄者ニ對シテ訴ヲ提起シ又ハ差押ヲ爲シタルトキハ受寄者ハ遲滯ナク其事實ヲ寄託者

ニ通知スルコトヲ要ス

第六百六十一條 寄託者ハ寄託物ノ性質又ハ瑕疵ヨリ生シタル損害ヲ受寄者ニ賠償スルコトヲ要ス但寄託者カ過失ナクシテ其性質若クハ瑕疵ヲ知ラサリシトキ又ハ受寄者カ之ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十二條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メタルトキト雖モ寄託者ハ何時ニテモ其返還ヲ請求スルコトヲ得

第六百六十三條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ受寄者ハ何時ニテモ其返還ヲ爲スコトヲ得

返還時期ノ定アルトキハ受寄者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ其期限前ニ返還ヲ爲スコトヲ得ス

第六百六十四條 寄託物ノ返還ハ其保管ヲ爲スヘキ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但受寄者ノ正當ノ事由ニ因リテ其物ヲ轉置シタルトキハ其

現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還スルコトヲ得

第六百六十五條 **第六百四十六條**乃至**第六百四十九條**及**第六百五十條**第一項、第二項ノ規定ハ寄託ニ之ヲ準用ス

第六百六十六條 受寄者カ契約ニ依リ受寄物ヲ消費スルコトヲ得ル場合ニ於テハ消費貸借ニ關スル規定ヲ準用ス但契約ニ返還ノ時期ヲ定メサ

リシトキハ寄託者ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

第十二節 組合

第六百六十七條 組合契約ハ各當事者カ出資ヲ爲シテ共同ノ事業ヲ營ム

コトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ス

出資ハ勞務ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第六百六十八條 各組合員ノ出資其他組合財産ハ總組合員ノ共有ニ屬ス

第六百六十九條 金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ組合員カ

其出資ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ其利息ヲ拂フ外尙ホ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第六百七十條 組合ノ業務執行ハ組合員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

組合契約ヲ以テ業務ノ執行ヲ委任シタル者數人アルトキハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

組合ノ業務ハ前二項ノ規定ニ拘ラス各組合員又ハ各業務執行者之ヲ專行スルコトヲ得但其結了前ニ他ノ組合員又ハ業務執行者カ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第六百七十一條 組合ノ業務ヲ執行スル組合員ニハ第六百四十四條乃至

第六百五十條ノ規定ヲ準用ス

第六百七十二條

組合契約ヲ以テ一人又ハ數人ノ組合員ニ業務ノ執行ヲ委任シタルトキハ其組合員ハ正當ノ事由アルニ非サレハ辭任ヲ爲スコトヲ得又解任セララルコトナシ

第六百七十三條

各組合員ハ組合ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサルトキト雖モ其業務及ヒ組合財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第六百七十四條

當事者カ損益分配ノ割合ヲ定メサリシトキハ其割合ハ各組合員ノ出資ノ價額ニ應シテ之ヲ定ム

第六百七十五條

組合ノ債權者ハ其債權發生ノ當時組合員ノ損失分擔ノ割合ヲ知ラサリシトキハ各組合員ニ對シ均一部分ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

第六百七十六條

組合員カ組合財産ニ付キ其持分ヲ處分シタルトキハ其處分ハ之ヲ以テ組合及組合ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス組合員ハ清算前ニ組合財産ノ分割ヲ求ムルコトヲ得ス

第六百七十七條

組合ノ債務者ハ其債務ト組合員ニ對スル債權トヲ相殺

改正民法

スルコトヲ得ス

第六百七十八條 組合財産ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メサリシトキ又ハ或組合員ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各組合員ハ何時ニテモ脱退ヲ爲スコトヲ得但己ムヲ得サル事由アル組合ヲ除ク外組合ノ爲メ不利ナル時期ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス
組合ノ存續期間ヲ定メタルトキ雖モ各組合員ハ己ムコトヲ得サル事由アルトキハ脱退ヲ爲スコトヲ得

第六百七十九條 前條ニ掲ケタル場合ノ外組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス

一 死亡

二 破産

三 禁治産

四 除名

第六百八十條 組合員ノ除名ハ正當ノ事由アル場合ニ限り他ノ組合員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル組合員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百八十一條 脱退シタル組合員ト他ノ組合員トノ間ノ計算ハ脱退ノ

當時ニ於ケル組合財産ノ狀況ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

脱退シタル組合員ノ持分ハ其出資ノ種額如何ヲ問ハス金錢ヲ以テ之ヲ拂戻スコトヲ得

脱退ノ當時ニ於テ未タ結了セサル事項ニ付テハ其結了後ニ計算ヲ爲スコトヲ得

第六百八十二條 組合ハ其目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能ニ依リテ解散ス

第六百八十三條 己ムコトヲ得サル事由アルトキハ各組合員ハ組合ノ解散ヲ請求スルコトヲ得

第六百八十四條 第六百二十條ノ規定ハ組合契約ニ之ヲ準用ス

第六百八十五條 組合カ解散シタルトキハ清算ハ總組合員共同ニテ又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス
清算人ノ選任ハ總組合員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第六百八十六條 清算人數人アルトキハ第六百七十條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十七條 組合契約ヲ以テ組合員中ヨリ清算人ヲ選任シタルトキハ第六百七十二條ノ規定ヲ準用ス
第六百八十八條 清算人ノ職務及ヒ權限ニ付テハ第七十八條ノ規定ヲ準

用ス殘餘財産ハ各組合員ノ出資ノ價額ニ應シテ之ヲ分割ス

第十三節 終身定期金

第六百八十九條 終身定期金契約ハ當事者ノ一方カ自己相手方又ハ第三者ノ死亡ニ至ルマテ定期ニ金錢其他ノ物ヲ相手方又ハ第三者ニ給付スルコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ス

第六百九十條 終身定期金ハ日割ヲ以テ於テ計算ス

第六百九十一條 定期金債務者カ定期金ノ元本ヲ受ケタル場合ニ於テ其定期金ノ給付ヲ怠リ又ハ其他ノ義務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ元本ノ返還ヲ請求スルコトヲ得但既ニ受取リタル定期金ノ中ヨリ其元本ノ利息ヲ控除シタル殘額ヲ債務者ニ返還スルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百九十二條 第五百三十三條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百九十三條 死亡カ定期金債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ裁判所ハ債權者又ハ其相續人ノ請求ニ因リ相當ノ期間債權ノ存續スルコトヲ宣告スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第六百九十一條ニ定メタル權利ノ行使ヲ妨ケス
第六百九十四條 本節ノ規定ハ終身定期金ノ遺贈ニ之ヲ準用ス

第十四節 和解

第六百九十五條 和解ハ當事者カ互ニ讓歩ヲ爲シテ其間ニ存スル爭ヲ止メルコトヲ約スルニ因リテ其効力ヲ生ス

第六百九十六條 當事者ノ一方カ和解ニ依リテ爭ノ目的タル權利ヲ有スル者ト認メラレ又ハ相手方カ之ヲ有セサル者ト認メラレタル場合ニ於テ其者カ從來此權利ヲ有セサリシ確證又ハ相手方カ之ヲ有セシ確證出テタル片ハ其權利ハ和解ニ因リテ其者ニ移轉シ又ハ消滅シタル者トス

第三章 事務管理

第六百九十七條 義務ナクシテ他人ノ爲メニ事務ノ管理ヲ始メタル者ハ其事務ノ性質ニ從ヒ最モ本人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其管理ヲ爲スコトヲ要ス

管理者カ本人ノ意思ヲ知リタルトキ又ハ之ヲ推知スルコトヲ得ヘキトキハ其意思ニ從ヒテ管理ヲ爲スコトヲ要ス

第六百九十八條 管理者カ本人ノ身體、名譽又ハ財産ニ對スル急迫ノ危害ヲ免レシムル爲メニ其事務ノ管理ヲ爲シタルトキハ惡意又ハ重大ナル過失アルニ非サレハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス
第六百九十九條 管理者ハ其管理ヲ始ムルコトヲ遲滯ナク本人ニ通知ス

ルコトヲ要ス但本人カ既ニ之ヲ知レタルトキハ此限ニ在ラス
第七百條 管理者ハ本人、其相續人又ハ法定代理人ノ管理ヲ爲スヲ得
ルニ至ルマテ其管理ヲ繼續スルコトヲ要ス但其管理ノ繼續カ本人ノ意
思ニ反シ又ハ本人ノ爲メニ不利ナルコト明カナルトキハ此限ニ在ラス
第七百一條 第六百四十五條乃至第六百四十七條ノ規定ハ事務管理ニ之
ヲ準用ス

第七百二條 管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル費用ヲ出シタルトキハ本人
ニ對シテ其償還ヲ請求スルコトヲ得
管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル債務ヲ負擔シタルトキハ第六百五十條
第二項ノ規定ヲ準用ス管理者カ本人ノ意思ニ反シテ管理ヲ爲シタルト
キハ本人ノ爲メニ利益ヲ受ケル限度ニ於テノミ前二項ノ規定ヲ適用ス
第四章 不當利得

第七百三條 法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産又ハ勞務ニ因リ利益ヲ受
ケ之カ爲メニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ
之ヲ返還スル義務ヲ負フ
第七百四條 惡意ノ受益者ハ其受ケタル利益ニ利息ヲ附シテ之ヲ返還ス
ルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第七百五條 債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其當時債務ノ存在セ
サルコトヲ知リタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得
第七百六條 債務者カ辨濟期ニ在ラサル債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタ
ルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得但債務者カ錯
誤ニ因リテ其給付ヲ爲シタルトキハ債權者ハ之ニ因リテ得タル利益ヲ
返還スルコトヲ要ス

第七百七條 債務者ニ非サル者カ錯誤ニ因リテ債務ノ辨濟ヲ爲シタル場
合ニ於テ債權者カ善意ニテ證書ヲ毀滅シ、擔保ヲ拋棄シ又ハ時效ニ因
リテ其債權ヲ失ヒタルトキハ辨濟者ハ返還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ハ辨濟者ヨリ債務者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス
第七百八條 不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ
返還ヲ請求スルコトヲ得但不法ノ原因カ受益者ニ付テノミ存シタル
トキハ此限ニ在ラス

第五章 不法行爲

第七百九條 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因
リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第七百十條 他人ノ身體自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財産權ヲ害シタ

ル場合トフ問ハス前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責ニ任スル者ハ財産以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百一十一條 他人ノ生命ヲ害シタル者ハ被害者ノ父母配偶者及ヒ子ニ對シテハ其財産權ヲ害セラレサリシ場合ニ於テモ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百一十二條 未成年者シ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其行爲ノ責任ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具ヘサリシトキハ其行爲ニ付キ賠償ノ責ニ任セス

第七百一十三條 心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責ニ任セス但故意又ハ過失ニ因リテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニ在ラス

第七百一十四條 前二條ノ規定ニ依リ無能力者ニ責負ナキ場合ニ於テ之ヲ監督スヘキ法定ノ義務アル者ハ其無能力者カ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但監督義務者カ其義務ヲ怠ラサリシキハ此限リニ在ラス監督義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百一十五條 或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スル者ハ被害者カ其事業ニ執行ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但更用者カ被害者

ノ選任及ヒ其事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ損害カ生スヘカラサリシトキハ此限ニ在ラス

使用者ニ代ハリテ事業ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス
前二項ノ規定ハ使用者又ハ監督者ヨリ被用者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百一十六條 注文者ハ請負人カ其仕事ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス但注文又ハ指圖ニ付キ注文者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百一十七條 土地ノ工作物ノ設置又ハ保存ニ瑕疵アルニ因リテ他人ニ損害ヲ生シタルトキハ其工作物ノ占有者ハ被害者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス但占有者カ損害ノ發生ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲シタルトキハ其損在ハ所有者之ヲ賠償スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ竹木ノ栽植又ハ支持ニ瑕疵アル場合ニ之ヲ準用ス
前二項ノ場合ニ於テ他ニ損害ノ原因ニ付キ其責ニ任スヘキ者アルトキハ占有者又ハ所有者ハ之ニ對シテ求償權ヲ行使スルコトヲ得

第七百一十八條 動物ノ占有者ハ其動物カ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但動物ノ種類及ヒ性質ニ從ヒ相當ノ注意ヲ以テ其保管ヲ爲シ

改正民法

タルトキハ此限ニ在ラズ

占有者ニ代ハリテ動物ヲ保管スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百十九條 數人カ共同ノ不法行為ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルト

キハ各自連帶ニテ其賠償ノ責ニ任ス共同行為者中ノ孰レカ其損害ヲ加ヘタルカヲ知ルコト能ハサルトキ亦同シ

教唆者及ヒ幫助者ハ之ヲ共同行為者ト看做ス

第七百二十條 他人ノ不法行為ニ對シ自己又ハ第三者ノ權利ヲ防衛スル

爲メ己ムコトヲ得スシテ加害行為ヲ爲シタル者ハ損害賠償ノ責ニ任セス但被害者ヨリ不法行為ヲ爲シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス前項ノ規定ハ他人ノ物ヨリ生シタル急迫ノ危難ヲ避クル爲メ其物ヲ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百二十一條 胎兒ハ損害賠償ノ請求權ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス

ト看做ス

第七百二十二條 第四百十七條ノ規定ハ不法行為ニ因ル損害ノ賠償ニ之

ヲ準ス

被害者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第七百二十三條

他人ノ名譽ヲ毀損シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償ニ代ヘ又ハ損害賠償ト共ニ名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第七百二十四條

不法行為ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ被害者又ハ其法定代理人カ損害及ヒ加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス不法行為ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第四編 親族

第一章 總則

第七百二十五條 左ニ掲ケタル者ハ之ヲ親族トス

- 一 六親等内ノ血族
- 二 配偶者
- 三 三親等内ノ姻族

第七百二十六條

親等ハ親族間ノ世數ヲ算シテ之ヲ定ム
傍系親ノ親等ヲ定ムルニハ其一人又ハ其配偶者ヨリ同始祖ニ遡リ其始祖ヨリ他ノ一人ニ下ルマテノ世數ニ依ル

第七百二十七條

養子ト養親及ヒ其血族トノ間ニ於テハ養子縁組ノ日ヨ

リ血族間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生ス
第七百二十八條 繼父母ト繼子ト又繼母ト庶子トノ間ニ於ケルト同一ノ

親族關係ヲ生ス

第七百二十九條 姻族關係及ヒ前條ノ親族關係ハ離婚ニ因リテ止ム

夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ生存配偶者カ去リタルトキ亦同シ

第七百三十條 養子ト養親及ヒ其血族トノ親族關係ハ離婚ニ因リテ止

ム養親カ養家ヲ去リタルトキハ其者及ヒ其實力ノ血族ト養子トノ親族

關係ハ之ニ因リテ止ム養子ノ配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者カ養子ノ

離縁ニ因リテ之ト共ニ養家ヲ去リタルトキハ其者ト親族及ヒ其血族ト

ノ親族關係ハ之ニ因リテ止ム

第七百三十一條 第七百二十九條第二項及ヒ前條第二項ノ規定ハ本家相

續、分家及ヒ廢絶家再興ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第二章 戸主及ヒ家族

第一節 總則

第七百三十二條 戸主ノ親族ニシテ其家ニ在ル者及ヒ其配偶者ハ之ヲ家

族トス

戸主ノ變更アリタル場合ニ於テハ舊戸主及其家族ハ新戸主ノ家族トス

第七百三十三條 子ハ父ノ家ニ入ル

父ノ知レタル子ハ母ノ室ニ入ル

父母共ニ知レサル子ハ一家ヲ創立ス

第七百三十四條 父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リタ

ルトキハ前條第一項ノ規定ハ懷胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ

子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百三十五條 家族ノ庶子及ヒ私生子ハ戸主ノ同意アルニ非サレハ其

家ニ入ルコトヲ得ス庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ母ノ家ニ

入ル私生子カ母ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ一家ヲ創立ス

第七百三十六條 女戸主カ入夫婚姻ヲ爲シタルハ夫ハ其家ノ戸主ト

爲ル但當事者カ婚姻ノ當時反對ノ意思ヲ表示シタルハ此限ニ在ラス

第七百三十七條 戸主ノ親族ニシテ他家ニ在ル者ハ戸主ノ同意ヲ得テ其

家族ト爲ルコトヲ得但其者カ他家ノ家族タルトキハ其家ノ戸主ノ同意

ヲ得ルコトヲ要ス

前項ニ掲ケタル者カ未成年者ナルトキハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後

見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

改正民法

第七百二十八條

婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ其配偶者又ハ養親ノ親族ニ非サル自己ノ親族ヲ婚家又ハ養家ノ家族ト爲サント欲スルトキハ前條ノ規定ニ依ル外其配偶者又ハ養親ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

婚家又ハ養家ヲ去リタル者カ其家ニ在ル自己ノ直系卑屬ヲ自家ノ家族ト爲サント欲スルトキ亦同シ

第七百三十九條

婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者ハ離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テ實家ニ復籍ス

第七百四十條

前條ノ規定ニ依リテ實家ニ復籍スヘキ者カ實家ノ廢絶ニ因リテ復籍ヲ爲スコト能ハサルトキハ一家ヲ創立ス但實家ヲ再興スルコトヲ妨ケス

第七百四十一條

婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ更ニ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ婚家又ハ養家及ヒ實家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百四十二條

前項ノ場合ニ於テ同意ヲ爲ササリシ戸主ハ婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一年内ニ復籍ヲ拒ムコトヲ得

第七百四十三條

復籍ヲ拒マレタル者カ離婚又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リタル者亦同シ

第七百四十四條

家族ハ戸主ノ同意アルトキハ他家ヲ相續シ分家ヲ爲シ又ハ廢絶シタル本家、分家、同家其他親族ノ家ヲ再興スルコトヲ得但未成年者ハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百四十五條

法定ノ推定家督相續人ハ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立スルコトヲ得但本家相續ノ必要アルトキハ此限ニ在ラス

第七百四十六條

前項ノ規定ハ第七百五十條第二項ノ適用ヲ妨ケス

第七百四十七條

夫カ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立シタルトキハ妻ハ之ニ隨ヒテ其家ニ入ル

第七百四十八條

戸主及ヒ家族ハ其家ノ氏ヲ稱ス

第七百四十九條

戸主又ハ家族ノ孰レニ屬スルカ分明ナラサル財産ハ其特有財産トス

家族カ前項ノ規定ニ違反シテ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラサル間ハ戸主ハ之ニ對シテ扶養ノ義務ヲ免ル

第二節

戸主及ヒ家族ノ權利義務

前項ノ場合ニ於テ戸主ハ相當ノ期間ヲ定メ其指定シタル場所ニ居所ヲ轉スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ家族カ其催告ニ應セサルハ戸主ハ之ヲ離籍スルコトヲ得但其家族カ未成年者ナルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十條 家族カ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
家族カ前項ノ規定ニ違反シテ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シタルトキハ戸主ハ其婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一年内ニ離籍ヲ爲シ又ハ復籍ヲ拒ムコトヲ得

家族カ養子ヲ爲シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ從ヒ離籍セラレタルトキハ其養子ハ養親ニ隨ヒテ其家ニ入ル

第七百五十一條 戸主カ其權利ヲ行フコト能ハサルトキハ親族會之ヲ行フ但戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者又ハ其後見人アルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十二條 戸主ハ左ニ掲ケタル條件ノ具備スルニ非サレハ隱居ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 滿六十年以上ナルコト
- 二 完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相續ノ單純ヲ承認ヲ爲スコト

第七百五十三條 戸主カ疾病本家ノ相續又ハ再興其他已ムコトヲ得サル事由ニ因リテ爾後家政ヲ執ルコト能ハサルニ至ラザルトキハ前條ノ規定ニ拘ハラヌ裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲ爲スコトヲ得但法定ノ推定家督相續人アラサルトキハ豫メ家督相續人タルヘキ者ヲ定メ其承認ヲ得ルコトヲ要ス

第七百五十四條 戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ隱居ヲ爲スコトヲ得
戸主カ隱居ヲ爲サスシテ婚姻ニ因リ他家ニ入ラント欲スル場合ニ於テ戶籍吏カ其届出ヲ受理シタルトキハ其戸主ハ婚姻ノ日ニ於テ隱居ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百五十五條 女戸主ハ年齢ニ拘ハラヌ隱居ヲ爲スコトヲ得
有夫ノ女戸主カ隱居ヲ爲スニハ其夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但夫ハ正當ノ理由アルニ非サレハ其同意ヲ拒ムコトヲ得ス

第七百五十六條 無能力者カ隱居ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

第七百五十七條 隱居ハ隱居者及ヒ其家督相續人ヨリ之ヲ戶籍吏ニ届出ツルニ因リテ其効力ヲ生ス

第七百五十八條 隱居者ノ親族及ヒ檢事ハ隱居届出ノ日ヨリ三個月内ニ
第七百五十二條又ハ第七百五十三條ノ規定ニ違反シタル隱居ノ取消ヲ
裁判所ニ請求スルコトヲ得

女戸主カ第七百五十五條第二項ノ規定ニ違反シテ隱居ヲ爲シタルトキ
ハ夫ハ前項ノ期間内ニ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第七百五十九條 隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隱居ノ
届出ヲ爲シタルトキハ隱居者又ハ家督相續人ハ其詐欺ヲ發見シ又ハ強
迫ヲ免レタル時ヨリ一年内ニ隱居ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
但追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

隱居者又ハ家督相續人カ詐欺ヲ發見セス又ハ強迫ヲ免レサル間ハ其親
族又ハ檢事ヨリ隱居ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但其請求ノ後隱居者又
ハ家督相續人カ追認ヲ爲シタルトキハ取消權ハ之ニ因リテ消滅ス
前二項ノ取消權ハ隱居届出ノ日ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因
リテ消滅ス

第七百六十條 隱居ノ取消前ニ家督相續人ノ債權者ト爲リタル者ハ其
取消ニ因リテ戸主タル者ニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得但家督相
續人ニ對スル請求ヲ妨ケス

債權者カ債權取得ノ當時隱居取消ノ原因ノ存スルコトヲ知リタルトキ
ハ家督相續人ニ對シテノ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得家督相續人カ家
督相續前ヨリ負擔セル債務及ヒ其一身ニ專屬スル債務ニ付キ亦同シ
第七百六十一條 隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル戸主權ノ喪失ハ前戸主又ハ家
督相續人ヨリ前戸主ノ債權者及ヒ債務者ニ其通知ヲ爲スニ非サレハ之
ヲ以テ其債權者及ヒ債務者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百六十二條 新ニ家ヲ立テタル者ハ其家ヲ廢シテ他家ニ入ルコトヲ
得家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ其家ヲ廢スルコトヲ得但本
家ノ相續又ハ再興其他正當ノ事由ニ因リ裁判所ノ許可ヲ得タルトキハ
此限ニ在ラス

第七百六十三條 戸主カ適法ニ廢家シテ他家ニ入リタルトキハ其家族モ
亦其家ニ入ル

第七百六十四條 戸主ヲ失ヒタル家ニ家督相續人ナキトキハ絶家シタル
モノトシ其家族ハ各一家ヲ創立ス但子ハ父ニ隨ヒ又父カ知レサルトキ
他家ニ在ルトキ若クハ死亡シタルトキハ母ニ隨ヒテ其家ニ入ル
前項ノ規定ハ第七百四十五條ノ適用ヲ妨ケス

第三章 婚姻

改正民法

第一節 婚姻ノ成立

第一款 婚姻ノ要件

第七百六十五條 男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラサレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十六條 配偶者アル者ハ重テ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十七條 女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタル後ニ非サレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ス

女カ前婚ノ解消又ハ取消ノ前ヨリ懐胎シタル場合ニ於テハ其分娩ノ日ヨリ前項ノ規定ヲ適用セス

第七百六十八條 姦通ニ因リテ離婚又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ相姦者トシテ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十九條 直系血族又ハ三親等内ノ傍系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス但養子ト養方ノ傍系血族トノ間ハ此限ニ在ラス

第七百七十條 直系姻族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス第七百二十九ノ規定ニ依リ姻族關係カ止ミタル後亦同シ

第七百七十一條 養子、其配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者ト養親又ハ其直系卑屬トノ間ニ於テハ第七百三十條ノ規定ニ依リ親族關係カ止ミタル後ト雖モ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百七十二條 子カ婚姻ヲ爲スニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但男カ滿三十年女カ滿二十五年ニ達シタル後ハ此限ニ在ラス

父母ノ一方カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ足ル

意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百七十三條 繼父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意セサルトキハ子ハ親族會ノ同意ヲ得テ婚姻ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條 禁治産者カ婚姻ヲ爲スニハ其後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

第七百七十五條 婚姻ハ之ヲ戶籍吏ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス

前項ノ届出ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七百七十六條 戶籍吏ハ婚姻カ第七百四十一條第一項、第七百四十四條第一項、第七百五十條第一項、第七百五十四條第一項、第七百六十

條第一項、第七百五十五條第一項、第七百五十九條第一項、第七百六十

條第一項、第七百六十一條第一項、第七百六十二條第一項、第七百六十三條第一項、第七百六十四條第一項、第七百六十五條第一項、第七百六十六條第一項、第七百六十七條第一項、第七百六十八條第一項、第七百六十九條第一項、第七百七十條第一項、第七百七十一條第一項、第七百七十二條第一項、第七百七十三條第一項、第七百七十四條第一項、第七百七十五條第一項、第七百七十六條第一項、第七百七十七條第一項、第七百七十八條第一項、第七百七十九條第一項、第七百八十條第一項、第七百八十一條第一項、第七百八十二條第一項、第七百八十三條第一項、第七百八十四條第一項、第七百八十五條第一項、第七百八十六條第一項、第七百八十七條第一項、第七百八十八條第一項、第七百八十九條第一項、第七百九十條第一項、第七百九十一條第一項、第七百九十二條第一項、第七百九十三條第一項、第七百九十四條第一項、第七百九十五條第一項、第七百九十六條第一項、第七百九十七條第一項、第七百九十八條第一項、第七百九十九條第一項、第八百條第一項

五條乃至第七百七十三條及ヒ前條第二項ノ規定其他ノ法令ニ違反セザルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコト得ス但婚姻カ第七百四十一條第一項又ハ第七百五十條第一項ノ規定ニ違反スル場合ニ於テ戸籍吏カ注意ヲ爲シタルニ拘ハラズ當事者カ其届出ヲ爲サント欲スルトキハ此限ニ任ラズ

第七百七十七條 外國ニ在ル日本人間ニ於テ婚姻ヲ爲サント欲スルトキハ其國ニ駐在スル日本公使又ハ領事ニ其届出チ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第二款 婚姻ノ無効及ヒ取消
第七百七十八條 婚姻ハ左ノ場合ニ限リ無効トス
一 人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ婚姻ヲ爲ス意思ナキトキ

二 當事者カ婚姻ノ届出ヲ爲ササルトキ但其届出カ第七百七十五條第二項ニ掲ケタル條件ヲ缺クニ止マルトキハ婚姻ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第七百七十九條 婚姻ハ後七條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス
第七百八十條 第七百六十五條乃至第七百七十一條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ各當事者、其戸主又ハ檢事ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但檢事ハ當事者ノ一方カ死亡シタル後ハ之ヲ請求スルコト得ス

第七百六十六條乃至第七百六十八條ノ規定ニ違反シタル婚姻ニ付テハ當事者ノ偶配者又ハ婚配偶者モ亦其取消ヲ請求スルコトヲ得
第七百八十一條 第七百六十五條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ不適齡者カ適齡ニ達シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス
不適齡者ハ適齡ニ達シタル後尙ホ三ヶ月間其婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但適齡ニ達シタル後追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラズ

第七百八十二條 第七百六十七條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ前婚ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ六ヶ月ヲ經過シ又ハ女カ再婚後懐胎シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百八十三條 第七百七十二條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ亦同シ

第七百八十四條 前條ノ取消權ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス
一 同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者カ婚姻アリタルコトヲ知リタル後又ハ詐欺ヲ發見シ若クハ強迫ヲ免レタル後六ヶ月ヲ經過シタル片

改正民法

二 同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者カ追認ヲ爲シタルトキ

三 婚姻届出ノ日ヨリ二年ヲ經過シタルトキ

第七百八十五條 詐欺又ハ強迫ニ因リテ婚姻ヲ爲シタル者ハ其婚姻ノ取
消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ取消權ハ當事者カ詐欺ヲ發見シ若クハ強迫ヲ免レタル後三個月

ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ消滅ス

第七百八十六條 婿養子縁組ノ場合ニ於テハ各當事者ハ縁組ノ無効又ハ

取消ヲ理由トシ婚姻ヲ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但縁組ノ無効

又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス

前項ノ取消權ハ當事者カ縁組ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコト

ヲ知リタル後三個月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス

第七百八十七條 婚姻ノ取消ハ其效力ヲ既往ニ及ボサス

婚姻ノ當時取消ノ原因ノ存スルコトヲ知ラザリシ當事者カ婚姻ニ因リ

テ財産ヲ得タルトキハ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ其返還ヲ爲スコト

ヲ要ス

婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルコトヲ知リタル當事者ハ婚姻ニ因リ

テ得タル利益ノ全部ヲ返還スルコトヲ要ス尙ホ相手方カ善意ナリシト

キハ之ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第二節 婚姻ノ效力

第七百八十八條 妻ハ婚姻ニ因リテ夫ノ家ニ入ル

入夫及ヒ婿養子ハ妻ノ家ニ入ル

第七百八十九條 妻ハ夫ト同居スル義務ヲ負フ

夫ハ妻ヲシテ同居ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第七百九十條 夫婦ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ

第七百九十一條 妻カ未成年者ナルトキハ成年ノ夫ハ其後見人ノ職務ヲ

行フ

第七百九十二條 夫婦間ニ於テ契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ婚姻中何

時ニテモ夫婦ノ一方ヨリ之ヲ取消スコトヲ得但第三者ノ權利ヲ害スル

コトヲ得ス

第三節 夫婦財産制

第一款 總則

第七百九十三條 夫婦カ婚姻ノ届出前ニ其財産ニ付キ別段ノ契約ヲ爲サ

ザリシトキハ其財産關係ハ次款ニ定ムル所ニ依ル

第七百九十四條 夫婦カ法定財産制ニ異ナリタル契約ヲ爲シタルトキハ

婚姻ノ届出マテニ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ
第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百九十五條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ異ナルタル契約ヲ爲
シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メ
タルトキハ一年内ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於テハ之ヲ以
テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百九十六條 夫婦ノ財産關係ハ婚姻届出ノ後ハ之ヲ變更スルコトヲ
得ス夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ財産ヲ管理スル場合於テ管理ノ失當ニ因
リ其財産危クシタルトキハ他ノ一方ハ自ラ其管理ヲ爲サンコトヲ裁判
所ニ請求スルコトヲ得

共有財産ニ付テハ前項ノ請求ト共ニ其分割ヲ請求スルコトヲ得
第七百九十七條 前條ノ規定又ハ契約ノ結果ニ依リ管理者ヲ變更シ又ハ
共有財産ノ分割ヲ爲シタルトキハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫
婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二款 法定財産制
第七百九十八條 夫ハ婚姻ヨリ生スル一切ノ費用ヲ負擔ス但妻カ戸主タ
ルトキハ妻之ヲ負擔ス

前項ノ規定ハ第七百九十條及ヒ第八章ノ規定ノ適用ヲ妨ケヌ
第七百九十九條 夫又ハ女戸主ハ用方ニ從ヒ其配偶者ノ財産ノ使用及ヒ
收益ヲ爲ス權利ヲ有ス

夫又ハ女戸主ハ其配偶者ノ財産ノ果實中ヨリ其債務ノ利息ヲ拂フコト
ヲ要ス
第八百條 第五百九十五條及ヒ第五百九十八條ノ規定ハ前條ノ場合ニ
之ヲ準用ス

第八百一條 夫ハ妻ノ財産ヲ管理ス
夫カ妻ノ財産ヲ管理スルコト能ハサルトキハ妻自ラ之ヲ管理ス

第八百二條 夫カ妻ノ爲メニ借財ヲ爲シ妻ノ財産ヲ讓渡シハ之ヲ擔保ニ
供シ又ハ第六百二條ノ期間ヲ超エテ其貸付ヲ爲スニハ妻ノ承諾得ルコ
トヲ要ス但管理ノ目的ヲ以テ果實ヲ處分スルハ此限ニ在ラズ

第八百三條 夫カ妻ノ財力ニ因リ夫ヲシテ其財産ヲ管理及ヒ返還ニ付キ相當
ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得
第八百四條 日常ノ家事ニ付テハ妻ハ夫ノ代理人ト看做ス但此ノ代理權
夫ノ承認スルコトヲ得但之ヲ以テ善意
改正民法

第三百五條 夫對抗スルコトヲ得ス
夫カ妻ノ財產ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ於テハ自己ノ爲メニスル同一ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第六百六條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ夫カ妻ノ財產ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八百七條 妻又ハ夫カ婚姻前ヨリ有セル財產及ヒ婚姻中自己ノ名ニ於テ得タル財產ハ其特有財產トス
夫ハ妻ノ財產ハ夫又ハ女戸主ノ財產トス

第八百八條 協議上ノ離婚
夫婦ハ其協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得

第八百九條 滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離婚ヲ爲スニハ第七百七十二條及ヒ第七百七十三條ノ規定ニ依リ其婚姻ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百十條 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ協議上ノ離婚ニ之ヲ準用ス
第八百十一條 戶籍吏ハ離婚カ第七百七十五條第二項及ヒ第八百九條ノ

規定其他ノ法令ニ違反セザルコトヲ認メタル後ニ非ザレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス
戶籍吏カ前項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シタルトキト雖モ離婚ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルコトナシ

第八百十二條 協議上ノ離婚ヲ爲シタル者カ其協議ヲ以テ子ノ監護ヲ爲スヘキ者ヲ定メサリシトキハ其監護ハ父ニ屬ス
父カ婚姻ニ因リテ婚家ヲ去リタル場合ニ於テハ子ノ監護ヲ母ニ屬ス

前二項ノ規定ハ監護ノ範圍外ニ於テ父母ノ權利義務ニ變更ヲ生スルコトナシ

第八百十三條 裁判上ノ離婚
第二款 裁判上ノ離婚
配偶者カ重婚ヲ爲シタルトキ
妻カ姦通ヲ爲シタルトキ
夫カ姦淫罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルトキ

三 配偶者カ偽造、賄賂、猥褻、竊盜、詐欺取財、受寄財物取消、贓物ニ關スル罪若クハ刑法第七十五條第二百六十條ニ掲ケタル罪ニ因リテ經罪以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ニ因リテ重禁

改正民法

五 鋼三年以上之刑ニ處セラルトキハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルハ
 六 配偶者ヨリ同居ニ堪ハサル虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルハ
 七 配偶者ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ
 八 配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
 九 配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル
 十 侮辱ヲ加ヘタルトキ
 十一 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ
 十二 婿養子縁組ノ場合ニ於テ縁組アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚
 姻ヲ爲シタル場合ニ於テ縁組ノ取消アリタルトキ
 第八百十四條 前條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一
 方ノ行爲ニ同意シタルトキハ離婚ノ訴ヲ提起スルコト得ス
 前條第一號乃至第七號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方又ハ其直
 尊屬ノ行爲ヲ宥恕シタルトキ亦同シ
 第八百十五條 第八百十三條第四號ニ掲ケタル處刑ノ宣告ヲ受ケタル者
 其配偶者ニ同一ノ事由アルコトヲ理由トシテ離婚ノ訴ヲ提起スルコ
 ト得ス
 第八百十六條 第八百十三條第一號乃至第八號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ

之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離婚ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ
 一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十
 年ヲ經過シタル後亦同シ
 第八百十七條 第八百十三條第九號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ配偶者ノ生
 死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス
 第八百十八條 第八百十三條第十號ノ場合ニ於テ縁組取消ノ請
 求アリタルトキハ之ニ附帶シテ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第八百十九條 第八百十三條第十一號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ當事者カ縁組
 取消アリタルコトヲ知リタル後三個月ヲ經過シ又ハ離婚請求ノ權利ヲ
 拋棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得
 第八百十九條 第八百十二條ノ規定ハ裁判上ノ離婚ニ之ヲ準用ス但裁判
 所ノ子ノ利益ヲ爲メ其監護ニ付キ之ニ異ナリタル處分ヲ命スルコトヲ得
 第八百二十四條 親生子
 第八百二十五條 第一節 實子
 第八百二十六條 第一款 嫡出子
 婚姻成立之日ヨリ無百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日

納ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懷胎シタルモノト推定ス
第八百二十一條 第七百六十七條第一項ノ規定ニ違反シテ
ル女カ分娩シタル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ其子ノ父ヲ定ムルコト
能ハサル時キハ裁判所之ヲ定ム

第八百二十二條 第八百二十條ノ場合ニ於テ夫ハ子ノ嫡出ナルコトヲ否
認スルコトヲ得

第八百二十三條 前條ノ否認權ハ子又ハ其法定代理人ニ對スル依
テ之ヲ行フ但夫カ子ノ法定代理人ナル時キハ裁判所ハ特別代理人ヲ選
任スルコトヲ要ス

第八百二十四條 夫ハ子ノ出生後ニ於テ其嫡出ナルコトヲ承認シタルト
キハ其否認權ヲ失フ

第八百二十五條 否認ノ訴ハ夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ一年內ニ之
ヲ提起スルコトヲ要ス

第八百二十六條 夫ハ未成年者ナルトキハ前條ノ期間ハ其成年ニ達シタ
ル時ヨリ之ヲ起算ス但夫カ成年ニ達シタル後ニ子ノ出生ヲ知リタルト
キハ此限ニ在ラス

夫カ禁治産者ナルトキハ前條ノ期間ハ禁治産ノ取消アル後夫カ子

ノ出生ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス
第二款 庶子及ヒ私生子
第八百二十七條 私生子ハ其父又ハ母ニ於テ之ヲ認知スルコトヲ得
父カ認知シタル私生子ハ之ヲ庶子トス
第八百二十八條 私生子ノ認知ヲ爲スニ父ハ又ハ母カ無能力者ナルトキ
雖モ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス
第八百二十九條 私生子ノ認知ハ戶籍吏ニ届出ツルニ依リテ之ヲ爲ス
認知ハ遺言ニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得
第八百三十條 成年ノ私生子ハ其承諾アルニ非サレハ之ヲ認知スルコ
トヲ得ス

ノ出生ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二款 庶子及ヒ私生子

第八百二十七條 私生子ハ其父又ハ母ニ於テ之ヲ認知スルコトヲ得

父カ認知シタル私生子ハ之ヲ庶子トス

第八百二十八條 私生子ノ認知ヲ爲スニ父ハ又ハ母カ無能力者ナルトキ

雖モ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

第八百二十九條 私生子ノ認知ハ戶籍吏ニ届出ツルニ依リテ之ヲ爲ス

認知ハ遺言ニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第八百三十條 成年ノ私生子ハ其承諾アルニ非サレハ之ヲ認知スルコ

トヲ得ス

第八百三十一條 父ハ胎內ニ在ル子ト雖モ之ヲ認知スルコトヲ得此場合

ニ於テハ母ハ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

父又ハ母ハ死亡シタル子ト雖モ其直系卑屬アルトキニ限り之ヲ認知ス

ルコトヲ得此場合ニ於テ其直系卑屬カ成年者ナルトキハ其承諾ヲ得ル

コトヲ要ス

第八百三十二條 認知ハ出生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ズ但第三者カ既ニ

取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

第八百三十三條 改正民法 監護人ノ職務ニ依リテ其職務ニ依リテ

第八百三十三條 認知ヲ爲シタル父又ハ母ハ其認知ヲ取消スコトヲ得ス
第八百三十四條 子其他ノ利害關係人ハ認知ニ對シテ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得

第八百三十五條 子、其直系卑屬又ハ此等ノ者ノ法定代理人ハ父又ハ母ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得

第八百三十六條 庶子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得ス
婚姻中父母カ認知シタル私生子ハ其認知ノ時ヨリ嫡出子タル身分ヲ取得ス

前二項ノ規定ハ子カ既ニ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス
第八百三十七條 縁組ノ要件

第八百三十七條 成年ニ達シタル者ハ養子ヲ爲スコトヲ得

第八百三十八條 尊屬又ハ年長者ハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ス
第八百三十九條 法定ノ推定家督相續人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ス但女婿ト爲ス爲ニスル場合ハ此限ニ在ラス

第八百四十條 後見人ハ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス其務任カ終了シタル後未ダ管理ノ計算ヲ終ハラサル間亦同シ

前項ノ規定ハ第八百四十八條ノ場合ニ之ヲ適用セス
第八百四十一條 配偶者アリ者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ縁組ヲ爲スコトヲ得ス

夫婦ノ一方他ノ一方ノ子ヲ養子ト爲スニハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ル

第八百四十二條 前條第一項ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルハ他ノ一方ハ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲スコトヲ得

第八百四十三條 養子ト爲ルニキ者カ十五年未滿ナル其時ハ其家ニ在ル父母之ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲スコトヲ得

繼父母又ハ嫡母カ前項ノ承諾ヲ爲スニハ親族會ニ同意ヲ得ルヲ要ス

第八百四十四條 成年ノ子カ養子ヲ爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルヲ要ス

第八百四十五條 縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラント欲スルニキ養家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但妻カ夫ニ隨ヒテ他家ニ入ルハ此限ニ在ラス

第八百四十六條 第七百七十四條第二項及第三項ノ規定ハ前二條ノ場

合ニ之ヲ準用ス
改正民法

第七百七十三條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百四十七條 第七百七十四條及第七百七十五條ノ規定ハ縁組ニ之

ヲ準用ス

第八百四十八條 養子ヲ爲サシテ欲スル者ハ遺言ヲ以テ其意思ヲ表示シ

テ得此場合ニ於テハ遺言執行者養子ト爲ルベキ者又ハ第八百四十

三條ノ規定ニ依リ之ニ代ハリテ承諾ヲ爲シタル者及ヒ成年ノ證人二人

以上ヨリ遺言カ効力ヲ生シタル後遲滞ナク縁組ハ届出ヲ爲スヨリ要ス

前項ノ届出ハ養親ノ死亡ノ時ニ因リテ其効力ヲ生シタル後ハ

第八百四十九條 戸籍吏ハ縁組カ第七百四十一條第一項、第七百四十四

條第一項、第七百五十條第一項及ヒ前十二條ノ規定其他ツ法令ニ違反

セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

第七百七十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百五十條 外國ニ在ル日本人間ニ於テ縁組ヲ爲サント欲スルトキ

ハ其國駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其届出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ

於テハ第七百七十五條及前二條ノ規定ヲ準用ス

第八百五十一條 縁組ハ左ノ場合ニ限リ無効トス

一 人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ縁組ヲ爲ス意思ナキトキ

二 當事者カ縁組ノ届出ヲ爲ササルトキ但其届出カ第七百七十五條

第二項及ヒ第八百四十八條第一項ニ掲ケタル條件ヲ缺クニ止マ

ルトキハ縁組ハ之カ爲メニ其効力ヲ妨ケラルルコトナシ

第八百五十二條 縁組ハ後七條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコト

ヲ得ス

第八百五十三條 第八百三十七條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養親又ハ其

法定代理人ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但養親カ成年ニ達

シタル後六個月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第八百五十四條 第八百卅八條又ハ第八百三十九條ノ規定ニ違反シタル

縁組ハ各當事者其戸主又ハ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第八百五十五條 第八百四十條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養子又ハ其實

方ノ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但管理ノ計算カ終ハリ

タル後養子カ追認ヲ爲シ又ハ六個月ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス

追認ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル後之ヲ爲スニ非サルハ

其効ナシ

養子カ成年ニ達セス又ハ能力ヲ回復セサル間ニ管理ノ計算カ終ハリタル

改正民法

一七三

ル場合ニ於テハ第一項但書ノ期間ニ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百五十六條

第八百四十二條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲サザリシ配偶者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但配偶者カ縁組アリタルコトヲ知リタル後六個月ヲ經過シタル時ハ追認ヲ爲シタルモノト看做ス

第八百五十七條

第八百四十四條乃至第八百四十六條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキハ亦同シ

第八百五十八條

養子縁組ノ場合ニ於テハ各當事者ハ婚姻ノ無効又ハ取消ヲ理由トシ縁組ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但婚姻ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ縁組ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス

第八百五十九條

第七百八十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用スル也。又ハ前項ノ取消權ハ當事者カ婚姻ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後六個月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス

第三款

第八百六十條

縁組ノ效力
養子ハ縁組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子ナル身分ヲ取得ス

第八百六十一條

養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ家ニ入ル

第八百六十二條

縁組ノ當事者ハ其協議ヲ以テ離縁ヲ爲スコトヲ得

第八百六十三條

養子カ十五年未滿ナルトキハ其離縁ハ養親ト養子ニ代リテ縁組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル者トノ協議ヲ以テ之ヲ爲ス

第八百六十四條

養親カ死亡シタル後養子カ離縁ヲ爲サント欲スルトキハ戸主ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得

第八百六十五條

滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離縁ヲ爲スニハ第八百四十四條ノ規定ニ依リ其縁組ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

改正民法

及ヒ第八百六十三條ノ規定其他ノ法令ニ違反セルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス
戸籍吏カ前項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シタルトキト雖モ離縁ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第八百六十六條 縁組ノ當事者ノ一方カ左ノ場合ニ限り離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

- 一 他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 二 他ノ一方ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ
- 三 養親ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 四 他ノ一方カ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 五 養子ニ家名ヲ濱シ又ハ家産ヲ傾シヘキ重大ナル過失アリタルトキ
- 六 養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルトキ
- 七 養子ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ
- 八 他ノ一方カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ
- 九 婿養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離婚若クハ婚姻ノ取消アリタルトキ

第八百六十七條 養子カ滿十五年ニ達セサル間ハ其縁組ニ付キ承諾權ヲ有スル者ヨリ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第八百四十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百六十八條 第八百六十六條第一號乃至第六號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方又ハ其直系尊屬ノ行爲ヲ宥恕シタルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百六十九條 第八百六十六條第四號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ行爲ニ同意シタルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百六十六條第四號ニ掲ケタル刑ニ處セラレタル者ハ他ノ一方ニ同一ノ事由アルコトヲ理由トシテ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百七十條 第八百六十六條第一號乃至第五號及ヒ第八號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離縁ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

第八百七十一條 第八百六十六條第六號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ養親カ養子ノ復籍シタルコトヲ知リタル時ヨリ二年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其復歸ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

改正民法

第八百七十二條

第八百六十六條第七號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ養子ノ生死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ズ

第八百七十三條

第八百六十六條第九號ノ場合ニ於テ離婚又ハ婚姻取消ノ請求アリタルトキハ之ニ附帶シテ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八百六十六條第九號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ當事者カ離婚又ハ婚姻

ノ取消アリタルトキハ之ヲ知リタル後六個月ヲ經過シ又ハ離婚請求ノ權利

ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得

第八百七十四條

養子カ戶主ト爲リタル後ハ離婚ヲ爲スコトヲ得ス但隱居ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス

第八百七十五條

養子ハ離婚ニ因リ其實家ニ於テ有テシ身分ヲ回復ス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ズ

第八百七十六條

夫婦カ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ妻カ離婚ニ因リテ養家ヲ去ルヘキトキハ夫ハ其選擇ニ從ヒ離婚又ハ離婚ヲ爲スコトヲ要ス

第五節 親權

第八百七十七條

子ハ其家ニ在テ父ノ親權ニ服ス但獨立ノ生計ヲ立ツル

第八百七十七條

成年者ハ此限ニ在ラス父カ知レサルトキ死亡シタルトキ、家ヲ

ル正キ又ハ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フ

第八百七十八條

繼父又ハ繼母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テ第二章ノ規定ヲ準用ス

三 不詳 親權ノ效力

第八百七十九條

親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲ス權ヲ有シ義務ヲ負フ

第八百八十條

未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母カ指定シタル場所ニ其居所ヲ定ムルコトヲ要ス但第七百四十九條ノ適用ヲ妨グズ

第八百八十一條

未成年ノ子カ兵役又ハ出願スルハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第八百八十二條

親權ヲ行フ父又ハ母カ必要ナル範圍内ニ於テ自ラ其子ヲ警戒シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ懲戒場ニ入ルルコトヲ得

子ヲ懲戒場ニ入ルル期間ハ六個月以下ニ範圍内ニ於テ裁判所之ヲ定ム

第八百八十三條

但此期間ハ父又ハ母カ請求ニ因リ何時ニテモ之ヲ縮短スルコトヲ得

又ハ職業ヲ營ムルコトヲ得ス

改正民法

父又ハ母ハ第六條第三項ニ場合ニ於テハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得ル事ハハ前項ノ規定ニ依リテハ父又ハ母ハ未成年ノ子ニ對シテ其財產ヲ管理シ又其

第八百八十四條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ニ對シテ其財產ヲ管理シ又其債務ニ關スル法律行為ニ付キ其子ハ代表ス但其子ハ行為ノ目的トスル債務ニ生スヘキ場合ニ於テハ本人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百八十五條 未成年ノ子カ其配偶者ハ財產ヲ管理スヘキ場合ニ於テハ親權ヲ行フ父又ハ母之ニ代ハリテ其財產ヲ管理ス

第八百八十六條 親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代ハルニ左ニ掲ケタル行為ヲ爲シ又ハ子ノ之ヲ爲スコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一 營業ヲ爲スコト
二 借財又ハ保證ヲ爲スコト
三 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ喪失ヲ目的トスル行為

第八百八十七條 親權ヲ行フ母カ前條ノ規定ニ違反シテ爲シ又ハ同意ヲ與ヘタル行為ハ子又ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス

第八百八十八條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ其未成年ノ子ノ利益相反スル行為ニ付テハ父又ハ母ハ其子ノ爲メニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス

第八百八十九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ自己ノ爲メニスル同一ノ注意ヲ以テ其管理權ヲ行フコトヲ要ス母ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル行為ニ付テモ其責ヲ免ルルコトヲ得ス但母ニ過失ナカリシハ此限ニ在ラス

第八百九十條 子カ成年ニ達シタルトキハ親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ遲滞ナク其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但其子ノ養育及ヒ財產ノ管理ノ費用ハ其子ノ財產ノ收益ト之ヲ相殺シタルモノト看做ス

第八百九十一條 前條但書ノ規定ハ無償ニテ子ニ財產ヲ與フル第三者カ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ其財產ニ付テハ之ヲ適用セズ

第八百九十二條 無償ニテ子ニ財産ヲ與フル第三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セシメサル意思ヲ表示シタルトキハ其財産ハ父又ハ母ノ管理ニ屬セサルモノトス

前項ノ場合ニ於テ第三者カ管理者ヲ指定セザリシトキハ裁判所ハ其親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理者ヲ選任ス

第三者カ管理者ヲ指定セシトキト雖モ其管理者ノ權限カ消滅シ又ハ之ヲ改任スル必要アル場合ニ於テ第三者カ更ニ管理者ヲ指定セザルトキ亦同シ

第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百九十三條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ父又ハ母カ子ノ財産ヲ管理スル場合及ヒ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百九十四條 親權ヲ行ヒタル父若クハ母又ハ親族會員ト其子トノ間ニ財産ノ管理ニ付テ生シタル債權ハ其管理權消滅シ時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

子カ未タ成年ニ達セサル間ニ管理權カ消滅シタルハ前項ノ期間ハ其子カ成年ニ達シ又ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百九十五條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ其未成年ノ子ニ代リテ戶主權

及ヒ親權ヲ行フ

第三節 親權ノ喪失

第八百九十六條 父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナルハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其親權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

第八百九十七條 親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ其子ノ財産ヲ危クシタルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

父カ前項ノ宣告ヲ受ケタルトキハ管理權ハ家ニ在ル母之ヲ行フ

第八百九十八條 前二條ニ定メタル原因カ止ミタルトキハ裁判所ハ本人又ハ其親族ノ請求ニ因リ失權ノ宣告ヲ取消スルコトヲ得

第八百九十九條 親權ヲ行フ母ハ其子ノ財産ヲ管理シ辭スルコトヲ得

第六章 後見

第六節 後見ノ開始

第九百條 後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス

一 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セザルトキ

二 禁治産ノ宣告アリタルトキ

四 後見人又ハ其代表スル者ト被後見人トノ利益相反スル行爲ニ付
キ被後見人ヲ代表スルコト

第九百十六條 第六百四十四條、第九百七條及ヒ第九百八條ノ規定ハ後
見監督人ニ之ヲ準用ス

第三節 後見ノ事務

第九百十七條 後見人ハ遲滞ナク被後見人ノ調査ニ着手シ一个月内ニ其
調査ヲ終ハリ且其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ

之ヲ伸長スルコトヲ得

財産ノ調査及ヒ其目錄ノ調製ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スニ非

サシハ其效ナシ

後見人カ前二項ノ規定ニ從ヒ財産ノ目錄ヲ調製セサルトキハ親族會ハ

之ヲ免黜スルコトヲ得

第九百十八條 後見人ハ目錄ノ調製ヲ終ハルマテハ急迫ノ必要アル行爲

ノミヲ爲ス權限ヲ有ス但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第九百十九條 後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有シ又ハ債務ヲ負フトキ

ハ財産ノ調査ニ着手スル前ニ之ヲ後見監督人ニ申出ツルコトヲ要ス

後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有スルコトヲ知リテ之ヲ申出テサルト

キハ其債權ヲ失フ

後見人カ被後見人ニ對シ債務ヲ負フトコトヲ知リテ之ヲ申出テサルトキ

ハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得

第九百二十條 前三條ノ規定ハ後見人就職ノ後被後見人カ包括財産ヲ

取得シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九百二十一條 未成年者ノ後見人ハ第八百七十九條乃至第八百八十三

條及ヒ第八百八十五條ニ定メタル事項ニ付キ親權ヲ行フ父又ハ母ト同

一ノ權利義務ヲ有ス但親權ヲ行フ父又ハ母カ定メタル教育ノ方法及ヒ

居所ヲ變更シ、未成年者ノ懲戒場ニ入レ、營業ヲ許可シ、其許可ヲ取

消シ又ハ之ヲ制限スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第九百二十二條 禁治産者ノ後見人ハ禁治産者ノ資力ニ應シテ其療養看

護ヲカムルコトヲ要ス

禁治産者ヲ瘋癲病院ニ入レ又ハ私宅ニ監置スルト否トハ親族會ノ同意

ヲ得テ後見人ノ定ム

第九百二十三條 後見人ハ被後見人ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル法

律行爲ニ付キ被後見人ヲ代表ス

第八百八十四條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

改正民法

一八七

第九百二十四條 後見人其就職之初於親族會同意ヲ得テ被後見人ノ生活、教育又ハ療養看護及ヒ財産ノ管理ノ爲メ毎年費スヘキ金額ヲ豫定スルコトヲ要ス

前項ノ豫定額ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得

但己ムコトヲ得ル場合ニ於テ豫定額ヲ超スル金額ヲ支出スルコトヲ妨ケス

第九百二十五條 親族會ハ後見人及ヒ被後見人ノ資力其他ノ事情ニ依テ被後見人ノ財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ後見人ニ與フルコトヲ得但後見人ハ被後見人ノ配偶者ハ直系血族又ハ戶主ナルトキハ此限ニ在ラズ

第九百二十六條 後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財産管理者ヲ使用スルコトヲ得但第百六條ノ適用ヲ妨ケス

第九百二十七條 親族會ハ後見人就職初ニ於テ後見人ハ被後見人及ヒ爲メ受取タル金錢カ何程ノ額ニ達セハ之ヲ寄託スヘキカヲ定ムルコトヲ要ス

後見人ハ被後見人及ヒ爲メ受取タル金錢カ親族會ノ定メタル額ニ達スルモ相當ノ期間内ニ之ヲ寄託セサルトキハ其法定利息ヲ拂フコトヲ要ス金錢ヲ寄託スヘキ場所ハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ定ム

第九百二十八條 指定後見人及ヒ選定後見人ハ每年少クモ一回被後見人ノ財産ノ狀況ヲ親族會ニ報告スルコトヲ要ス

第九百二十九條 後見人ハ被後見人ニ代ハリテ營業若クハ第百二十七條ノ項ニ掲タル行爲ヲ爲シ又ハ未成年者ノ之ヲ爲スコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但元本ヲ領收シ付テハ此限ニ在ラズ

第九百三十條 後見人ハ被後見人ノ財産又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受セタルトキハ被後見人ハ之ヲ取消スコトヲ得此場合ニ於テハ第百二十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ハ第百二十六條ノ適用ヲ妨ケス

第九百三十一條 後見人ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ被後見人ノ財産ヲ賃借スルコトヲ得ス

第九百三十二條 後見人ハ其任務ヲ曠クスルトキハ親族會ハ臨時管理人ヲ選任シ後見人ノ責任ヲ以テ被後見人ノ財産ヲ管理セシムルコトヲ得

第九百三十三條 親族會ハ後見人ヲシテ被後見人ノ財産ノ管理及ヒ返還

ニ付テ相當ノ擔保ヲ供出シムルコトヲ得

第九百三十四條 被後見人カ戶主ナルトキハ後見人ハ之ニ代リテ其權利ヲ行フ但家族ヲ離籍シ其復籍ヲ拒ミ又ハ家族カ分家ヲ爲シ若クハ

廢絶家ヲ再興スルコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
後見人ハ其成年者ニ代ハリテ親權ヲ行フ但第九百十七條乃至第九百二
十條及以前半條ノ規定ヲ準用ス

第九百三十五條 親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサル場合ニ於テハ後見人
ハ財產ニ關スル權限ノミヲ有ス

第九百三十六條 第六百四十四條、第八百八十七條、第八百八十九條第
三項及以前半條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス

第九百三十七條 後見人ノ任務カ終了シタルトキハ後見人又ハ其相續人
ハ二ヶ月内ニ其管理ヲ計算又爲スコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ
之ヲ伸長スルコトヲ得

第九百三十八條 後見人計算ハ親族監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲ス
後見人入更迭スル場合ニ於テハ後見人計算ハ親族會ヲ認可ヲ得ル

第九百三十九條 未成年者カ成年ニ達シタル後後見人計算ハ終了前ニ其
者ト後見人又ハ其相續人トノ間ニ爲シタル契約ハ其者ニ於テ之ヲ取消
ス但之ヲ得其者カ後見人又ハ其相續人ニ對シテ爲シタル單獨行爲亦同シ

第十九條及第七百二十一條乃至第七百二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之
ヲ準用ス

第九百四十條 後見人カ被後見人ニ返還スヘキ金額及被後見人カ後
見人ニ返還スヘキ金額ニハ後見人計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附スルコトヲ
要ス後見人カ自己ノ爲メニ被後見人ノ金錢ヲ消費シタルトキハ其消費
ノ時ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償
ノ責ニ任ス

第九百四十一條 第六百五十四條及第七百五十五條ノ規定ハ後見ニ之
ヲ準用ス

第九百四十二條 第八百九十四條ニ定メタル時効ハ後見人、後見監督人
又ハ親族會員ト被後見人トノ間ニ於テ後見ニ關シテ生シタル債權ニ之
ヲ準用ス

前項ノ時効ハ第九百三十九條ノ規定ニ依リ法律行爲ヲ取消シタル場合
ニ於テハ其取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第九百四十三條 前條第一項ノ規定ハ保佐人又ハ親族會員ト準禁治產者
トノ間ニ之ヲ準用ス

第七章 親族會
改正民法

第九百四十四條

本法其他ノ法令ノ規定ニ依リ親族會ヲ開クヘキ場合ニ於テハ會議ヲ要スル事件ノ本人、戸主、親族、後見人、後見監督人、

保佐人、檢事又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ招集ス

第九百四十五條

親族會員ハ三人以上トシ親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ中ヨリ裁判所之ヲ選定ス

後見人指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ親族會員ヲ選定スルコトヲ得

第九百四十六條

遠隔ノ地ニ居住スル者其他正當ノ事由アル者ハ親族會員タルコトヲ得

後見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會員タルコトヲ得ス

第九百四十七條

親族會ノ議事ハ會員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

會員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第九百四十八條

本人、戸主、家在ル父母、配偶者、本家並ニ分家ノ戸主、後見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會ニ於テ其意見ヲ述ブル

第九百四十九條

無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ハ其者ノ無能力ノ止親族會ノ招集ハ前項ニ掲ケタル者ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

ムマテ繼續ス此親族會ハ最初ノ招集ノ場合ヲ除ク外本人、其法定代理人、後見監督人、保佐人又ハ會員之ヲ招集ス

第九百五十條

親族會ニ缺員ヲ生シタルトキハ會員ハ補缺員ノ選定ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第九百五十一條

親族會ノ決議ニ對シテハ一个月内ニ會員又ハ第九百四十四條ニ掲ケタル者ヨリ其不服ヲ裁判所ニ訴フコトヲ得

第九百五十二條

親族會カ決議ヲ爲ス能ハサルトキハ會員ハ其決議ニ代ハルヘキ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百五十三條

第六百四十四條ノ規定ハ親族會員ニ之ヲ準用ス

第八章 扶養ノ義務

第九百五十四條

直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ

第九百五十五條

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ直系尊屬ニシテ其家ニ在ル者トノ間亦同シ行スヘキ者ノ順序左ノ如シ

第一 配偶者

第二 直系卑屬

第三 直系尊屬

改正民法

第四 戸主

第五 前條第三號ニ掲ケタル者

第六 兄弟姉妹

直系卑屬又ハ直系尊屬之間ニ於テハ其親等ノ最モ近キ者ヲ先ニス前條

第三項ニ掲ケタル直系尊屬間亦同シ

第九百五十六條 同順位ノ扶養義務者數人アルトキハ各其資力ニ應シテ

其義務ヲ分擔ス但家ニ在ル者ト家ニ在ラサル者ト之間ニ於テハ家ニ在

ル者先ツ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

第九百五十七條 扶養ヲ受クル權利ヲ有スル者數人アル場合ニ於テ扶養

義務者ノ資力カ其全員ヲ扶養スルニ足ラサルトキハ扶養義務者ハ左ノ

順序ニ從ヒ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

第一 直系尊屬

第二 直系卑屬

第三 配偶者

第九百五十四條第二項ニ掲ケタル者

第五 兄弟姉妹

第六 前五號ニ掲ケタル者ニ非サル家族

第九百五十五條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百五十八條 同順位ノ扶養權利者數人アル場合ニ各其需要ニ應ジテ

扶養ヲ受クルコトヲ得第九百五十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ

準用ス

第九百五十九條

扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クヘキ者カ自己ノ資産又ハ勞務

ニ依リテ生活ヲ爲スコト能ハサルトキニ存ス自己ノ資産ニ依リ

テ教育ヲ受クルコト能ハサルトキ亦同シ

兄弟姉妹間ニ在リ又ハ扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クル必要カ之ヲ受クヘキ

者ノ過失ニ因ラスシテ生シタルトキニ存ス但扶養義務者カ戸主

ナルトキハ此限ニ在ラス

第九百六十條

扶養ノ程度ハ扶養權利者ノ需要ト扶養義務者ノ身分及

ヒ資力ニ依リテ之ヲ定ム

第九百六十一條

扶養義務者ハ其選擇ニ從ヒ扶養權利者ヲ引取リテ之ヲ

養ヒ又ハ之ヲ引取ラスシテ生活ノ資料ヲ給付スルコトヲ要ス但正當ノ

事由アルトキハ裁判所ハ扶養權利者ノ請求ニ因リ扶養ノ方法ヲ定ムル

第九百六十二條

扶養ノ程度又ハ方法カ判決ニ因リテ定マラズル場合ニ

於テ其判決ヲ根據ト爲リタル事情ニ變更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決ヲ取消ヲ請求スルコトヲ得

第九百六十三條 扶養ヲ受クル權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第五編 相續

第一章 家督相續

第一節 總則

第九百六十四條 家督相續ハ左ノ事由ニ因リテ開始ス

一 戶主ノ死亡、隱居又ハ國籍喪失

二 戶主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其家ヲ去リタルトキ

三 女戶主ノ入夫婚姻又ハ入夫ノ離婚

第九百六十五條 家督相續ハ被相續人ノ住所ニ於テ開始ス

第九百六十六條 家督相續回復ノ請求權ハ家督相續人又ハ其法定代理人カ相續權侵害ノ事實ヲ知リタル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効

ニ因リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第九百六十七條 相續財産ニ關スル費用ハ其財産中ヨリ之ヲ支辨ス但家督相續人ノ過失ニ因ルモノハ此限ニ在ラス

前項ニ掲ケタル費用ハ遺留分權利者カ贈與ノ減殺ニ因リテ得タル財産ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ要ス

第二節 家督相續人

第九百六十八條 胎兒ハ家督相續ニ付テハ既ニ生レタルトキト看做ス

前項ノ規定ハ胎兒カ死體ニ元生マレタルトキハ之ヲ適用モス

第九百六十九條 左ニ掲ケタル者ハ家督相續人タルコトヲ得ス

一 故意ニ被相續人又ハ家督相續ニ付キ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ

又ハ死ニ致サントシタル爲メ刑ニ處セラレタル者

二 被相續人ハ殺害セラレタルコトヲ知リテ之ヲ告發又ハ告訴ヒサ

バシ者但共者ニ是非ノ辨別ナキトキ又ハ殺害者カ自己ノ配偶者

若クハ直系血族ナリシトキハ此限ニ在ラス

三 詐欺又ハ強迫ニ因リ被相續人カ相續ニ關スル遺言ヲ爲シ之ヲ取

消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ妨ケタル者

四 詐欺又ハ強迫ニ因リ被相續人カシテ相續ニ關スル遺言ヲ爲サシ

メ之ヲ取消サシメ又ハ之ヲ變更セシメタル者

五 相續ニ關スル被相續人ノ遺言書ヲ偽造變造毀滅又藏匿シタル者

第九百七十條 被相續人ノ家族タル直系尊屬ハ左ノ規定ニ從ヒ家督相

續人ト爲ル
 一 親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス
 二 親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス
 三 親等ノ同シキ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニス
 四 親等ノ同シキ嫡出子庶子及ヒ私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及ヒ庶子ハ女ト雖モ之ヲ私生子ヨリ先ニス
 五 前四號ニ掲ケタル事項ニ付キ相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス
 第八百三十六條ノ規定ニ依リ又ハ養子縁組ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取消シタル者ハ家督相續ニ付テハ其嫡出子タル身分ヲ取得シタル母ニ生マレタルモノト看做ス
 第九百七十一條 前條ノ規定ハ第七百三十六條ノ適用ヲ妨ケス
 第九百七十二條 第七百三十七條及ヒ第七百三十八條ノ規定ニ依リテ家族ト爲リタル直系卑屬ハ嫡出子又ハ庶子タル他人直系卑屬ナキ場合ニ限リ第九百七十七條ニ定メタル順序ニ從ヒテ家督相續人ト爲ル
 第九百七十三條 法定ノ推定家督相續人ハ其姉妹ノ爲メニ養子縁組ニ因リテ其相續權ヲ害セラレルモノトナシ

第九百七十四條 第九百七十一條及ヒ第九百七十二條ノ規定ニ依リ家督相續人ト爲ル者ハ家督相續ノ開始前ニ死亡シ又其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アル者ハ其直系卑屬ハ第九百七十一條及第九百七十三條ニ定メタル順序ニ從ヒ其者ト同順位ニ於テ家督相續人ト爲ル
 第九百七十五條 法定ノ推定家督相續人ニ付キ左ノ事由アルトキハ被相續人ハ其推定家督相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
 一 被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタル
 二 疫病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルヘキ
 三 家名ニ汚辱ヲ反ホスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルコト
 四 浪費者トシテ準禁治産ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナキコト
 此他正當ノ事由アルトキハ被相續人ハ親族會ノ同意ヲ得テ其廢除ヲ請求スルコトヲ得
 第九百七十六條 被相續人ハ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢除スル意思ヲ表示シタルトキハ遺言執行者ハ其遺言効力ヲ生シタル後遲滯ナク裁判所ニ廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テ廢除ハ被相續人ノ改正民法

限時三週ヲ其効力ヲ生スルニシテ其後ハ其効力ヲ失フ

第九百七十七條 推定家督相續人廢除ノ原因止ミタルトキハ被相續人又ハ

推定家督相續人ハ廢除ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百七十五條 第一項第一號ノ場合ニ於テハ被相續人ハ何時ニモ廢除

ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ相續開始ノ後ハ之ヲ適用ス

第九百七十八條 推定家督相續人ノ廢除又ハ其取消ノ請求アリタル後其

裁判確定前ニ相續力開始シタルトキハ裁判所ハ親族利害關係人又ハ檢

事ノ請求ニ因リ戸主權ノ行使及ヒ遺產ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命

スルコトヲ得廢除ノ遺言アリタルトキ亦同シ

裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ**第九百七十七條**乃至**第九百七十九條**

ノ規定ヲ準用ス

第九百七十九條 法定ノ推定家督相續人カキルコトハ被相續人ハ家督相續

人ヲ推定スルコトヲ得此指定ハ法定ノ推定家督相續人アルニ至リタル

トキハ其効力ヲ失フ

家督相續人ノ指定ハ之ヲ取消スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ死亡又ハ隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニ之ヲ適用ス

第九百八十條 家督相續人ハ指定及ヒ其取消ハ之ヲ戶籍吏ニ届出ツル

ニ因リテ其効力ヲ生ス

第九百八十一條 被相續人カ遺言ヲ以テ家督相續人ノ指定又ハ其取消ヲ

爲ス意思ヲ表示シタルトキハ遺言執行者ハ其遺言カ効力ヲ生シタル後

遲滞ナク之ヲ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス此場合ニ於テ指定又ハ其取

消ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ因リテ其効力ヲ生ス

第九百八十二條 法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ於テ其家ニ被相

續人ノ父アルトキハ父アルトキ又ハ父カ其意思ヲ表示スルコト能

ハサルトキハ親族會ハ左ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相續人ヲ選推ス

第一 配偶者但家女ナルトキ

第二 兄弟

第三 姉妹

第四 第一號ニ該當セサル配偶者

第五 兄弟姉妹ノ直系卑屬

第九百八十三條 家督相續人ヲ選定スヘキ者ハ正當ノ事由アルニ場合ニ

由リ裁判所ノ許可ヲ得テ前條ニ掲ケタル順序ヲ變更シ又ハ選定ヲ爲サザルコトヲ得

第九百八十四條 第九百八十二條ノ規定ニ依リテ家督相續人タル者ナキトキハ家ニ在ル直系卑屬親等ノ最モ近キ者家督相續人ト爲ル但親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス

第九百八十五條 前條ノ規定ニ依リテ家督相續人タル者ナキトキハ親族會ハ被相續人ノ親族家族分家ノ戶主又ハ本家若クハ分家ノ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定ス

前項ニ掲ケタル者ノ中ニ家督相續人タル者ナキトキハ親族會ハ他人ノ中ヨリ之ヲ選定ス親族會ハ正當ノ事由タル場合ニ限り前二項ノ規定ニ拘ハラズ裁判所ノ許可ヲ得テ他人ヲ選定スルコトヲ得

第九百八十六條 家督相續人ハ相續開始ノ時其前戶主ノ有セシ權利義務ヲ承繼ス但前戶主ノ一身ニ專屬セルモノハ此限ニ在ラス

第九百八十七條 系譜、祭具及ヒ墳墓ノ所有權ハ家督相續ノ特權ニ屬ス

第九百八十八條 隱居者及ヒ入夫婚姻ヲ爲ス女戶主ニ確定日附ノ證書ニ依リテ其財産ヲ留保スルコトヲ得但家督相續人ノ遺留分ニ關スル規

定ニ違反スルコトヲ得ス

第九百八十九條 隱居又ハ入夫ノ婚姻ニ因ル家督相續ノ都合ニ於テハ前戶主ノ債權者ハ其前戶主ニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得

入夫婚姻ノ取消又ハ入夫ノ離婚ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ入夫カ戶主タリシ間ニ負擔シタル債務ハ辨濟ハ其入夫ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定家督相續人ニ對スル請求ヲ妨ケス

第九百九十條 國籍喪失者ノ家督相續人ハ戶主權及ヒ家督相續ノ特權ニ屬スル權利ノミヲ承繼ス但遺留分及ヒ前戶主カ特ニ指定シタル相續財產ヲ承繼スルコトヲ妨ケス

國籍喪失者カ日本人ニ非サレハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合ニ於テ一年內ニ之ヲ日本人ニ讓渡ササルトキハ其權利ハ家督相續人ニ歸屬ス

第九百九十一條 國籍喪失ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ前戶主ノ債權者ハ家督相續人ニ對シテハ其受ケタル財産ノ限度ニ於テノミ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二章 遺產相續

改正民法

第一節 總則

第九百九十二條 遺產相續ハ家族ノ死亡ニ因リテ開始ス

第九百九十三條 第九百六十五條乃至第九百六十八條ノ規定ハ遺產相續ニ之ヲ準用ス

第二節 遺產相續人

第九百九十四條 被相續人ノ直系卑屬ハ規定ニ從ヒ遺產相續人ト爲ル

一 親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス

第九百九十五條 前條ノ規定ニ依リテ遺產相續人タルヘキ者カ相續ノ開始

前死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アル者ハ其直系卑屬ハ前條ノ規定ニ從ヒ其者ト同順位ニ於テ遺產相續人ト爲ル

第九百九十六條 前三條ノ規定ニ依リテ遺產相續人タルヘキ者ナキ場合ニ於テ遺產相續ヲ爲スヘキ者ノ順位左ノ如シ

第一 配偶者

第二 直系尊屬

第三 戸主

前項第二號ノ場合ニ於テハ第九百九十四條ノ規定ヲ準用ス

第九百九十七條 左ニ掲ケタル者ハ遺產相續人タルコトヲ得ス

一 故意ニ被相續人又ハ遺產相續ニ付キ先順位者クハ同順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲メ刑ニ處セラレタル者

第九百九十八條 遺留分ヲ有スル推定遺產相續人カ被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキハ被相續人ハ其推定遺產相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百九十九條 被相續人ハ何時ニテモ推定遺產相續人廢除ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

第一千條 第九百七十六條及第九百七十八條ノ規定ハ推定遺產相續人ノ廢除及ヒ其取消ニ之ヲ準用ス

第一千條 第九百七十六條及第九百七十八條ノ規定ハ推定遺產相續人ノ廢除及ヒ其取消ニ之ヲ準用ス

第二節 遺產相續ノ效力

第一款 總則

第一千一條 遺產相續人ハ相續開始ノ時ヨリ被相續人ノ財産ニ屬セシ一切ノ權利義務ヲ承繼ス但被相續人ノ一身ニ專屬セシモノハ此限ニ在ラス

第一千二條 遺產相續人數人アリトキハ相續財産ハ其共有ニ屬ス

第一千三條 各共同相續人ハ其相續分ニ應シ被相續人ノ權利義務ヲ承繼ス

第一千四條 同順位ノ相續人數人アルトキハ其各自ノ相續分ハ相均シキモ
ノトス但直系卑屬數人アルトキハ庶子及ヒ私生子ノ相續分ハ嫡出子ノ
相續分ノ二分ノ一トス

第一千五條 第九百九十五條ノ規定ニ依リテ相續人タル直系卑屬ノ相續分
ハ其直系卑屬カ受クヘカリシモノニ同シ但直系卑屬數人アルトキハ其
各自ノ系卑屬カ受クヘカリシ部分ニ付キ前條ノ規定ニ從ヒテ其相續
分ヲ定ム

第一千六條 被相續人ハ前二條ノ規定ニ拘ハラス遺言ヲ以テ定メ又ハ之ヲ
定ムルコトヲ第三者ニ委託スルコトヲ得但被相續人又ハ第三者ハ遺留
分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

被相續人共同相續人中ノ一人若クハ數人ノ相續分ノミヲ定メ又ハ之ヲ
定メミメタルトキハ他ノ共同相續人ヲ相續分ハ前二條ノ規定ニ依リテ
之ヲ定ム

第一千七條 共同相續人中被相續人ヨリ遺贈ヲ受ケ又ハ婚姻ハ養子縁組
分家、廢絶家再興ヲ爲メ若クハ生計ニ資本トシテ贈與ヲ受ケタル者ア
ルトキハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價額ニ其贈與ノ
價額ヲ加ヘタルモノヲ相續財產ト看做シ前二條ノ規定ニ依リテ算定シ

又ハ相續分ノ中ヨリ其遺贈又ハ贈與ノ價額ヲ控除シ其殘額ヲ以テ其者
ノ相續分トス

遺贈又ハ贈與ノ價額カ相續分ノ價額ニ等シク又ハ之ニ超ユルトキハ受
遺者又ハ受贈者ハ其相續分ヲ受クルコトヲ得ス

被相續人前二項ノ規定ニ異ナル意思ヲ表示シタルトキハ其意思
表示ハ遺留分ニ關スル規定ニ反セサル範圍内ニ於テ其效力ヲ有ス

第一千八條 前條ニ掲ゲタル贈與ノ價額ハ受贈者ノ行爲ニ因リ其目的タル
財産カ消滅シ又ハ其價格ノ増減アリタルト雖モ相續開始ノ當時仍ホ原
狀ニテ存スルモノト看做シテ之ヲ定ム

第一千九條 共同相續人ノ一人カ分割前ニ其相續分ヲ第三者ニ讓渡シタル
トキハ他ノ共同相續人ハ其價額及ヒ費用ヲ償還シテ其相續分ヲ讓受ク
ルコトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ二个月内ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス

第一千十條 被相續人ハ遺言ヲ以テ分割ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ定ムル
第三者ニ委託スルコトヲ得

第一千十一條 被相續人ハ遺言ヲ以テ相續開始ノ時ヨリ五年ヲ超ユサル期
改正民法

間内分割ヲ禁スルコトヲ得

第一千十二條 遺言ノ分割ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第一千十三條 各共同相續人相續開始前ヨリ存スル事由ニ付キ他ノ共同相續人ニ對シ賣主ト同シク其相續分ニ應シテ擔保ノ責ニ任ス

第一千十四條 各共同相續人ハ其相續分ニ應ジ他ノ共同相續人カ分割ニ因リテ受ケタル債權ニ付キ分割ノ當時ニ於ケル債務者ノ資力ヲ擔保ス
辨濟期ニ在ラサル債權及ヒ停止條件附債權ニ付テハ各共同相續人ハ辨濟ヲ爲スヘキ時ニ於ケル債務者ノ資力ヲ擔保ス

第一千十五條 擔保ノ責ニ任スル共同相續人中償還ヲ爲ス資力ナキ者アルトキハ其償還スルコト能ハサル部分ハ求償權及ヒ他ノ資力アル者各其相續分ニ應シテ之ヲ分擔ス但求償者ニ過失アルトキハ他ノ共同相續人ニ對シテ分擔ヲ請求スルコトヲ得ス

第一千十六條 前三條ノ規定ハ被相續人カ遺言ヲ以テ別段ノ意思ヲ表示承タルトキハ之ヲ適用ス

第三章 相續ノ承認及ヒ拋棄

第一節 總則

第一千十七條 相續人ハ自己ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル

時ヨリ三個月内ニ單紗若クハ限定ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

相續人ハ承認又ハ拋棄ヲ爲ス前ニ相續財産ノ調査ヲ爲スコトヲ得

第一千十八條 相續人カ承認又ハ拋棄ヲ爲サシテ死亡シタルトキハ前條第一項ノ期間ハ其者ノ相續人カ自己ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第一千十九條 相續人カ無能力者ナルトキハ第二十七條第三項ノ期間ハ其法定代理人カ無能力者ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル時ヨリ之起算ス

第一千二十條 法定家督相續人ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス但第九百八十四條ニ掲ケタル者ハ此限ニ在ラス

第一千二十一條 相續人ハ其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ヲ管理スルコトヲ要ス但承諾又ハ拋棄ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス
裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ何時ニテモ相續財産ノ保存ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得
裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條

人定ヲ准用スルハ、數科ノハ組合ニ就テハ、第二十一條及第二十二條
第七十二條 承認及ビ拋棄ハ、第七十七條第一項ノ期間内ト雖モ之ヲ取

消スコトヲ得ス。前項ノ規定ハ、第一編及ヒ前編ノ規定ニ依リテ承認又ハ拋棄ノ取消ヲ爲
前項ノ規定ハ、第一編及ヒ前編ノ規定ニ依リテ承認又ハ拋棄ノ取消ヲ爲
スコトヲ妨ケス。但、其取消權ハ、追認ヲ爲スニトテ得ル時ヨリ、六ヶ月間之
ヲ行ハサルトキハ、時効ニ因リテ取消ス承認又ハ拋棄ノ時ヨリ、十年ヲ經
過シタルトキハ、亦同シ。

第二節 承認

第一千二十三條 第一款ハ、單純承認
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、

利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、

第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。

第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。

第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。

第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。

第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。

第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。

第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。

第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。

第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。

第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。

第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。

第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。

第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。
第一千二十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ、相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモ、
利義務ヲ承繼スルコトヲ要ス。

改正民法

請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ分告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千三十條 限定承認者ハ前條第一項期間満了前ニハ相續債務者及ヒ受遺者ニ對シテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

第一千三十一條 第一千二十九條第一項ノ期間満了ノ後ハ限定承認者ハ相續財産ヲ以テ其期間内ニ申出テタル債權者其他知レタル債權者ニ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス但優先權ヲ有スル債權者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第一千三十二條 限定承認者ハ辨濟期ニ至ラサル債權者トモ前條ノ規定ニ依リテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ハ裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

第一千三十三條 限定承認者ハ前條ノ規定ニ依リテ各債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後ニ非サレハ受遺者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第一千三十四條 前三條ノ規定ニ從ヒテ辨濟ヲ爲スニ付キ相續財産ノ賣却ヲ必要トスルトキハ限定承認者ハ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ要ス但裁判

所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ相續財産ノ全部又ハ一部ノ價額ヲ辨濟シテ其競賣ヲ止ムルコトヲ得

第一千三十五條 相續債權者及ヒ受遺者ハ自己ノ費用ヲ以テ相續財産ノ競賣又ハ鑑定ニ參加スルコトヲ得此場合ニ於テハ第二百六十條第二項ノ規定ヲ準用ス

第一千三十六條 限定承認者カ第一千二十九條ニ定メタル公告若クハ催告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ同條第一項ノ期內間ニ或債權者若クハ受遺者ニ辨

濟ヲ爲シタルニ因リ他ノ債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲シタルニ因リ他ノ債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス第一千三十條乃至第一千三十三條ノ規定ニ違反シテ辨濟ヲ爲シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ情ヲ知リテ不當ニ辨濟ヲ受ケタル債權者又ハ受遺者ニ對スル他ノ債權者又ハ受遺者ノ求償ヲ妨ケス

第七百二十四條ノ規定ハ前二項ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第一千三十七條 第一千二十九條第一項ノ期間内ニ申出テサリシ債權者及ヒ受遺者ニシテ限定承認者ニ知レサリシ者ハ殘餘財産ニ付テノミ其權利ヲ行フコトヲ得但相續財産ニ付キ特別擔保ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第一千二十八條

相續ノ拋棄ヲ爲サント欲スル者ハ其旨ヲ裁判所ニ申述スルコトヲ要ス

第一千二十九條

拋棄ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス
數人ノ遺産相續人アル場合ニ於テ其一人カ拋棄ヲ爲シタルトキハ其相續分ハ他ノ相續人ノ相續分ニ應ジテ之ニ歸屬ス

第一千四十條

相續ノ拋棄ヲ爲シタル者ハ其拋棄ニ因リテ相續人ト爲リタル者カ相續財産ノ管理ヲ始ムルコトヲ得ルヲ自己ノ財産ニ於ケル同一ノ注意ヲ以テ其相續ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

第六百四十五條、第六百四十六條、第六百五十條第一項、第二項及ヒ

第一千二十一條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千四十一條

相續債權者又ハ受遺者ハ開始相續ノ時ヨリ三個月内ニ相續人ノ財産中ヨリ相續財産ヲ分離セシムルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得其期間満了ノ後ト雖モ相續財産カ相續人ノ固有財産ト混合セサル間亦同シ裁判所カ前項ノ請求ニ因リテ財産ノ分離ヲ命シタルキハ其請求ヲ爲シタル者ハ五日内ニ他ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ財産分離ノ命令

受テ及ルコトト及ヒ第六條ノ期間内ニ配當加入ノ申出ヲ爲スル旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ三個月ヲ下ルコトヲ得ス

第一千四十二條

財産分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リ配當加入ノ申出ヲ爲シタル者ハ相續分産ニ付キ相續人ノ債權者ニ先

第一千四十三條

財産分離ノ請求ヲリタルトキハ裁判所ハ相續財産ノ管理ヲ付シ必要カ處分ヲ命スルコトヲ得ル
裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第三十七條乃至第三十九條

第一千四十四條

相續人ハ單純承認ヲ爲シタル後ト雖モ財産分離ノ請求アリタルトキハ爾後其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ノ管理ヲ爲スコトヲ要ス但裁判所ニ於テ管理人ヲ選任シタルトキハ此限

第六百四十五條乃至第六百四十七條及ヒ第六百五十條第三項、第三項

ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千四十五條

財産ノ分離ハ不動産ニ付テハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三項ニ對抗スルコトヲ得ス

第千四十六條 第三百四條ノ規定ハ財產分離ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十七條 相續人ハ第千四十一條第三項及第千四十二條第三項ノ期間満了前ニ

ハ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

財產分離ノ請求アリタルトキハ相續人ハ第千四十一條第二項ノ期間満

了ノ後相續財產ヲ以テ財產分離ノ請求又ハ配當加入ノ申出ヲ爲シタル

債權者及ヒ受遺者ニ各其債權ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス但

優先權ヲ有スル債權者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第千三十二條乃至第千三十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第千四十八條 財產分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ配當加入ノ申出ヲ爲シ

タル者ハ相續財產ヲ以テ全部ノ辨濟ヲ受クルコト能ハサリシ場合ニ限

リ相續人ノ固有財產ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得此場合ニ於テハ相續

人ノ債權者ハ其者ニ先チテ辨濟ヲ受クルコトヲ得

第千四十九條 相續人ハ其固有財產ヲ以テ相續債權者若クハ受遺者ニ辨

濟ヲ爲シ又ハ之ニ相當ノ擔保ヲ供シテ財產分離ノ請求ヲ防止シ又ハ其

效力ヲ消滅セシムルコトヲ得但相續人ノ債權者ハ之ニ因リテ損害ヲ受

クベキコトヲ證明シテ異議ヲ述ハタルトキハ此限ニ在ラス

第千五十條 相續人カ限定承認ヲ爲スコトヲ得ル間又ハ相續財產カ相

續人ノ固有財產ト混合セサル間ハ其債權者ハ財產分離ノ請求ヲ爲スコ
トヲ得

第三百四條、第千二十七條、第千二十九條乃至第千三十六條、第四十

三條乃至第千四十五條及ヒ第千四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準

用ス但第千二十九條ニ定メクル公告及ヒ催告ハ財產分離ノ請求ヲ爲シ

タル債權者之ヲ爲スコトヲ要ス

第五章 相續人ノ曠缺

第千五十一條 相續人アルコト分明ナラサルトキハ相續財產ハ之ヲ法人

トス

第千五十二條 前條ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求

ニ因リ相續財產ノ管理人ヲ選任スルコトヲ見ス

裁判所ハ遲滯ナク管理人ノ選任ヲ發告スルコトヲ要ス

第千五百五十三條 第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ相續財產管理人

ニ之ヲ準用ス

第千五十四條 管理人ハ相續債權者又ハ受遺者ノ請求アルトキハ之ニ相

續財產ノ狀況報告ヲルコトヲ要ス

第千五十五條 相續人アルコト分明ナルニ至リタルトキハ法人ハ存立セ

サリシモノト看做々祖管理人カ其權限内ニ於テ爲シタル行爲ノ效力ヲ妨ケス

第一千五十六條 管理人ノ代理權ハ相續人カ相續ノ承認ヲ爲シタル時ニ於テ消滅ス

前項ノ場合ニ於テハ管理人ハ遲滞ナク相續人ニ對シテ管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス

第一千五十七條 第一千五十二條第二項ニ定メタル公告アリタル後二个月間ニ相續人アルコト分明ナルニ至ラサルキハ管理人ハ遲滞ナク一切ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條第二項、第三項及ヒ第一千三十條乃至第一千三十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但第一千三十四條ノ規定ハ此限ニ在ラス

第一千五十八條 前條第二項ノ期間満了後仍ホ相續人アルコト分明ナラサルトキハ裁判所ハ管理人又ハ檢事ノ請求ニ因リ相續人アラハ一定ノ期限内ニ其權利ニ主張スル旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一年ヲ下ルコトヲ得ス

第一千五十九條 前條ノ期間内ニ相續人タル權利ヲ主張スル者ナキトキハ

相續財産ハ國庫ニ歸屬ス此場合ニ於テハ第一千五十六條第二項ノ規定ヲ準用ス

相續債權者及ヒ受遺者ハ國庫ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得ス

第六章 人ノ遺言

第一節 總則

第一千六十條 遺言ハ本法ニ定メタル方式ニ從フニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第一千六十一條 滿十五年ニ達シタル者ハ遺言ヲ爲スコトヲ得

第一千六十二條 第四條、第九條、第十二條及ヒ第十四條ノ規定ハ遺言ニ之ヲ適用セス

第一千六十三條 遺言者ハ遺言ヲ爲ス時ニ於テ其效力ヲ有スルコトヲ要ス

第一千六十四條 遺言者ハ包括又ハ特定ノ名義ヲ以テ其財産全部又ハ一部ヲ處分スルコトヲ得但遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

第一千六十五條 第九百六十八條及ヒ第九百六十九條ノ規定ハ受遺者ニ之ヲ準用ス

第一千六十六條 被後見人カ後見ノ計算終了前ニ後見人又ハ其配偶者若シテ直系卑屬ノ利益ト爲ルヘキ遺言ヲ爲シタルトキハ其遺言ハ無効トス

前項ノ規定ハ直系血族配偶者又ハ兄弟姉妹カ後見人タル場合ニハ之ヲ適用セス

第二節 遺言ノ法式

第一款 普通法式

第六十七條 遺言ハ自筆證書、公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但特別方式ニ依ルコトヲ許ス場合ハ此限ニ在ラス

第六十八條 自筆證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ遺言者其全文日附及ヒ氏名ヲ自書シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

自筆證書中ノ挿入、削除其他ノ變更ハ遺言者其場所ヲ指示シ之ヲ變更シタル旨ヲ附記シテ特ニ之ニ署名シ且其變更ノ場所ニ捺印スルニ非サレハ其効ナシ

第六十九條 公正證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

- 一 證人二人以上ノ立會アコルト
- 二 遺言者ガ遺言ノ趣旨ヲ公證人ニ口授スルコト
- 三 公證人カ遺言者ノ口述ヲ筆記シ之ヲ遺言者及ヒ證人ニ讀聞カスコト

四 遺言者及ヒ證人カ筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後各自之ニ署名捺印スルコト但遺言者カ署名スルコト能ハサル場合ニ於テ

ハ公證人其事由ヲ附記シテ署名ニ代フルコトヲ得

五 公證人カ其證書ハ前四號ニ掲ケタル方式ニ從ヒテ作りタルモノナル旨ヲ附記シテ之ニ署名捺印スルコト

第七十條 秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

一 遺言者カ其證書ニ署名、捺印スルコト

二 遺言者カ其證書ヲ封シ證書ニ用非タル印章ヲ以テ之ニ封印スルコト

三 遺言者カ公證人二人以上ノ前ニ封書ヲ提出シテ自己ノ遺言書ナル旨及ヒ其筆者ノ氏名、住所ヲ申述スルコト

四 公證人カ其證書提出ノ日附及ヒ遺言者ノ申述ヲ封紙ニ記載シタル後遺言者及ヒ證人ト共ニ之ニ署名捺印スルコト

第六十八條第二項ノ規定ハ秘密證書ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス

第七十一條 秘密證書ト依ル遺言ハ前條ニ定メタル方式ニ缺クルモノアルモ第六十八條ノ方式ヲ具備スルトキハ自筆證書ニ依ル遺言トシ

テ其效力ヲ有スルハ、式ニ依リテ其書ニシテハ、公証人ノ前ニ於テ公證書ハ自己ノ遺言ニ依リテ發スルコト能ハサル者カ、秘密證書ニ依リテ遺言ス

第千七十二條 言語ヲ發スルコト能ハサル者カ、秘密證書ニ依リテ遺言スル場合ニ於テハ、遺言者公証人及ヒ證人ノ前ニ於テ公證書ハ自己ノ遺言書ナル旨並ニ其筆者ノ氏名、住所ヲ封紙ニ自書シテ、第千七十條第一項第三號ノ申述ニ代フルコトヲ要ス

公証人ハ遺言者カ前項ニ定メタル方式ヲ踐ミタル旨ヲ封紙ニ記載シテ申述ヲ記載ニ代フルコトヲ要ス、前ニ於テ遺言者ハ、遺言書ニ依リテ遺言スル場合ニ於テハ、遺言者カ本心ニ復シタル時ニ於テ遺言ヲ爲スニハ醫師

第千七十三條 禁治產者カ本心ニ復シタル時ニ於テ遺言ヲ爲スニハ醫師二人以上ノ立會アルコトヲ要ス、遺言ニ立會タル醫師ハ遺言者カ遺言ヲ爲ス時ニ於テ心神喪失ノ狀況ニ在リサリシ旨ヲ遺言書ニ附記シテ之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス、但秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ封紙ニ右ノ記載及ヒ署名捺印スルコトヲ要ス

第千七十四條 左ニ掲ケタル諸遺言ノ證人又ハ立會人タルコトヲ得ス
一 未成年者
二 禁治產者及ヒ準禁治產者
三 剝奪公權者及ヒ停止公權者

又五 推定相續人ノ受遺者及ヒ其配偶者並ニ直系血族
前六 公證人ノ家族同シクニ死者及ヒ公證人ノ直系血族並ニ筆生、雇人
第千七十五條 遺言ハ二人以上同ニ證書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第千七十六條 疫病其他ノ事由ニ因リテ死亡シテ危急ニ迫リタル者カ遺言ヲ爲サンニ欲スルコトヲ欲スル證人二人以上ノ立會ヲ以テ其一人ニ遺言ノ趣旨ヲ口授シテ之ヲ爲スコトヲ得、此場合ニ於テハ其口授ヲ受ケタル者之ヲ筆記シテ遺言者及ヒ他ノ證人ニ讀聞カセ各證人其筆記ノ正確ナルコトヲ承諾シタル後之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言ノ日ヨリ二十日內ニ證人ノ一人又ハ利害關係人ヨリ裁判所ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレバ其效ナシ、裁判所ハ遺言カ遺言者ノ眞意ニ出テタル心證ヲ得ルニ非サレバ之ヲ確認スルコトヲ得ス

第千七十七條 傳染病ノ爲メ行政處分ヲ以テ交通ヲ遮斷シタル場所ニ在リテ遺言者カ、警察官二人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第千七十八條 從軍中ノ軍人及ヒ軍屬ハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人

以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第千七十九條 從軍中ノ軍人及ヒ軍屬ハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人

以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得若シ將校及ヒ相當官カ其場
所ニ在ラサルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
從軍中ノ軍人又ハ軍屬カ疾病又ハ傷痍ノ爲メ病院ニ在ルトキハ其院ノ
醫師ヲ以テ前項ニ揭ケタル將校又ハ相當官ニ代フルコトヲ得
第七十九條 從軍中疾病、傷痍其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リ
タル軍人及ヒ軍屬ハ證人二人以上ノ立會ヲ以テ口頭ニテ遺言ヲ爲スコ
トヲ得

前項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル遺言ハ證人其趣旨ヲ筆記シテ之ニ署名、
捺印シ且證人ノ一人又ハ利害關係人ヨリ遲滯ナク理事又ハ主理ニ請求
シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ

第七十六條 第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第八十條 艦船中ニ在ル者ハ軍艦及ヒ海軍所屬ノ船舶ニ於テハ將校又
ハ相當官一人及ヒ證人二人以上其他ノ船舶ニ於テハ船長又ハ事務員一
人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ將校又ハ相當官カ其艦船中ニ在ラサルトキハ準士官
又ハ下士一人ヲ以テ之ヲ代フルコトヲ得
第八十一條 第七十九條ノ規定ハ艦船遭難ノ場合ニ之ヲ準用ス但海

軍ノ所屬ニ非サル船舶中ニ在ル者カ遺言ヲ爲シタル場合ニ於テハ其確
認ハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第八十二條 第七十七條、第七十八條及ヒ第八十條ノ場合ニ於
テハ遺言者、筆者、立會人及ヒ證人ハ各自遺言書ニ署名、捺印スコト
ヲ要ス

第八十三條 第七十七條乃至第八十一條ノ場合ニ於テ署名又ハ捺
印スルコト能ハサルトキハ立會人又ハ證人其事由ヲ附記スルヲ要ス

第八十四條 第六十八條第二項及ヒ第七十三條乃至第七十五條
ノ規定ハ前八條ノ規定ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス

第八十五條 前九ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言者カ普通方式ニ
依リテ遺言ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル時ヨリ六個月間生存スルトキ
ハ其效ナシ

第八十六條 日本ノ領事駐在スル地ニ在ル日本人カ公正證書又ハ祕密
證書ニ依リテ遺言ヲ爲サント欲スル片ハ公證人ハ職務ハ領事之ヲ行フ

第八十七條 遺言ノ效力
遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス
遺言ニ停止條件ヲ附シタル場合ニ於テ其條件カ遺言者ノ死亡後ニ成就

改正民法

シタルトキハ遺言ハ條件成就ノ時ヨリ其効力ヲ生ス
第千八百八條 受遺者ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ遺贈ハ拋棄ヲ爲スコ

遺贈ノ拋棄ハ遺言者ノ死亡ノ時ニ遡リテ其効力ヲ生ス
第千八百九條 遺贈義務者其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間

内ニ遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スヘキ旨ヲ受遺者ニ催告スルコトヲ得若
シ受遺者カ其期間内ニ遺贈義務者ニ對シテ其意思ヲ表示セサルトキハ

遺贈ヲ承認シタルモノト看做ス
第千九百條 受遺者カ遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ爲サスシテ死亡シタルトキ

ハ其相續人ハ自己ノ相續權ノ範圍内ニ於テ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ
得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從テ

第千九百一十一條 遺贈ノ承認及ヒ拋棄ハ之ヲ取消スコトヲ得ス
第千九百一十二條 第二項ノ規定ハ遺贈ノ承認及ヒ拋棄ニ之ヲ準用ス

第千九百一十三條 包括受遺者ハ財產相續人ト同一ノ權利義務ヲ有ス
第千九百一十四條 遺贈者ハ遺贈ノ義務者ニ對シ

テ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得停止條件附遺贈ニ付キ其條件ハ成否
未定ノ間亦同シ

第千九百一十五條 遺贈者カ遺言者ノ死亡後遺贈ノ目的物ニ付キ費用ヲ
出タルシタラバ遺贈者ハ遺言者ノ死亡後遺贈ノ目的物ニ付キ費用ヲ

果實ヲ取得スルニ於テ其償還ヲ請求スルコトヲ得
第千九百一十六條 遺贈者ノ死亡前ニ受遺者カ死亡シタルトキハ其効

力ヲ生ズルニ付テハ遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意
同シ但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從テ

第千九百一十七條 遺贈者カ其効力ヲ生セサルトキ又ハ拋棄ニ因リ其効力ナキ
ニ至リタルトキ受遺者カ受クヘカリシモノハ相續人ニ歸屬ス但遺言者

第千九百一十八條 遺贈ハ其目的タル權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ相續財
産ニ屬セサルトキハ其効力ヲ生セス但其權利カ相續財產ニ屬セサルコ

改正民法

第一千九十九條

相續財產ニ屬セサル權利ヲ目的トスル遺贈カ前條但書ノ

第一千一百條

遺贈ノ目的トシテ遺贈者ノ負擔スル債務ノ額ニ超過スル

第一千一百一條

遺贈者ノ負擔スル債務ノ額ニ超過スル

第一千一百二條

遺贈者ノ負擔スル債務ノ額ニ超過スル

第一千一百三條

遺贈者ノ負擔スル債務ノ額ニ超過スル

第一千一百四條

遺贈者ノ負擔スル債務ノ額ニ超過スル

第一千一百五條

遺贈者ノ負擔スル債務ノ額ニ超過スル

第一千一百六條

遺贈者ノ負擔スル債務ノ額ニ超過スル

改正民法

前條ノ規定ニ違背シ遺言ト遺言後ハ生前處分其他ノ法律行為ト抵觸スル場合ニ
 之ヲ準用スル。前ノ遺言ト違背シ遺言ト相離スルハ其相離スル前ノ遺言
 第百二十六條 遺言者カ故意ニ遺言書ヲ毀滅シタルトキハ其毀滅シタ
 ル部分ニ付テハ遺言ヲ取消シタルモ以下看做ス遺言者カ故意ニ遺贈
 目的物ヲ毀損シタルモ亦同シ

第百二十七條 前三條ノ規定ニ依リテ取消サレタル遺言ハ其取消ノ行
 爲爲テ取消シタル又ハ效力不生セザルニ因リテ其效力ハ回復
 セズ但其行為カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ其效力ハ回復セザルニ在ラス

第百二十八條 遺言者ニ其遺言ヲ取消權ヲ拋棄スルコトヲ得
 第百二十九條 負擔附遺贈受遺者タル者其負擔ヲ履行セ
 サルトキハ相續人ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ確告シ若シ其期間内
 履行ナキモ其遺言ヲ取消スル裁判所ニ請求スルコトヲ得

第七章 遺留分

第百三十條 法定家督相續人及直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ
 財產中半額ヲ受ク此他ノ家督相續人ハ遺留分トシテ被相續人ノ財產ノ
 三分ノ一ヲ受ク

第百三十一條 遺產相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財
 產中半額ヲ受ク遺留分ノ受ク者又ハ直系卑屬ハ遺留分トシテ被
 相續人ノ財產ノ三分ノ一ヲ受ク

第百三十二條 遺留分ハ被相續人カ相續開始ノ時ニ其財產ノ
 價額ニ其贈與シタル財產ノ價額ヲ加ヘ其中ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ
 之ヲ算定ス

條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ハ裁判所ニ於テ選定シタル
 鑑定人ノ評價ニ從ヒテ之ヲ定ム

第百三十三條 贈與ハ相續開始前一年間ニ爲シタルモノニ限り前條ノ
 規定ニ依リテ其價額ヲ算入ス一年前ニ爲シタルモノト雖モ當事者雙方
 カ遺留分權利者ニ利害ヲ加フルコトヲ知リテ之ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百三十四條 遺留分權利者及ヒ其承繼人ハ遺留分ヲ保全スルニ必要
 ナル限度ニ於テ遺贈及ヒ前條ニ掲ケタル贈與ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得

第百三十五條 條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ヲ以テ贈與
 又ハ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其贈與又ハ遺贈ノ一部ヲ減殺ス
 ヘキハ遺留分權利者ハ第百卅二條第二項ノ規定ニ依リテ之ヲ定メタルニ

價格從七直チニ其幾部ノ價額ヲ受贈者又ハ受遺者ニ給付スルコトヲ要ス

第三百二十六條 贈與ハ遺贈ヲ減殺シタル後ニ非サレバ之ヲ減殺スルコト

第三百二十七條 遺贈ハ其目的ノ價額ノ割合ニ應シテ之ヲ減殺ス但遺言

第三百三十八條 贈與ノ減殺ハ後ノ贈與ヨリ始メ順次ニ前人贈與ニ及ス

第三百三十九條 受贈者ハ其返還スルコトヲ要ス

第三百四十條 減殺ヲ受クヘキ受贈者ノ無資力ニ因リテ生シタル損失ハ

第三百四十一條 負擔附贈與ハ其目的ノ價額中ヨリ負擔ノ價額ヲ控除シ

第三百四十二條 不相當ノ對價ヲ以テ爲シタル有償行為ハ當事者雙方カ

第三百四十三條 減殺ヲ受クヘキ受贈者及贈與ノ目的ヲ他人ニ讓渡シ

ルトキハ遺留分權利者ニ其價額ヲ弁償スルコトヲ要ス但讓受人カ讓渡

ノ當時遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リタルトキハ遺留分權利

者ハ之ニ對シテモ減殺ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ受贈者カ贈與ノ目的ニ上ニ權利ヲ設定シタル場合ニ之ヲ

準用ス

第三百四十四條 受贈者及ヒ受贈者ハ減殺ヲ受クヘキ限度ニ於テ贈與又

ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ遺留分權利者ニ弁償シテ返還ノ義務ヲ免ルルコ

トヲ得

前項ノ規定ハ前條第一項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百四十五條 減殺ノ請求權ハ遺留分權利者カ相續ノ開始及ヒ減殺ス

ヘキ贈與又ハ遺贈アリタルコトヲ知リタル時ヨリ一年間之ヲ行ハサル片

ハ時効ニ因リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三百四十六條 第九百九十五條、第一千四條、第一千五條、第一千七條及ヒ第

千八條ノ規定ハ遺留分ニ之ヲ準用ス

改正民法終

改正民法

民法中改正 (明治三十四年四月十二日) (法律第三十六號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

民法中左ノ通改正ス

民法第三百七十四條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ規定ハ抵當權者カ債務ノ不履行ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ放テ其最後ノ二年分ニ付テモ亦之ヲ適用ス但利息其他ノ定期金ト通シテ二年分ヲ超ユルコトヲ得ス

民法中改正 (明治三十五年四月四日) (法律第三十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

民法中左ノ通改正ス

第七百四十三條ハ左ノ二項ヲ加フ
家族カ分家ヲ爲ス場合ニ於ケル戸主ノ同意ヲ得テ自己ノ直系卑屬ヲ分家ノ家族ト爲スコトヲ得前項ノ場合ニ於テ直系卑屬カ滿十五年以上ナルトキハ其同意ヲ得ルコトヲ要ス

本法施行前ニ分家ヲ爲シタル者ハ其家ニ在リ直系卑屬カ意思能力ヲ有セザルトキハ法定代理人ノ代アリ民法第七百三十七條第一項規定ニ依リテ分家ノ家族ト爲ル手續ヲ爲スコトヲ得本法施行前ニ分家ヲ爲シタル者ノ直系卑屬ニシテ民法第七百三十七條ノ規定ニ依リテ分家ノ家族ト爲ル者ニ付テハ同法第九百七十二條ノ規定ヲ適用セズ但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

民法施行令

第一條 民法ノ施行ニ關シテハ本令ニ依リテ之ヲ行フ

第二條 民法ノ施行ニ關シテハ本令ニ依リテ之ヲ行フ

第三條 民法ノ施行ニ關シテハ本令ニ依リテ之ヲ行フ

第四條 民法ノ施行ニ關シテハ本令ニ依リテ之ヲ行フ

第五條 民法ノ施行ニ關シテハ本令ニ依リテ之ヲ行フ

第六條 民法ノ施行ニ關シテハ本令ニ依リテ之ヲ行フ

十七 同年第九十九號布告

十八 明治十年第五十號布告

十九 明治十四年第七十三號布告

二十 明治十七年第二十號布告

二十一 明治二十二年法律第九十四號財產委棄法

二十二 同年勅令第二百十七號辨濟提供規則

明治六年第十八號布告地所質入書入規則、第十一條ヲ除ク外民法施行

ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十條 民法不動産上ノ權利ニ關スル規定ハ當分ノ内之ヲ沖繩縣ニ施行

セス(明治二十九年三月改正ニ依リ削除)

第十一條 本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二章

總則編ニ關スル規定

第十二條 民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メ

ニ後見人ヲ附シタル者ハ其施行ノ日ヨリ禁治産者又ハ準禁治産者ト看

做ス後見人ハ民法施行ノ日ヨリ一个月内ニ禁治産者又ハ準禁治産者ノ

請求ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 後見人其他民法第七條ニ掲ケタル者ハ民法施行ノ日ヨリ一个

月内ニ禁治産又ハ準禁治産ノ請求ヲ爲サザルシトキハ其期間經過ノ後

ハ前條第一項ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ期間内ニ禁治産又ハ準禁治産ノ請求ヲ爲サザルモ裁判所ニ於テ之

ヲ却下シタルトキハ抗告期間經過ノ後若シ抗告スルモノハ其最後ノ

抗告棄却ノ時ヨリ又訴ニ於テ禁治産又ハ準禁治産ノ宣告ヲ取消シタル

トキハ其判決確定ノ日ヨリ前條第一項ノ規定ヲ適用セズ

第十四條 刑法第十條第三號、第三十五條、第三十六條、刑法附則第四

十一條、陸軍刑法第十八條第四號及ヒ海軍刑法第九條第四號、第二十

二條ハ之ヲ削除ス刑法第五十五條中「行政」處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾

分ヲ免スルコトヲ得但シ「二十」字及ヒ陸軍刑法第三十三條中「第三

十五條第三十六條」ノ十字ハ之ハ削除ス

第十五條 民法施行ノ日ニ於テ刑事禁治産者タル者ハ其施行ノ日ヨリ能

力ヲ回復ス

第十六條 民法施行前ヨリ刑事禁治産者ノ財產ヲ管理スル者ハ刑事禁治

産者又ハ刑事禁治産者カ定メタル他人ノ管理者カ其財產ヲ管理スルコト

ヲ得ルマテ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ管理者ハ民法第三百三條ニ定メタル權限ヲ有ス但刑事

禁產者カ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラズ別段ノ旨ハ出願書
 第十七條ノ民法第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ民法施行前ニ住所又
 ハ居所ヲ去リタル者ニ付テモ亦之ヲ適用スル其別段ノ旨ハ出願書ニ
 民法施行前ヨリ不在者ノ財産ヲ管理スル者ハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規
 定ニ從ヒテ其管理ヲ繼續ス

第十八條 民法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ民法施行前ヨリ生死分
 明ナラサル者ニモ亦之ヲ適用スル

民法施行前既ニ民法第三十條ノ期間ヲ經過シタル者ニ付テハ直チニ失
 踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ失踪者ハ民法ノ施行ト同時ニ
 死亡シタルモノト看做ス

第十九條 民法施行前ヨリ獨立ノ財産ヲ有スル社團又ハ財團ニシテ民法
 第三十四條ニ掲ケタル目的ヲ有スルモノハ其ノ之ヲ法人トス

前項ノ法人ノ代表者ハ民法第三十七條又ハ第三十九條ニ掲ケタル事項
 其他社員之ハ寄附者カ定メタル事項ヲ記載シタル書面ヲ作り民法施行
 ノ日ヨリ三個月内ニ之ヲ主務官廳ニ差出タシ其認可ヲ請フコトヲ要ス
 此場合ニ於テ主務官廳ハ其書面カ民法其他ノ法令ニ反スルトキ又ハ公
 益ヲ爲メ必要ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ認可ヲ得タル書面ハ定款又ハ寄附行爲ト同一ノ能
 カヲ有ス

第二十條 法人ノ代表者カ前條第二項ノ規定ニ從ヒ主務官廳ノ認可ヲ得
 タルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコ
 トヲ要ス

一 民法第四十六條第一項第一號及項第三號及ヒ第五號乃至第八號
 ニ掲ケタル事項

二 主務官廳ノ認可ノ年月日

前項ノ期間ハ主務官廳ハ認可書ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記ハ民法第四十六條第一項第一號
 及第二號ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記ト看做ス

第二十一條 第十七條第一項法人カ財産目録又ハ社員名簿ヲ備ヘサルト
 キハ民法施行ノ後遲滞カク之ヲ作ルコトヲ要ス

第二十二條 法人ノ代表者カ前條第一項規定ニ反シ認可ヲ受ケ登記ヲ爲シ
 又ハ財産目録若クハ社員名簿ヲ作ルコトヲ怠ラズルハ五圓以上三
 百圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十三條 第十九條第一項ノ法人カ其目的以外ノ事業ヲ専ラシメ認可
 改正民法

第三十八條 民法施行前ヨリ占有又ハ準占有ヲ爲ス者ニハ其施行ノ日ヨリ
 第三十九條 民法施行前ヨリ動産ヲ占有スル者カ民法第九十二條ノ條
 件ヲ具備スルハ其民法ノ施行ト同時ニ其動産ノ止ニ行使スル權利ヲ
 取得ス
 第四十條 遺失物ハ明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則第二條ニ
 因リ榜示ヲ爲シタル後一年ニ其所有者ノ知レサルトキハ民法施行前
 三其榜示ヲ爲シタル日ヨリ拾得者其所有權ヲ取得ス但漂着物ニ付テ
 明治八年第六十六號布告内國船難破及漂流物取扱規則ニ從テ
 第四十二條 埋藏物ニ附テハ特別法ニ施行スルニ至ルハ遺失物ト同一ノ時
 續ニ依テ民法施行前ヨリ民法第二百四十二條乃至第二百四十六條ノ
 規定ニ依テ其所有權ヲ取得ス但第三條ノ規定ニ從テ民法ノ施行ト同
 時ニ民法ノ規定ニ從テ其所有權ヲ取得ス但第三條ノ規定ニ從テ民法ノ
 權利ヲ妨ケタルハ其民法施行前ニ該物ノ出所ノ地ニ在リタルハ其

第四十三條 共有者其民法施行前ニ於テ五年ヲ超スル期間内共有物ノ分
 割ヲ爲スルハ契約ヲ爲シタル日ヨリ其契約ハ民法施行ノ日ヨリ五年ヲ
 超テタルハ其範圍内ニ於テ其效力ヲ有ス
 第四十四條 民法施行前ニ設定シタル地上權ニ存續期間ノ定メキモ
 裁判所ハ設定ノ時ヨリ二十年以上民法施行ノ日ヨリ五十年以下ノ範圍
 内ニ於テ其存續期間ノ定メキモ其契約ハ民法施行ノ日ヨリ五年ヲ
 地上權者カ民法施行前ニ於テ其存續期間ノ定メキモ其契約ハ民法施行
 其建物ノ存續期間ノ定メキモ其契約ハ民法施行ノ日ヨリ五年ヲ
 地上權者カ民法施行前ニ於テ其存續期間ノ定メキモ其契約ハ民法施行
 物ノ存續期間ノ定メキモ其契約ハ民法施行ノ日ヨリ五年ヲ
 第四十五條 外國人又ハ外國法人ノ爲メニ設定シタル地上權ニ付テハ
 命命別段ニ定メタル場合ニ限リ民法ノ規定ヲ適用ス
 第四十六條 民法第二百七十五條及第二百七十六條ノ期間ハ民法施行
 前ヨリ同條ニ定メタル事實ガ始メタル日ヨリ起算ス
 第四十七條 民法施行前ニ設定シタル永小作權ハ其存續期間ハ五十年ヲ
 長キ下キト雖モ其效力ヲ存ス但其期間ガ民法施行ノ日ヨリ起算ス

五十年ヲ超コトシテ其日ヨリ起算シテ五十年ニ短縮ス民法施行
 前ノ期間ヲ短キ場合ニ於テ外民法施行日ヨリ五十年ノ期間ハ慣習ニ依リ五
 十年ヨリ短キ場合ニ於テ外民法施行日ヨリ五十年ノ期間ハ慣習ニ依リ五
第四十八條 民法施行前ノ規定ニ從テ先取特權ヲ有スル者ハ先取特權ヲ有スヘカリ
 シ債權者ハ其施行日ヨリ先取特權ヲ有スル者ハ先取特權ヲ有スヘカリ
第四十九條 民法第三百七十七條ハ規定ハ民法施行前ニ抵當權ノ目的タル
 不動産ニ附加シタル物ニ於テ亦之ヲ適用ス
第五十條 民法第三百七十四條ノ規定ハ民法施行前ニ設定シタル抵當權ニ
 モ亦之ヲ適用ス但民法施行日ヨリ一年內ニ特別ノ登記ヲ爲シタル利
 息其他ノ定期金ニ付テハ元本ト同一ノ順位ヲ以テ抵當權ヲ行カド得
第五十一條 民事訴訟法第六百四十九條第二項及ヒ第三項ヲ改メ左ノ三
 項ト列ス
 一 債權者ハ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅スル
 不動産上ノ存存スル物ニ於テ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅スル
 留置權カ不動産上ノ存存スル物ニ於テ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅スル
 保不度債權ヲ辨濟スル責ニ任テ置ス
 質權及ヒ質權者ヲ對シテ優先權ヲ有スル者天債權ヲ辨濟スル責ニ任テ置
 價權及ヒ質權者ヲ對シテ優先權ヲ有スル者天債權ヲ辨濟スル責ニ任テ置

第六十三條 債權編シテ關スル規定ハ民法施行前ノ規定ニ從テ之ヲ削除ス
第五十三條 民法施行前ノ規定ハ民法施行後ニ至リ債務
 履行ノ規定ハ債權者ハ債務履行ノ規定ニ從テ之ヲ受クル
第五十四條 民事訴訟法第七百三十三條第一項ヲ左ノ如ク改ム
 民事訴訟法第七百三十三條第一項ヲ左ノ如ク改ム
第五十五條 民事訴訟法第七百三十四條ヲ左ノ如ク改ム
 民事訴訟法第七百三十四條ヲ左ノ如ク改ム
 債務ノ性質カ強制履行ノ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ
 因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間內ニ履行ヲ爲サザル
 小キハ其遲延ノ期間ニ應シテ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害
 賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス
第五十六條 金銭ヲ目的トスル債務ヲ負擔シタル者カ民法施行前ヨリ其
 履行ヲ怠リタルトキハ損害賠償ノ額ハ其施行日以後ハ民法第四百四
 條ニ定メタル利率ニ依リテ之ヲ定ム但民法第四百十九條第一項但書ノ

第五十七條 指圖證券、無記名證券及民法第四百七十一條に掲げタル

第五十八條 民法施行前ニ發生シタル債務、雖モ相殺ニ因リテ之ヲ免ル

第五十九條 民法施行前ニ遡リテ其效力ヲ生スル適シタルトキハ相殺

第六十條 第四十五條規定ハ外國人又ハ外國法人ニ土地ヲ賃貸シタル

第六十一條 刑法附則第五十四條乃至第六十條ハ之ヲ削除ス

第六十二條 民法施行前ニ親屬編ニ關スル規定ハ民法ノ規定ニ依ルハ家族タルコ

第六十三條 民法施行前ニ親屬編ニ關スル規定ハ民法ノ規定ニ依ルハ家族タルコ

第六十四條 民法施行前ニ親屬編ニ關スル規定ハ民法ノ規定ニ依ルハ家族タルコ

第六十五條 民法施行前ニ親屬編ニ關スル規定ハ民法ノ規定ニ依ルハ家族タルコ

第六十六條 民法施行前ニ親屬編ニ關スル規定ハ民法ノ規定ニ依ルハ家族タルコ

第六十七條 民法施行前ニ親屬編ニ關スル規定ハ民法ノ規定ニ依ルハ家族タルコ

第六十八條 民法施行前ニ親屬編ニ關スル規定ハ民法ノ規定ニ依ルハ家族タルコ

第六十九條 民法施行前ニ親屬編ニ關スル規定ハ民法ノ規定ニ依ルハ家族タルコ

第七十條 民法施行前ニ親屬編ニ關スル規定ハ民法ノ規定ニ依ルハ家族タルコ

第七十一條 民法施行前ニ親屬編ニ關スル規定ハ民法ノ規定ニ依ルハ家族タルコ

第七十二條 民法施行前ニ親屬編ニ關スル規定ハ民法ノ規定ニ依ルハ家族タルコ

第七十三條 民法施行前ニ親屬編ニ關スル規定ハ民法ノ規定ニ依ルハ家族タルコ

第七十四條 民法施行前ニ親屬編ニ關スル規定ハ民法ノ規定ニ依ルハ家族タルコ

第七十五條 民法施行前ニ親屬編ニ關スル規定ハ民法ノ規定ニ依ルハ家族タルコ

第七十六條 民法施行前ニ親屬編ニ關スル規定ハ民法ノ規定ニ依ルハ家族タルコ

第七十七條 民法施行前ニ親屬編ニ關スル規定ハ民法ノ規定ニ依ルハ家族タルコ

民法施行法

二五三